

## 5 第二次提案の提出と日蘭会商の打切り

560

昭和16年4月2日

近衛臨時外務大臣事務管理より  
芳沢日蘭会商代表宛(電報)

わが方第二次提案提出は国際情勢の展開を待  
つべきであり松岡外相訪欧中の芳沢代表帰朝  
は差し控えるべき旨回訓

本省 4月2日後6時発

會商第七七號(至急、館長符號扱)

貴電會商第一四四號ニ關シ

一、往電第六八號ハ萬一國際情勢ガ現状ノ儘ニテ動カザルニ  
於テハ結局貴電第一二五號ノ如キ協定ニ落着クノ外無カ  
ルベキモ今直チニ其ノ程度迄讓歩スルノ要無カルベク今  
後ニ於ケル國際狀勢ノ展開ヲ待チテ善處セントスル趣旨  
ナル處確實ナル情報ニ依レバ蘭側ニ於テハ我方代表部カ  
全面的ニ讓歩的態度ニ出テ居ルモノトナシ寧ロ奇異ノ感  
ヲ懷キ居ル模様ニテ今我方ガ貴代表ト「モ」長官トノ本  
筋交渉未ダ一回モ行ハレザルニ大体下交渉ニ於ケル蘭側

主張通りノ妥協案ヲ提出スルハ面白カラズト思考セラル  
ニ、通商問題ニ關スル交渉ノ懸引上入國企業等ノ問題ニ關ス  
ル我方原案ヲ固執スベシトノ謂ニ非ズ入國企業問題ニ付  
テハ我方トシテ前項ノ如キ事情アルノミナラズ早急解決  
容易ナラザルベキニ依リ差當リ交渉ノ重點ヲ我方トシテ  
至急解決ヲ必要トスル通商問題殊ニ物資買付ニ移行シテ  
寧ロ之ガ先決ヲ圖リ入國企業問題ニ關シテハ必要アラバ  
今少シク我方原案ニ近キ第二次案ヲ提出シテ出來得ル限  
リ多ク我方主張ヲ達成スルニ努ムルコトトシ其ノ間國際  
情勢ノ推移ニ付テモ大体ノ見透シヲツケタル上我方態度  
ヲ決定セントスル方針ナリ

三、代表部ハ内外ニ對スル政治的考慮ヨリ當分其ノ存續ヲ必  
要トスルノミナラズ軍側機關ノ引揚ヲ出來ル丈延期スル  
ノ要アル點モ御推察相仰度シ  
尚目下松岡外相世界ノ視聽ヲ浴ヒツツ歐洲ニ於テ活動中ニ  
モアリ我方ニ於テ此處暫ク靜止スル必要アル折柄一時的ニ

モセヨ貴代表ノ御歸朝ハ各方面ヲ刺戟スル惧アルニツキ甚  
ダ御苦勞ナガラ御取止相願度ク枉ケテ御了承ヲ乞フ



561 昭和16年4月5日

芳沢日蘭会商代表より  
近衛臨時外務大臣事務管理宛(電報)

### 第二次提案に関する回訓には納得できず詳細

### 協議のため帰朝許可方再度請訓

バタビア 4月5日前発

本省 4月5日前着

會商第一五〇號(館長符號扱、至急)

貴電<sup>(1)</sup>會商第七七號二關シ

一、國際情勢ノ轉回ヲ待ツテ善處セラレントスル御趣旨ハ一  
應御尤モト思考スルモ蘭側ノ態度ハ英帝國力完全ニ瓦解  
シ米又對英援助ヲ斷念スルカ如キ事態起ラサル限り到底  
軟化スルコトナク國際情勢カ現狀ノ儘ニテ動カサルニ於  
テハ益々對獨勝利ノ自信ヲ固メ對日態度ハ一層硬化スヘ  
ク又萬一國際情勢ノ發展カ多少トモ御期待ニ副ハサル方  
向ニ進ム場合ニハ更ニ硬化シテ往電第一二五號ノ案スラ  
一蹴スルヤモ計リ難キニ付可成早目ニ妥結ヲ計ル方得策

ト認ムル次第ニシテ此ノ點本使ノ觀測ハ政府ノ御見解ト  
相違スルモ政府ニ於テ飽迄現在ノ如キ見解ヲ執ラルルモ  
ノトセハ是又致方ナキ次第ナルカ徒ニ妥結ノ延期ヲ策ス  
ルモ今後蘭側ヨリ交渉ノ中止ヲ求メ來ルコトアルヤモ計  
リ難キノミナラス交渉ノ遷延ニ伴ヒ我方ニ種々面白カラ  
サル問題生スルコトアルヘキハ想像ニ難カラス尙我方ヨ  
リ蘭側ニ對シ何等全面的讓歩ヲ暗示シタルコトモナク話  
合ハ石澤「ホ」間ニ突張合ヒトナリ居レル儘ナレハ第三  
國邊ニテ行ハルル評判ノ如キハ何等意ニ介スル必要ナク  
我方トシテハ我方ノ適正ト認ムル態度ヲ保持スレハ可ナ  
リト信ス又下交渉ニ専ラ石澤ヲシテ當ラシメタルハ専門  
的知識ヲ基礎トスル商議ニ付テハ石澤ノ方カ本使ヨリ適  
任ナルカ故ニテ下交渉ト云フモ本使ノ責任ノ下ニ於ケル  
交渉ニシテ此ノ點ハ大橋次官トハ話合ヲ遂ケ置キタル處  
ナリ又往電第一二五號ノ妥協案ハ蘭側主張通りノ案ニア  
ラスシテ彼丈ノ協定ヲ作り置ケハ我方ノ實力充實スルニ  
應シ入國企業ニ關シ今後我方ノ必要ト認ムル具體的要求  
一步一步貫徹スル基礎モ又言掛リトナリ得ル次第ニシテ  
過去ニ鑑ミ相當ノ改善ナリト信シ我方ニ於テ作成セルモ

ノナリ

二、政府ニ於テ物資買付ニ重點ヲ置カルル次第ハ本使トシテモ充分心得居リ石澤ヲシテ「ホ」ニ對シ本問題ハ蘭側態度如何ニ依テハ日蘭印間大摩擦ノ原因トナル惧アリト迄言切ラシメタルカ蘭側トシテハ日本側最近ノ親獨傾向殊ニ松岡大臣ノ伯林羅馬ニ於ケル演說ノ結果日本ハ愈積局的ニ獨逸ヲ援助スルモノナリト見極メ日本ヘ輸出セラルル蘭印物資ノ對獨再輸出阻止ヲ以テ不充分ナリトシ蘭印物資ヲ對日輸出スル結果之ニ代ルヘキ第三國品カ獨ニ輸送セラルルコトモ斷シテ許容シ難シトノ肚ヲ定メ居レリ從テ蘭側ハ五品目ハ勿論更ニ制限品目ヲ擴大セントスル懸念アリ而モ右方針ハ獨力歐洲ニ於テ或程度ノ優勢ヲ示スニ至ル位ニテハ變更セサルノミナラス却テ之ヲ強化スルニ至ルヘク最早口頭ノ議論ヲ以テシテ蘭側ノ態度ヲ改メシムルコト到底不可能ナリト存ス此ノ點ニ付テハ政府ニ於テモ當領ノ決意ニ對シ認識ヲ深メラルルコト切望ニ堪ヘサルト共ニ往電第一四一號ニ對スル御意嚮判明セサル限り交渉ノ進メ方モナキ次第ニ付至急御回電ヲ請フ

三、冒頭貴電中三ニ付テハ軍側機關ノ引揚ヲ出來ル丈ケ延期

シタシトノ御希望ハ御尤ト存セラルルモ蘭側ハ何日迄モ便々ト我代表部ノ存續ヲ辛抱スル筈ナク交渉妥結ノ望ナシト見レハ代表部引揚ノ請求ヲ爲シ來ルコト言ヲ俟タサル所ニシテ斯クナリテ已ムヲ得ス之ニ應スル外ナキコトトモナラハ眞ニ醜態ナリト思考ス實ハ此ノコトニ付テハ昨年十一月松岡大臣ヨリ屢出馬ノ懇請ヲ受ケタル際何等言及セラレス又出發前軍部大臣ヨリモ一言之ニ觸レラレタルコトナク今ニ至ツテ軍機關存續ノ爲本筋タル交渉ノ妥結ヲ延期セントセラルルカ如キハ本使ノ理解シ難キ所ナリ尤モ軍側ノ立場ハ深ク諒察スルニ付例ヘハ交渉力四月下旬迄ニハ纏ルヘキモノヲ本使ノ裁量ニ依リ五月中旬迄之ヲ遷延セシムルト云フカ如キ程度ナラハ本使ニ於テモ異存ナキ所ナリ

四、要スルニ御來示ノ各事情ハ充分納得シ難ク此ノ際親シク御協議申上ケタキニ付兎ニ角一時歸朝方御許可アリタク何分ノ儀御回電ヲ請フ

昭和16年4月5日

近衛臨時外務大臣事務管理より  
芳沢ノ蘭会商代表宛(電報)

通商問題に関するわが方修正案につき回訓

別電

昭和十六年四月五日発近衛臨時外務大臣事務  
管理より芳沢日蘭会商代表宛会商第八一号

わが方の蘭印物産買付量に関する別表案

本省 4月5日後7時発

會商第八〇號(極秘、大急、館長符號扱)

貴電第一二八號ニ關シ

蘭側ヲシテ我要求ヲ認メシムルコトノ至難ナルハ萬承知致  
居ルモ關係官民共ニ日、蘭印間ノ輸出入ニ關スル協定及在  
蘭印邦商ノ輸入比率増加ニ付テノ協定ヲ成立セシメ度熱望  
シ居ルニ鑑ミ本省ニ於テモ關係各省ノ協力ヲ求メ不急品ト  
認ムル物産マテモ相當多量ノ買付方承認ヲ取付ケタル次第  
ニシテ之ニ依リ日、蘭印間ノ貿易尻豫想ハ著シク蘭印側ニ  
有利ニ轉換スルモノト思考セラル而シテ我方ニ於テハ冒頭  
貴電御來示ノ通本年四月一日ヨリ向フ一ケ年間蘭印物産ノ  
買付方確約スヘキヲ以テ蘭側ヲシテ其間本邦製品ニ對スル  
買付量ヲ確約セシメラレ度

又蘭側カ外國商社カ其在留國多數ノ輸入品ニ對シ二割五分  
内外ノ輸入權ヲ握リ居ルカ如キハ世界中他二見サル所ナリ  
ト稱シ居ルモ通商上日、蘭印關係ハ他二見サル特種ノ狀態  
ニ在リテ例ヘハ本邦ニ在ル蘭商ハ綿糸布、陶磁器、絹、人  
絹等ノ主要輸出組合ニ於ケル對蘭印輸出ニ付テハ高度ノ輸  
出比率ヲ握リ居ルカ如キ實情ナリ然シ此等ノ仔細ナル點ニ  
互ル論議ハ避クルトシテモ蘭商ノ我輸出組合加入問題(往  
電第七一號參照)ヲ繞リ兎ニ角邦商ノ輸入比率増加ハ此際  
如何ニモシテ貫徹致度就テハ冒頭貴電ノ(一)(イ)以下左記ニ依  
リ御檢討ヲ加ヘラレ蘭側ニ對スル第二案トシテ之ニ基キ更  
ニ交渉方御盡力相煩度

(一)(イ)日本品ノ輸入ニ對シ別表ノ通割當ヲ爲ス

別表ハ曩ニ蘭側ニ御提出相成タルモノニ對シ御裁量ニ  
依リ多少ノ修正ヲ加ヘラレ差支ナキモ若シ修正セラル  
ル場合ハ其部分詳細電報相成度

(ロ)在蘭印日本商ノ輸入比率ヲ最高三割最低一割トスルコ  
ト

最低一割トスルナラハ第三國品ノ割當量ヲ義務輸入ト  
スルモ邦商ハ之ヲ實行シ得ルカト存セラルル處實際上

ノ利害ニ付御意見アレハ回電セラレ度

(二)日本ハ別表(別電第八一號ノ通)掲記ノ通蘭印產物ヲ輸入スヘキニ付其對日輸出ヲ必ス且ツ速カニ實行スルコト尤モ別表中ノ所謂五品目ニ付貴電第一四一號ノ通蘭側カ飽迄帝國政府ノ保障ヲ要求スル場合ハ「日本國內ノ需要ニ當ツルモノニシテ決シテ第三國ニ再輸出セス」トノ保障ヲ與フルモ差支ナシ

尙別表掲記ノ品目中(1)蘭側ノ買増ヲ好ムヘシト思考スルモノニ付テハ「増量詮議ノ餘地アリ」(2)我最小限度トシテ買付度モノハ「最低」(3)多少ノ増減差支ナキモノハ「三割内外増減」等ノ註ヲ加ヘ置タルニ付(3)ニ關シテハ專<sup>(ニ)</sup>御裁量ニ依リ適宜取捨<sup>(ニ)</sup>ノ上決定セラレ(1)ノ買増所要數量ト共ニ回電相成度

冒頭貴電(三)及(四)ニ付テハ御來示ノ通諒承ス

(別電)

本省 4月5日後7時発

會商第八一號(極秘、大急)

一、珈琲一千廔(以下廔省略)(一、〇〇〇)(増量餘地アリ)

二、南洋材六萬五千(六五、〇〇〇)(三割内外増減)  
三、縞黑檀三百四十(三四〇)(増量餘地アリ)

四、樹脂一千四百五十(一、四五〇)(三割内外増減)

五、「カボツク」種付ヲ含ム二千(二、〇〇〇)(増量餘地アリ)

六、「カボツク」種子、棉子五千五百(五、五〇〇)(三割内外増減)

七、玉蜀黍最低八萬(八〇、〇〇〇)

八、「コプラ」已ムヲ得サレリ最低三萬五千(三五、〇〇〇)

九、「カツサバ、ルート」最低八千(八、〇〇〇)

一〇、籐一千(一、〇〇〇)(三割内外増減)

一一、「パーム」油最低三萬(三〇、〇〇〇)

一二、「プリキ」屑最低三千(三、〇〇〇)

一三、製綿用棉花一千六百(一、六〇〇)(三割内外増減)

一四、「タンニン」材最低四千(四、〇〇〇)

一五、砂糖、協定成立ノ見込アレハ二十萬(二〇〇、〇〇〇)

(之以上必要ヲ認メラルル場合ハ電報アリ度)

一六、生護謨最低三萬(三〇、〇〇〇)

一七、錫地金最低八千(八、〇〇〇)

一八、錫鑛石最低三千六百(三、六〇〇)(七割三分以上ノモノ)

一九、「ボーキサイト」最低四十萬(四〇〇、〇〇〇)

二〇、「ニツケル」鑛最低十八萬(一八〇、〇〇〇)

二一、滿俺鑛最低二萬七千(二七、〇〇〇)

二二、工業鹽最低十萬(一〇〇、〇〇〇)

二三、「ヒマシ」最低一萬(一〇、〇〇〇)

二四、規那皮最低一千(一、〇〇〇)

二五、「キニーネ」最低四十(四〇)

二六、鑛油最低二百萬(二、〇〇〇、〇〇〇)(既契約分ヲ除キ

新規買付分)(往電第六四號ノニ參照)

二七、黃麻一千三百(一、三〇〇)(三割内外増減)

二八、「ピツチ、コークス」最低四萬五千(四五、〇〇〇)

二九、糖蜜六萬(六〇、〇〇〇)(三割内外増減)

三〇、「サイザル」四萬(四〇、〇〇〇)(三割内外増減)

三一、屑鐵、「モリブデン」鑛、「クローム」鑛、「タングステ

ン」鑛、雲母(高級品)ニ付テハ對日輸出上蘭印政府ハ積

極的ニ増量方努力スルコト

三二、蜜臘<sup>(蠟カ)</sup>三十二萬圓(以下圓省略)(三二〇、〇〇〇)

三三、豆類十五萬(一五〇、〇〇〇)

三四、「ココア」八萬(八〇、〇〇〇)

三五、貝殼十萬(一〇〇、〇〇〇)

三六、蒟蒻芋十五萬(一五〇、〇〇〇)

(右三二ヨリ三六マテハ三割内外増減)

~~~~~

563 昭和16年4月8日 在バタビア石沢総領事より  
近衛臨時外務大臣事務管理宛(電報)

松岡外相の独伊訪問は蘭印との關係調整を益々  
困難にしているところ日蘭会商と対独提携強化  
の機微なる關係につき見解回示方請訓

バタビア 4月8日前発  
本 省 4月8日後着

第二七二號(至急、館長符號扱)  
大橋次官へ

一、總督ノ政治的「アドバイザー」トシテ重キヲ爲ス本官舊  
知ノ官房長官「イデンブルグ」ト最近面談ノ機會ヲ得タ  
ルニ付國際情勢及日蘭關係ニ付意見ノ交換ヲ試ミタルカ  
「イ」カ個人ノ意見及信念ナリトテ述ヘタル部分ハ大要

左ノ通りナリ(新聞等ニ洩レサル様御願ヒス)

(イ) 歐洲戦争ニ關シテハ英ノ勝利ニ終ルコト疑ナキモ英獨何レカ勝ツヤハ和蘭人ノ感情ヨリ言ヘハ最早問題ニアラス唯「ヒトラー」ノ治下ニ獨立ト自由ナキ生活ヲ續クルコリハ寧口死ヲ賭シテモ孫子ノ代迄戰ヒ拔カント欲スル一念アルノミ

(ロ) 蘭本國復興ニ對スル英ノ協力態度ハ眞面目ナルヲ以テ吾人ハ之ニ全幅ノ信賴ヲ置キ居ルモノナルカ英ト雖吾人ヲ裏切ルカ如キコトアラハ獨ニ對スルト同様戰フヲ辭セサルモノナリ

(ハ) 自分ハ本來日本ノ精神文化ニ尊敬ノ念ヲ抱キ居ルモノニシテ同時ニ日蘭間ニハ其ノ經濟的關係ヲ困難ナラシムル本質的原因ナシト信シ居レリ然ルニ歐洲戦争其ノモノ及之ニ對スル日本ノ動向ハ右關係ヲ困難ノ淵ニ追込ミツツアリ

(ニ) 日本ノ要求セラルル物資カ國內消費タルコト明確ナル限り蘭印ヨリノ輸出ヲ制限スルカ如キコトハ夢想タニモセサリシ所ナリシカ今日トナリテハ蘭印物資ヲ輸出スルコトニ依リ之ニ代リ日本品又ハ第三國品カ獨ニ

輸送セラルル結果トナルコトモ對獨關係上斷シテ許容出來ス

(ホ) 日本カ獨ト同盟セルハ返ス返スモ残念ナリ松岡外相カ日本外交史上ノ先例ヲ破リ伯林羅馬ニ出馬セラレ然モ獨逸ニ對スル積極的援助ヲ表明セラルルニ至リタル今日ニ於テハ日蘭關係ノ明朗化ハ期待困難ナリ

(ヘ) 芳澤全權及貴總領事カ此ノ困難ナル時機ニ來任セラレタルハ蘭側一般ノ歡迎シタル所ニシテ其ノ努力ニ期待シ居リタル次第ナルカ現在ノ如キ方向ニ總テハ動キツツアリテハ自分ニモ妙案ナク如何トモ致シ難シ

(2)  
(二) 次カ

「イ」ハ對獨關係對日物資輸出及歐洲ニ於ケル松岡大臣演說ニ觸ルルヤ平素穩健ヲ以テ定評アル彼モ顔面朱ヲ注キ全身ヲ振ルハ七異常ナル興奮ヲ示シタル有様ニシテ又過日「ホ」ハ日本ノ眞意カ蘭印ニ對シ對獨援助ノ結果トナルヘキ物資ヲ送レト要求シ聞カレサレハ武力ニ訴ヘント云フニアラハ是亦已ムヲ得サルヘシ蘭印ハ其ノ信スル所ニ依リ進マンノミト言明セリ

前記ノ次第竝ニ其ノ他ノ本官接觸圈ヨリ得タル印象ニ依レハ蘭側ノ腹ハ既ニ定マリ居リ對日態度ハ最近更ニ硬化



シツツアリテ歐洲戰爭ノ或程度ノ變化位ニテハ軟化スルモノトハ思ハレス本官トシテハ本邦出發直前松岡大臣ト御打合ノ趣旨ニ基キ三國同盟ノ目的ハ其ノ條文ニ明カナル通り日本カ積極的ニ獨伊ヲ助クヘキ義務ヲ約束セルモノニアラサル所以ヲ指摘シ又會商下交渉ニ於テモ全權ト御打合ノ上右趣旨ヲ骨子トシ蘭側ニ對シ日蘭關係緊密化カ双方ノ利益ナルコトヲ強調シ來リ蘭側モ亦之ヲ或程度諒トシ居リタル次第ナリ然ル處松岡大臣ノ樞軸國御訪問ハ蘭側ニ對シ日本カ三國同盟條文ノ範圍ヨリ更ニ一步ヲ進メ積極的ニ獨逸ヲ援助スルモノナリトノ深刻ナル印象ヲ與ヘ最早何人カ説クモ蘭側ヲシテ我方トノ提携論ニ耳ヲ傾ケシムルコト困難ナルニ至レリ事茲ニ至リタルカラニハ單ニ國際情勢ノ轉換ニ期待ヲ繫キ居ルノミニテハ頗ル重大視セラレ居ル必需物資ノ買付スラ不可能トナルヘキヲ怖ル要スルニ蘭印トノ關係調整ヲ重大視セラルル次第ナラハ對獨援助「ヂエスチヤー」ハ有害ナリ又獨トノ提携強化ヲ示スコトニ依リ蘭印ノ軟化ヲ期待セラルルトセハ其レハ誤算ナリ此ノ邊ノ機微ナル關係ニ對シ本省ノ御考ハ最近如何ナル傾向ニアル次第ナルヤ至急御電示請

フ

564

昭和16年4月8日

近衛臨時外務大臣事務管理より  
芳沢日蘭會商代表宛(電報)

第二次提案提出は対日輸出量に関する交渉結果を待つて検討し芳沢代表の帰朝は松岡外相帰朝まで延期方回訓

本省 4月8日午後11時40分発

會商第八三號(極秘、大急、館長符號扱)

貴電第一五〇號ニ關シ

往電第四〇及八〇號ニテ御承知ノ通我方トシテハ重要物資ノ解保力<sup>(確カ)</sup>焦眉ノ急務ナルト共ニ一般通商問題ニ付何ントカ具體的協定ニ到達致度之カ爲折角相當多量ノ犠牲的買付ヲ覺悟シタルコトナレハ此際前記往電ノ案ニ依リ全般的對日輸出货量ノ増大方ニ付此上共御盡力相煩度

而シテ入國及企業問題ニ付テハ必スシモ我方原案ヲ固執スルモノニ非サルモ之カ妥協案ハ右通商交渉ノ結果ヲ見タル上検討致度何レニシテモ本件結果ノ「デリケート」ナル性質ニ鑑ミ本月二十日頃歸朝ノ豫定ナル松岡大臣ノ裁斷ニ待



チ度ニ付洵ニ申上兼タルモ一時御歸朝ノコトハ同大臣ノ歸朝マテ御延期願度

~~~~~

565

昭和16年4月18日

芳沢日蘭会商代表より  
近衛臨時外務大臣事務管理宛(電報)

対独供給のおそれある軍需物資の対日輸出割増増加には応じられない旨蘭側回答について

バタビア 4月18日後発

本省 4月19日前着

會商第一六八號(館長符號扱)

<sup>(1)</sup>十七日「ホ」ハ石澤ニ對シ重要物資對日輸出問題ニ付和蘭政府ノ訓令ニ依ル趣ヲ以テ大要左ノ通り通告セル由ナリ

(イ)和蘭ハ生死ヲ賭シテ戰爭中ナルニ付軍需用蘭印物資カ獨逸ニ供給セラルルコトヲ防止スル要アルハ勿論石物資ノ對日輸出ニ依リ日本及第三國物資ノ對獨供給ヲ直接間接ニ助クルカ如キ結果ヲ來スコトヲ極力防止スル要アルニ至レル處右目的達成ニハ割當制度ヲ實施スル外ナク對日輸出货量ハ戰前ノ數字ニ依リ日本國內需要ト

推定セラルル限度ニ限定スル外ナシ右ニ關シテハ貴官ヨリ需要ノ増大ニ付キ御説明アリタルモ右ハ遺憾ナラ和蘭政府ヲ納得セシムル能ハス

(ロ)依テ和蘭政府ハ軍需物資トシテ既ニ對日割當ヲ定メタルモノ(總領事發往電第二二六號參照)ニ付テハ其ノ増量ヲ認ムル事不可能ナル事右割當量ハ將來對敵取引防止ノ見地ヨリ必要ト認ムル時ハ之ヲ更ニ減少スル事アルヘク尙右以外ノ軍需物資ニ付テモ將來割當制ヲ適用スル權利ヲ留保スルモノナルコトヲ明白ナラシメ置キ度

(ハ)追テ右ハ和蘭獨自ノ戰時措置ニシテ英米ノ對日經濟封鎖政策ニ對スル參加ヲ意味スルモノニアラサルコトヲ強調シ置キ度シ

<sup>(2)</sup>依テ石澤ヨリ右蘭側態度決定ニハ植相及外相モ議ニ預リシ次第ナルヤト反問セル處「ホ」ハ直答ヲ避ケ和蘭政府ノ決定セル所ナリト述ヘタルニ付石澤ハ日本ノ要求カ國內需要ノ爲ニシテ對獨再輸出ノ爲ニ非サルコトハ屢次説明ノ通りナルカ右ニ付テハ必要トアラハ日本政府ニ於テ明確ナル保證ヲ與フル様進言セムカト考ヘ居タル處右保

證アル場合モ我方要求ノ受諾ハ不可能ナリヤト確メタル  
處蘭印物資ニ付テ保證アルモ佛印、「タイ」等ノ物資ヲ  
對獨供給用ニ充當セラルル可能性アルニ付蘭印物資ノミ  
ニ關スル保證ヲ以テシテハ受諾不可能ナリ貴官トハ長期  
間ニ亘リ御互ニ何等ノ懸引ヲ用フルコトナク率直ニ交渉  
ヲ續ケ居タルコトハ欣快ニ堪エサル處歐洲戰爭及國際情  
勢上事茲ニ至リタルハ感情的ニハ眞ニ遺憾ナルカ國策上  
已ムヲ得サル次第ナリ乍併右ハ對獨供給ノ惧アル軍需物  
資ニ付テノミノコトニシテ約束量ノ石油其ノ他ノ物資ニ  
付テハ特別ナル新事態ノ生セサル限り最善ヲ盡シ對日輸  
出ヲ圓滑ナラシムヘク努力スル用意アリ之ヲ要スルニ日  
本ト蘭印トノ經濟關係ハ平時ナラハ蘭側トシテモ三百年  
ノ友好關係ニ鑑ミ如何様ニモ歩ミ寄りニ依ル調整方法ヲ  
考ヘ得ルモ喰フカ喰ハレルカノ戰ヲナシ居ル今日ニ於テ  
ハ日本側ヲ満足セシムルコトハ不可能ニシテ總テハ戰爭  
終了後迄御待チ戴クヨリ外ナシト述ヘタルニ付石澤ハ日  
本カ最モ重要性ヲ置キ居レル物資問題ニ關シ蘭側カ自己  
ノ見解ヲ固執シ數句ニ亘リ説明セル所ヲ全然容レサルハ  
不滿ニ堪ヘサル所ナリ又英米ノ對日經濟封鎖政策ニ參加

スルモノニアラスト言ハルルモ今次蘭側回答ハ實質ニ於  
テ右政策參加ノ第一歩ト言フ外ナシ本件ハ本邦ニ對シ重  
大ナル反響ヲ及ホスヘク日蘭兩國關係カ如何ナル危險ニ  
直面スルニ至ルヤ豫測シ難シ兎モ角詳細全權ニ報告ノ上  
我方態度ヲ決定シタシト述ヘ置キタル趣ナリ  
事態少クトモ重大ト認ムルニ付本使ハ十九日「モ」長官  
ニ會見ノ上再考ヲ求ムル積リナルモ不取敢

~~~~~

566

昭和16年4月19日

芳沢日蘭會商代表より  
近衛臨時外務大臣事務管理宛(電報)

### 蘭印重要物資の対日輸出割当増加に関し蘭印

#### 經濟長官へ再考方要請について

バタビア 4月19日後発

本省 4月20日前着

會商第一七二號(館長符號拔、至急)

往電會商第一六八號ニ關シ

十九日「モ」ヲ訪問(「ホ」同席)十七日「ホ」ヨリ石澤ニ  
對シ重要物資對日輸出問題ニ關スル和蘭政府ノ決定ヲ口頭  
ニテ通告セラレ本使ハ石澤ヨリ早速報告ヲ受ケタル處本件

ハ我方ニ於テ非常ニ重キヲ置ク問題ニテ貴政府今回ノ決定ハ石澤ヨリ「ホ」ニ對シ述ヘタル通り甚タ遺憾ノ至ナリ和蘭カ生死ヲ賭シ戰爭ニ從事セラルル爲獨逸向軍需品ノ輸出ヲ防止セントセラルル方針ハ良ク了解シ得ル所ナルモ我方ニ於テハ獨逸ニ再輸出セサルコトヲ保障セントスルモノナラニ拘ラス飽迄嚴格ナル態度ヲ執ラルルハ少シク行過ニアラスヤ貴政府ノ決定ヲ再考セラレンコトヲ切望スル次第ナリト述ヘタル處「モ」ハ實ハ一九三七年ノ石澤「ハルト」協定ノ實施振ニ付テハ日本政府ノ態度ニ對シ蘭側トシテハ鮮カラス遺憾ノ念ヲ懷クモノニテ砂糖ノ如キハ結局日本側ノ輸入皆無トナリタルモ日本側カ支那事變ノ爲已ムヲ得サル結果ナリト説明セラルル爲蘭側ニ於テモ餘リ苦情ヲ持出サス忍耐シ來リタル次第ナルカ今回ノ歐洲戰爭ハ支那事變ニ對スル日本ノ關係トハ程度ニ於テ非常ノ差異アリ我女皇陛下及政府ハ英京ニ移轉シ本國ニハ數百萬ノ國民獨逸ノ占領下ニ呻吟シ居リ我々和蘭人トシテハ此ノ戰爭ニ付テハ是非共生命ヲ賭シテ勝利ヲ博セサルヘカサル立場ニアリ從テ凡ソ利敵行爲ト思ハシムルモノハ一切之ヲ阻止スル必要ニ迫ラレ居ル次第ニテ我政府今回ノ決定ハ決シテ特ニ日本

ノ不利ヲ計ラントスルモノニアラスシテ此ノ戰爭期間中日本ノ要求ニ係ル重要物資ニ付テハ眞ニ日本ノ國內需要ト認メラルル以上ノ數量ヲ日本ニ供給スルコトハ到底承諾シ難ク折角ノ御申出ナルニ付政府ニ於テ再考ヲ試ミルトシテモ「マチリヤルチエンデ」ヲ施スカ如キコトハ到底不可能ト御承知アリタシト答ヘタルニ付本使ハ此ノ問題ハ要スルニ數字ノ問題ニテ例ヘハ錫ハ我方ノ要求額ハ一萬噸ナルニ對シ蘭側ノ決定ハ三千噸ナル處若シ之ヲ五千噸ニ引上ケ得ル場合ニハ

蘭側<sup>(2)</sup>トシテハ差引二千噸ハ日本ヨリ西比利亞經由獨逸ニ赴クモノト認メラルル次第ナリヤ恐ラク五品目ノ各種類幾何噸ハ獨逸ヘ再輸出サルモノトハ斷言シ難カルヘシ果シテ然ラハ尙若干噸ヲ讓歩シテ我方ノ要求量ニ歩ミ寄ラルルコト不可能トハ思ハレスト述ヘタル處「モ」ハ日本ノ新勢力範圍ニ屬スル佛印乃至「タイ」ヨリ生産スル品物ヲ獨逸ニ再輸出セラルル場合ハ同シ結果ヲ生スヘシト述ヘタルニ付本使ハ再輸出セル證據アリヤト尋ネタル處「ホ」ハ戰爭中ハ當該品ハ如何ナル代價ヲ拂フトモ軍需品買取りニ狂奔スルハ當然ニテ如何様ニモ商人ノ手ヲ經テ輸送シ得ヘシト述

へ尙兩人ト本使トノ間ニ隨分突込ミタル議論ヲ戰ハシタル  
モ蘭側ニ於テハ其ノ態度ヲ變更セサルニ付兎ニ角一昨日ノ  
御決定ハ我方トシテハ到底承復<sup>承</sup>シ難ク何トカ多少トモ歩ミ  
寄ラルル様和蘭政府ノ再考ヲ要求スルモノナリト述ヘタル  
處「モ」ハ然ラハ政府ノ議ニ附スル事トスヘシ但シ前述ノ  
通り「マチリヤル、チエンヂ」ハ望ミ難シト御承知アリ度  
シト答ヘタルニ付出來得ルタケ「マチリヤル」ナランコト  
ヲ望ムト述ヘタル處「モ」ハ重要物資以外ノ問題ニ關スル  
日本側ノ御意見ハ何時承ルヲ得ヘキヤト尋ネタルニ付本使  
ハ松岡大臣ハ二十二日着京ノ豫定ニ付其ノ後數日ニシテ訓  
令ヲ得ヘキカト思ハルルニ付多分今月下旬ニハ本使ハ再ヒ  
貴長官ヲ訪問スヘク爲念伺ヒ置キ度キハ重要物資ノ問題ハ  
戰爭關係ノ故ヲ以テ貴方ニ於テハ非常ニ嚴格ナル態度ヲ示  
サルルモ其ノ他ノ問題ニ付テハ斯ノ如キ態度ヲ執ラルルコ  
トナカルヘシト思ハルト述ヘタル處「モ」ハ苦笑シテ然リ  
ト答ヘタル上重要物資問題ニ關スル政府再考ノ結果ハ新提  
案御提出ト關聯スルヤト尋ネタルニ付本使ハ必スシモ然カ  
ラス然乍ラ日本政府ニ於テモ之ノ問題ヲ非常ニ重要視シ且  
急キ居ルニ付數日ノ内ニ何分ノ御回答ヲ望ムト述ヘタル上

引取りタリ

567

昭和16年4月20日

芳沢日蘭會商代表より  
近衛臨時外務大臣事務管理宛(電報)

蘭国外相および植民相が訪日勸請を謝絶につ

いて

バタビア 4月20日後発

本省 4月21日前着

會商第一七三號(館長符號拔)

貴電會商第八七號ニ關シ(「クレフセンス」及「ウエルタ  
ー」兩相本邦訪問方勸請ノ件)

十八日兩大臣ト約一時間餘會見主トシテ「ク」カ話對手ト  
ナリタルカ御訓令ノ件其ノ他御參考トナルヘキ事項左ノ通  
リ

先ツ「ク」ヨリ貴全權御到着以來ノ交渉内容ハ良ク承知セ  
リ自分ハ二十五年前日本ニ關スル論文ヲ書キタルコトアリ  
テ日本ニ關スル知識モアリ長年日蘭間國交ノ改善ヲ希望シ  
來レリ今回ノ交渉モ貴全權ノ御盡力ニ依リ纏マレハ結構ト  
存スト述ヘタルニ付本使ヨリ貴大臣カ日本ニ關シ知識ヲ有

セラルルコトハ甚タ愉快ナリ歸國ノ際ハ何レノ經路ヲ取ラ  
ルルヤハ存セサルモ若シ都合付カハ日本經由ニテ東京ニ二、  
三日滞在ノ上松岡大臣トモ一度會談サレ日本政府カ蘭印ニ  
對シ如何ニ考ヘ居ルカヲ知ラルルコトモ一策ナラスヤト申  
入レタル處「ク」ハ御勸告ハ有難キモ何分女王陛下下モ待タ  
レ居リ長キ旅行ハ不可能ノ事情アリ當地滞在モ今月中ハ確  
カナルカ何ノ位ニナルヤ未タ決定シ居ラス歸途ハ今ノ所豪  
洲又ハ米國經由ノ孰レカヲ選フ考ナリト答ヘタルニ付本使  
ハ此ノ機會ニ日本ヲ訪問セラルルコトカ出來レハ眞ニ好都合  
ト存スルモ時間ナケレハ致方ナシ右ハ兩大臣カ此ノ際日  
本ヲ訪問セラルルコトハ絶好ノ機會ナリト認メ全ク本使ノ  
個人的思付トシテ御勸メシタル迄ナリト述ヘ置ケリ  
次テ本使ヨリ當地到着以來總督始メ關係當局者ハ本使ニ對  
シ個人的關係ニ於テハ非常ニ慇懃懇切ニ接觸セラレ此ノ點  
甚タ感謝シ居ル次第ナリ然シ交渉ノ方ハ自ラ別問題ニテ本  
使トシテハ何トカシテ圓滿妥協方折角努力中ナルモ非常ニ  
困難ナル問題アリ本使モ頗ル苦慮シ居ル處幸ヒ兩大臣御滞  
在中ニモアリ右難問題解決方ニ關シ御助力ヲ願フヤモ知レ  
サルニ付其ノ節ハ宜敷ク願フト言ヘルニ「ク」ハ必要ノ場

合ハ勿論出來ル丈ケノコトハ致スヘシト述ヘタル後自分ノ  
記憶ニ依レハ石射公使ヨリ日蘭會商ニ關シ申出テラレタル  
ハ客年三月カト思フカ其ノ當時ト今日トハ國際情勢ハ全ク  
一變シ和蘭トシテハ何トカシテ之ヲ打開セサルヘカラサル  
立場ニアリト述懐セリ

568

昭和16年4月22日

芳沢日蘭会商代表より  
松岡外務大臣宛(電報)

日本が錫とゴムの蘭側割当を受諾すれば他の  
品目については日本側要求に歩み寄るよう努  
力するとのホーフストラーターテン私案について

バタビア 4月22日後発

本省 4月23日前着

會商第一七五號(館長符號扱)  
往電會商第一六八號ニ關シ

「冒頭電ノ通り蘭側ノ我要求物資ニ對スル一般態度ハ判明  
セルモ各品目ニ對スル具體的態度ハ猶未タ明瞭ナラサル  
ニ付石澤「ホ」問ニ更ニ品目別ニ折衝ヲ爲シ其ノ間石澤  
ヨリ「ホ」説得ニ努力セル結果「ホ」ハ芳澤全權ヨリ

「モ」ニ對シ再考方要求ノ次第モアリ「モ」ニ於テモ兎二角一應政府ノ再考ヲ求ムヘキコトヲ約シタル處自分トシテハ若シ日本側カ錫ト護謨ニ關スル主張ヲ緩和シ蘭側ノ立場ヲ認メ無理押ヲセラレサルニ於テハ其ノ他ノ品目ニ付テハ「モ」ニ進言シ出來得ル限り日本側要求ニ近キ回答ヲ與フル様最善ノ努力ヲ爲スヘシト述ヘタリ

二、「ホ」ハ蘭側カ錫、護謨ニ對シ特ニ强硬ナル態度ヲ堅持スルハ全ク祖國ヲ解放セントスル絶對的決意ニ據ルモノナリ吾人ハ和蘭ノ自由ヲ回復セサルヘカラストノ念願一杯ニテ他ヲ顧ミル餘裕スラナシ此ノ念願ニ反シ敵國獨逸ニ其ノ軍需品トシテ最モ重要ナル錫、護謨ヲ假令間接ニモセヨ供給スルノ結果トナルヘキ措置ヲ執リ得サルコトハ日本武士道ヨリ見ラルルモ充分理解セラレ得ヘキ所ト思考ス若シ和蘭政府カ錫、護謨ヲ日本ノ要求量丈ケ供給シ猶且日本カ佛印「タイ」ヨリモ輸入セラルルコトヲ見逃ストセハ和蘭人ハ政府自體ヲ叛逆者ト看做シ如何ナル不祥事ヲ惹起スルヤ測リ得サル情勢ニアリ自分ハ日本カ此ノ立場ヲスラ認識セラレストセハ最早問答無用ナリトサヘ結論セサルヲ得ス從テ本件ニ關スル和蘭政府ノ決定

ヲ更ニ具體的ニ申セハ左ノ如シ

(イ) 錫三千噸、護謨一萬九千八百噸ノ輸出ヲ許可スル用意アルモ「タイ」及佛印ヨリ右二品目カ日本ニ輸出セラルル場合ハ前記輸出货量ハ減少セラルヘシ「タイ」佛印ヨリ輸出ノ有無及其ノ數量ニ付テハ蘭側ニ於テ其ノ確實ト信スル資料ニ基キ認定ス

(ロ) 日本ハ佛印及「タイ」ニ對シ多大ノ壓力ヲ加ヘ得ル立場ニアルモノナレハ護謨錫ハ此ノ二國ヨリ輸入セラレ蘭印ニ依存セラレントスル考ヲ拋棄セラルルコト望マシ

(ハ) 蘭側ノ氣持ヲ率直ニ披瀝スレハ若シ日本カ「タイ」佛印ヨリ錫、護謨ヲ絶對ニ輸入セラレストスレハ專ラ日本自身ノ爲ニ必要ナルコト確實ナル數量ハ全部之ヲ蘭印ヨリ供給スルモノナリトスラ考ヘ居レリ然レトモ如何ニシテ右ヲ確證シ得ヘキヤ其ノ方法ナシ仍テ結局蘭側トシテハ(イ)(ロ)ノ態度ヲ執ル外ナキ次第ナリ

三、<sup>(2)</sup>日本カ率直ニ前記蘭側立場ヲ諒トセラルルニ於テハ他ノ品目ニ付テハ自分ハ左ノ線ニ副ヒ日本側希望ヲ容ルル様最善ヲ盡スヘシ

- (イ)「コブラ」「バームオイル」ニ付テハ蘭側決定數量  
 「コブラ」一萬二千「バーム」九百六十噸ヲ相當増  
 量方考慮シ右決定ノ上ハ一年間ニ該數量ヲ輸出スヘキ  
 コトヲ確約ス
- (ロ)「ヒマシ」ハ蘭印ノ生産量六千噸ナルニ付今直クニ夫  
 レ以上ノ數量ヲ輸出スルコト不可能ナルモ日本カ將來  
 確實ニ繼續買付ヲ確約シ得ルナラハ増產方ヲ考慮スヘ  
 シ尙不取敢六千噸迄ノ供給ヲ確約ス
- (ハ)「ボーキサイト」「ニツケル」鑛ハ現在日本ヨリ獨逸  
 ニ再輸出セラレ居ル様ノコト無キモ將來獨逸ニ於テ之  
 ヲ日本ヨリ輸入セサルヲ得サルカ如キ場合有リ得ヘキ  
 ヲ以テ日本側要求量全部ヲ供給シ得ヘキヤ否ヤ即答シ  
 兼ヌルモ若シ獨逸ニ再輸出セラルコト明カトナレル  
 場合ハ輸出量ヲ減少スルコトアリ得ヘシトノ條件付ニ  
 テ日本側要求量ト近キモノヲ供給シ得ヘシ
- (ニ)屑鐵 鋳力ヲ含ムハ六萬噸迄ハ輸出スヘキモ將來蘭印  
 工業發達ノ結果之ヲ必要トスル場合ハ減量スルコト有  
 ルヘシ
- (ホ)「カポツク」「タンニン」劑ニ付テハ前者ハ獨逸「パ

- ラシユート」部隊ニ利用サルル惧アリ後者ハ獨逸ニ於  
 テ缺乏シ居ルカ故ニ獨逸向ケ再輸出ノ懸念有リ日本側  
 要求量ヲ相當減量スル外無カルヘシ
- (ヘ)滿庵鑛ハ現在蘇聯邦ヨリ獨逸ニ供給セラレ居ル處若シ  
 獨蘇關係惡化セハ蘇聯邦ノ供給停頓スルニ至ルヘキヲ  
 以テ日本要求量ヲ相當減量ノ外無シ
- (ト)規那皮ハ「トラスト」ノ關係上六百噸以上ノ供給絕對  
 ニ不可能ナルモ「キニーネ」ナラハ幾何ニテモ供給シ  
 得ヘシ
- (チ)石油ハ既ニ契約セラレタル數量ハ輸出可能ナルカ夫レ  
 以上ハ現生産量ヲ以テシテハ供給不可能ナリ但シ日本  
 側ノ買付カ長期ニ亘リ確實ナラハ急ノ間ニハ合ハサル  
 モ増產方ヲ考慮シ其ノ實現ヲ見ル場合ハ輸出量増加方  
 考慮ノ餘地有リ然ルニ日本側現在ノ買付振りヲ見ルニ  
 今日迄ノ契約量中積取り未済十萬噸有ル有様ナレハ今  
 直ニ増產方ヲ考慮スル譯ニモ行カス
- (リ)其ノ他ノ品目ニ付テハ大體日本側要求量ヲ輸出スルト  
 共ニ之ヲ確約シ得ヘキカト思考スルモ「モリブデン」  
 「クローム」「ウオールフラム」ハ現在蘭印ニ產出シ居



ラス又雲母ハ未タ試掘ノ域ヲ出テ居ラサルニ付之カ供給及數量等約束シ難シ

四、尙最後ニ誤解無キ様特ニ申置キ度キハ以上ハ自分限りノ腹案トシテ貴官ニ内示シタル迄ニシテ右ニ付テハ數日中ニ「モ」ト協議ノ上其ノ同意ヲ得ル迄ハ貴方ニ回答シ得サルモノナルコトヲ豫メ御含ミ置キ願度ク尙「モ」ハ非常ナル計數家ニシテ一々自ラ精密ニ檢討ノ上納得行ク迄ハ同意セサル人物ナルニ付自分トシテハ極力説得ニ努ムヘキモ其ノ結果ハ何共申兼ヌル旨申シ居タル趣ナリ

569

昭和16年4月22日

芳沢日蘭會商代表より  
松岡外務大臣宛(電報)

### 日蘭會商今後の対処方針につき請訓

別電

昭和十六年四月二十二日發芳沢日蘭會商代表

より松岡外務大臣宛會商第一七七号

入国・企業等の問題に関する第二次要求案

バタビア 4月22日後發

本省 4月23日前着

會商第一七六號(至急、館長符號扱)

貴電會商第八三號ニ關シ(日蘭會商妥結案ニ關スル件)

二十二日閣下御歸朝ノ趣ニ付本電ヲ以テ意見ヲ上申スル次第ナリ

昨年十二月本使出發ニ當リ受ケタル御訓示ハ前任小林全權ノ受領セラレタル訓令ヲ其ノ儘引繼キタルモノニシテ且蘭側トノ交渉ヲ纏ムル爲ニハ御訓令ノ半分ヲ實行スル位ニテモ結構ナリト申サレタル程ナルカ三月下旬以來拜受セル御電訓ニ依レハ昨年出發當時閣下ト直接話合ヒタル方針トハ趣ヲ異ニスル廉少カラス其ノ内最モ顯著ナル二點ハ(一)物資獲得ニ優先的ニ重點ヲ置カルコト(二)軍事機關存續ノ必要<sup>?</sup>上會商ヲ永引カセントスルコトナリ右二點ニ付テハ昨年閣下ハ勿論軍部大臣ヨリモ何等御話ナカリシ次第ニテ加之之迄屢次ノ往電ニテ申上ケタル通り最近獨逸ニ對スル蘭側ノ感情非常ニ惡化シ英米ト協力シテ獨逸ニ對スル經濟壓迫ヲ益々強化セントスルノ態度ニ出テ我方ノ之カ捲添トナルコトヲモ辭セサル模様ニテ(右ニ付テ石澤總領事ヨリモ別ニ電報スル筈)物資獲得ハ我方ノ切望スル所ナルモ其ノ期待ニハ到底副ヒ難キ趨勢トナリタリ將又軍事機關存續ノ點ハ一應諒察シ得ルコトナルモ之カ爲本筋タル會商ヲ引延スカ

如キハ二、三週間ノ問題ナラハ格別然ラサル以上本使ニ於テ到底御引受ケ致シ難キニ付別ニ方法ヲ講セラルルコトトセラレ度假令本使ニ於テ引受クル場合ニモ萬一我方ノ心底ヲ蘭側ヨリ觀破セラルル場合ハ甚タ面白カラサル事態ヲ惹起スヘシ旁々本使トシテハ御許可ヲ得テ一應歸朝ノ上篤ト御協議申上ケ度キ趣旨ニテ前後二回卑見ヲ上申シタル次第ナルカ

蘭側トシテハ獨逸ニ對シ苟クモ利敵行爲ト認メラルモノハ一切之ヲ中止シ從テ現戰爭期間ハ我方要求物資ノ數量中獨逸ニ再輸出セラレントスル數量ハ蘭側ノ認定ヲ以テ之ヲ拒否セントシ往電第一五〇號及其ノ他ノ往電ニテ御承知ノ通り強硬ナル態度ヲ持續シ來リタル爲最早會商ノ前途ニ見切りヲ付ケンシタル際昨日來我方ノ重キヲ置ク物資獲得問題ニ關シ蘭側ノ態度ニ聊カ異變ヲ生シ來リタルモノノ如ク此ノ點ニ付テハ何レ「ホ」ヨリ「モ」ニ協議ノ上數日中ニ我方ニ確答シ來ルヘキニ付其ノ節更ニ電報致スヘシ然乍ラ事護謨及錫ニ關スル限り蘭側ハ到底其ノ態度ヲ變更セサルコト最早確實ナルノミナス日本側ハ自己ノ主張ノミヲ押シ通サントスルニ於テハ蘭側ハ日本ハ獨逸ニ對スル和蘭

朝野ノ斯クモ眞劍ナル感情ヲ無視スルモノト斷シ他ノ物資ニ付テモ日本側要求ヲ全面的ニ拒否シ會商打切りヲモ辭セサル方向ニ向フコト豫想ニ難カラス就テハ此ノ際往電第一七五號ニノ蘭側立場ヲ容認シ佛印及「タイ」ニ對スル我方壓力ヲ強化シ同地方ヨリ本件二品目ヲ輸入スルコトニ主力ヲ注キ蘭印ヨリノ輸入ハ第二義的トシ取り得ル丈ケノ數量ニテ我慢シ以テ他ノ物資ニ付テハ「ホ」ノ内示セル「ライン」ニテ之カ獲得ヲ計ル外無ク又入國企業交通等ノ問題ニ付テハ往電第一二五號妥協案ニ別電第一七七號ノ如キ修正ヲ加ヘタル第二次要求案ヲ提出シ物資獲得問題ト並行シテ交渉ヲ進ムルコトト致度ク御異存ノ有無至急御回電ヲ得度シ最モ右解決案ニ御同意ヲ得ルコト能ハサル場合ハ今日迄折衝ノ經驗及當地空氣ニ鑑ミ會商決裂ヲ御覺悟相成ル外無シト思考ス

(別電)

バタビア 4月22日前発  
本省 4月23日前着

會商第一七七號(外機密、至急、館長符號發)

一、入國關係

(イ)「申請アル場合」ノ次ニ「現行法令ノ範圍内ニ於テ」ヲ挿入シ「好意的考慮ヲ」ヨリ「言明ス」迄ヲ「好意的考慮ヲ加ヘ少クトモ年一、六〇〇名迄ハ申請ニ對シ許可ヲ與フルノ用意アリ」ト訂正ス「追テ」ヨリ「スルモノニ非ス」迄全部削除ス

(ハ)末段ノ「和蘭人又ハ土人ヲ」ヲ「日本人以外ノ従業員又ハ使用人ヲ」ト訂正<sup>(編注)</sup>

二、企業關係

(イ)「具體的申請アル場合ハ」ノ次ニ「國防上ノ必要又ハ蘭印人ニ保留スル場合ヲ除キ」ト挿入ス

(ロ)「探鑛及採鑛申請ヲ」ヨリ「用意アリ」迄ヲ「探鑛及採鑛申請ニ對シ之カ許可方ヲ好意的ニ考慮スル用意アリ」ト訂正ス

(ハ)「具體的申請アル場合ハ」以下「之カ許可方ヲ」迄ヲ「國防上ノ理由ニ依リ差支アル場合又ハ蘭印人特ニ土人ノ爲保留スル場合ヲ除キ」ト訂正ス

三、交通、通信關係

(ハ)「既存日本船舶ノ運航經營」ノ次ニ「及沿岸貿易ノ」

ト挿入ス

編 注 本訂正は会商第一二五号の修正案に既に反映されてい

る。

570 昭和16年4月22日 在バタビア石沢総領事より  
松岡外務大臣宛(電報)

蘭側の対独經濟压迫遂行に関する固き決意に

ついて

バタビア 4月22日後発  
本 省 4月23日前着

第三一六號(館長符號扱、至急)

一、我要求物資ノ對獨再輸出問題ニ對シ累次往電ノ通り何故ニ蘭側カ斯克モ强硬態度ヲ執ラントスルモノナルヤヲ突キ止メンカ爲更ニ當領要路者トノ接觸ヲ重ネタルカ其ノ結果確メ得タル點左ノ如シ

(イ)和蘭政府ハ愈英、米ト歩調ヲ合セ對獨物資供給ヲ全面的且決定的ニ阻止スルコトヲ決意セリ

(ロ)蘭側トシテハ日本ニ對スル經濟封鎖ヲ意圖スルコトナ

キモ對獨封鎖政策ノ結果重要軍需物資ノ對日輸出制限ヲ強化スルコトハ日本ノ意嚮如何ニ拘ラス斷行スル外ナシト決意セリ

(ハ)和蘭本國ハ獨ノ壓政下ニ呻吟シ居リ英國民ハ毎日獨軍ト死闘ヲ續ケ居ルニ拘ラス蘭印ノ蘭人ハ安居シ居リ歐洲ニ援軍ヲ出動セシムルコトモ不可能ニシテ何等積極的援助ヲ爲シ居ラス從テ當領ニ於テハ總督始メ匹夫ニ至ル迄斯クテハ祖國竝ニ英國ニ對シ申譯ナク切メテ對獨物資供給遮斷ヲ徹底的ニ行フヘシトノ決意熱烈タルモノアリ總督ハ其ノ令嬢ヲ和蘭ニ殘シ居リ「ホ」局長モ亦二人ノ子供ヲ殘シ曩ノ日蘭會商ニ於ケル蘭側代表ノ一人トシテ本官ト折衝セル「マ」統計局長ノ如キモ妻及子供ヲ殘シ居ル次第ナルカ何レモ假令是等犠牲トスルモ對獨經濟封鎖ハ斷行スヘシトノ決意ヲ固ク抱キ居レリ

(ニ)日支間戰爭ト異リ和蘭ハ獨逸ノ爲自由ヲ奪ハレ居リ蘭印ノ使命ハ本國ノ自由恢復ノ爲最後迄戰フニ在リ此ノ目的ヲ達成スル迄ハ何事ヲモ考フル餘裕ナシ日本トノ友好關係モ本國ノ自由ヲ恢復シテカラノコトナリ

三、以上ノ諸點カ如何ニ強烈ナル力ヲ以テ蘭人ノ心ノ底ヨリ湧キ上リツツアルカハ本官ニ於テモ驚キニ堪ヘサル次第ナリ此ノ氣分カ如何ニ深刻ナルモノカハ本邦ニ於テハ到底御想像困難ナリト存スルモ物資問題ノ解決及日蘭會商ノ取扱ニ際シ右ノ諸點ヲ充分御考慮相成様致度シ

~~~~~

571

昭和16年4月25日

芳沢日蘭会商代表より  
松岡外務大臣宛(電報)

# 蘭印重要物資の対日輸出割当に関する蘭側讓

## 歩内容について

バタビア 4月25日後発

本省 4月26日前着

會商第一八四號(至急、館長符號拔)

往電會商第一七五號ニ關シ

二十五日「ホ」ヨリ石澤ニ對シ「モ」ニ進言協議シタル結果ヲ通知越セルカ錫及護謨ニ付テハ冒頭往電ニ、立場ヲ固執シ居リ其ノ他ノ物資ニ付テハ冒頭往電ニ、ト異ナル點左ノ通ナリ但シ「モ」ハ右通報ハ「モ」トシテノ一應ノ意嚮ヲ内報スルモノニシテ之カ決定ハ更ニ熟考ヲ要スル旨特ニ明

カニ致シ置キタシト附言スル様「ホ」ニ命シタル趣ナリ  
一、「コブラ」ハ二萬噸、「パーム」油ハ一萬二千噸ニ増量ス  
二、「ヒマシ」ハ「コントロール」困難ナル土人作物ナレハ  
増産方考慮スト云フモ確實ニ増産セシメ得ルヤ否ヤ疑問  
ナリ若シ増産不能ノ場合ハ食言ノ責ヲ問ハルル惧アルニ  
付單ニ一ケ年間六千噸ヲ供給スト言フニ止メタシ

三、「ボーキサイト」ハ客年日本側要求ノ二十萬噸ハ日本ノ  
「アルミニウム」生産能力ニ適合スル數量ト認メ之ニ  
同意セル次第ニシテ今次御要求ノ四十萬噸ヲ認ムルコト  
ハ「アルミニウム」對獨輸出ノ懸念モ有リ絶對不可能  
ナル處互讓ノ精神ヲ以テ特ニ二割五分ノ増加ヲ認メ二十  
五萬噸トス

四、「ニツケル」ハ日本側昨年ノ要求其ノ儘ヲ認メタル次第  
ナルモ何分十五萬噸ハ莫大ナル數量ニ付來ル一ケ年ニ對  
シ此ノ上ノ増量ヲ認ムルコト不可能ナリ

五、「カボツク」繊維ハ過日申上ケタル理由ニ依リ御要求ノ  
二千噸ヲ半減シ一千噸ヲ供給ス

六、「タンニン」材料ハ更ニ研究ノ結果差當リ對獨再輸出ノ  
危険ナシト認ムルニ付御要求通り四千噸ヲ供給ス

七、「マンガン」礦ハ過去ニ於テ日本向輸出皆無ナリシト生  
産能力僅少ナル關係モアリ六千噸ヨリ供給シ得ス

八、「ピツチコークス」ハ最大生産能力二萬五千噸ナルニ付  
夫レ以上ヲ確約スルハ不可能ナリ

九、鹽ハ御要求通り十萬噸ヲ供給ス

一〇、尙錫(礦石ヲ含ム但シ礦石ノ場合ハ錫ニ換算シテ計算  
ス)及護謨以外ノ前述物資(往電第一七五號ノ鐵屑、規那  
皮、「キニーネ」及石油ヲ含ム)ニ付テハ一ケ年間確約ノ  
用意アルモ對敵供給防止上必要ヲ生スル場合ハ減量スル  
コトアルヘキニ付了承アリタシ

二、其ノ他ノ品目ニ付テハ無條件ニ確約可能ナリ



572 昭和16年4月26日 芳沢日蘭会商代表より  
松岡外務大臣宛(電報)

近く武力解決の意向でなければ多少の不満が  
あつても日蘭会商は蘭側との妥協を計るべき  
旨意見具申

本 省 4月26日後発  
バタビア 4月27日前着

會商第一<sup>(一八四)</sup>號(大至急、外機密、館長符號扱)

本電ハ是非御一讀賜度シ

日蘭會商ハ今ヤ本格的交渉ニ移ラントシツツアル此ノ際一言申上置キ度シ

世間ニハ餘リ價値無キ條件ニテ會商ヲ纏ムルヨリハ後日武力ヲ用フル際ノ口實ヲ殘シ置ク方得策ナリト云フ議論ヲ爲ス向キモアル處武力ヲ用ヒラルコト確實ニシテ且近キ將來ニアリトセハ本使ニ於テモ右ノ說ニハ全然同感ヲ表セサルヲ得ス左リ乍ラ若シ武力解決ノ時期カ果シテ何時頃トナルヤ一向見當モ付カストセハ入國企業交通等ノ問題ハ勿論帝國政府ニ於テ焦眉ノ急ニ迫ラレ居ル重要物資ノ獲得ハ全然不可能トナル惧アリ此ノ點ハ政府ニ於テ果シテ右セントセラルル次第ナリヤ將又左セントセラルル次第ナリヤ本使ニ於テ承知致度シ若シ政府ニ於テ差當リ武力行使ノ御考ヘモ無ク從テ今直チニ必要トセラルル物資ヲ蘭印ヨリ輸入セラレントスル御考ヘナルニ於テハ多少ノ御不滿アルニセヨ相當ノ所ニテ妥協ヲ計ラルルヨリ致方無シト思考ス往電第一七七號第二次要求案ハ先般ノ往電第一二五號要求案ヲ多少強化シタルモノナルカ右要求案スラ和蘭側ニ於テ勿論全

部同意スルモノトハ信スルコト能ハス唯右要求案ヲ駁引キノ具ニ使用シ落著ク所ニ落著カセントスル手段ニ用ヒントスル迄ナリ

「パ」公使問題ニ關スル會商第九六號貴電拜讀シタルカ右末段ノ御趣旨ハ其ノ通り執行致スヘキモ唯御伺ヒ致度キハ「ク」ノ來爪後ノ關係ハ寧ロ惡化ノ一途ヲ辿リ居ルカ如ク見受ケラルトノ一句ニ付テハ如何ナル事實ニ依リ此ノ如キ觀測ヲ下サレタルヤ御來示ヲ仰度ク現場ニ在ル本使等ノ見ル所ニ依レハ二大臣來爪後蘭側ノ日蘭會商ニ對スル態度ハ寧ロ改善ニ傾キ居ルヤニ認メラレ現ニ物資獲得ニ關スル蘭側ノ態度モ稍々改善シタルカ如キ又「モ」ト先般會見ノ際「モ」カ本使ニ對シニ大臣ノ來爪ハ交渉ノ促進ニ好都合ナルコトヲ語リタル等ノ事實ニ顧ミルモ御來示ノ如キ觀測ハ下シ難キヤニ存セラル然ルニ若シ的確ナル事實ニ基カスシテ右様ノ觀測ヲ下サルルモノトセハ「パ」ノ問題ノ如キハ兎ニ角日蘭會商其ノモノニ關シ眞ニ憂慮ニ堪ヘス今後會商ニ關スル御訓令ヲ拜讀シタル上或ハ本使ノ進退ヲ考慮セサルヲ得サルヤモ計リ難キニ付何卒御諒察ヲ請フ

573

昭和16年5月2日

松岡外務大臣より  
芳沢日蘭会商代表宛(電報)

蘭印産重要物資の買付確保につき訓令

別電

昭和十六年五月二日発松岡外務大臣より芳沢  
日蘭会商代表宛会商第一〇三号

右買付希望量

本省 5月2日後8時20分発

會商第一〇二號(極秘、大至急、館長符號扱)

貴電第一七五及一八四號ニ關シ

暑熱ノ地ニ長期御滞在ヲ煩ハシ恐縮ノ至リニシテ殊ニ蘭側  
ヲシテ御來示ノ數量マテ讓步セシメタルコトハ容易ナラヌ  
御努力ニ依リタルモノト存ス然ルニ國內物資ノ意外ニ不足  
シ居ル實情明瞭トナリ益々國防資材確保ヲ急務トスルコト  
トナリタルヲ以テ之ニテハ纏ル見込少シトハ思考セラルル  
モ萬全ヲ期スル意味ニ於テ御苦勞ナカラ別電第一〇三號ノ  
通増量方今一應御交渉相煩シ出來得ル限り此程度ニテ妥結  
致度ト存スル處御交渉ノ結果何分ノ儀回電相成度

(別電)

會商第一〇三號(極秘、大急)

本省 5月2日後8時20分發

一、本邦ニ於テハ毎年多量ノ屑護謨ヲ米國ヨリ輸入シ一昨年  
ノ如キ特別輸入モアリテ三萬噸ニ達シ之ヲ以テ生護謨ノ  
不足ヲ補ヒ居タル處客年七月禁輸トナリタル爲爾來全部  
生護謨ヲ使用スルコトナリ現在手持チ此處一ヶ月位ヲ  
支フルニ過キサル實情ナリ然ルニ馬來ヨリハ最近ニ至リ  
一ヶ月ノ許可量五百噸ニ滿タサリシカ五月份ハ全然許可  
セサル意嚮ナリトノ情報アリ又錫ニ付テモ右同様ニテ米  
國ハ「プリキ」屑ヲ禁輸シ馬來ハ殆ト輸出許可ヲ與ヘス  
就テハ我方要望トシテハ蘭印ヨリ生護謨三萬噸錫(地金  
ニシテ)八千噸確保致度モ之迄御交渉ノ經緯ニ顧ミ右數  
量ヲ押スニハ大イニ無理ノアルコトト存セラルルニ付已  
ムヲ得サレハ前者二萬五千噸後者五千噸迄確約セシメ度  
ニ、「コプラ」及「パーム」油ニ付テハ屢電報ノ通現在國內  
油脂原料極度ノ不足ニ悩マサレ居ルニ付少クモ前者三萬  
後者二萬噸マテ確保致度

三、「ボーキサイト」ハ日蘭商事トN I B E M間ノ契約ニ於  
テ本年ヨリ三十六萬八千噸基準ニ買付クルコトトナリ居



リ從テ日蘭ト「アルミ」工場トノ供給契約ハ右數量ヲ基礎トシテ成立シ居ル爲各工場亦夫々契約量ノ精鍊設備ヲ完了シ居ルニ付右數量ノ確保ハ絶対必要ナリ(更ニ詳細ハ貴地出張中ノ關川ヨリ聴取アリ度)

尙蘭側ハ「アルミ」トシテ對獨再輸出ノ惧レアリト稱スルモ獨逸ハ既に豐富ナル佛本國ノ「ボーキサイト」ヲ握リ居ルニ鑑ミ其ノ製品ヲ遠ク本邦ニ求ムルカ如キハ全ク考ヘ得ラレサルコトナリ而シテ馬來ヨリ輸入シ居タル石原鑛山分ハ本年ニ入り十五萬噸ヲ十萬噸ニ制限セラレタルカ蘭側カ今回五萬噸増量方申出タルコトハ馬來ノ減少ヲ補フ意味モ窺ハレ對日物資供給策ニ關スル英、蘭連絡ヲ如實ニ示スモノト云ハサルヲ得ス

四、「ニツケル」鑛ニ付テハ太洋鑛業及日蘭商事力態々技師ヲ現場ニ派遣シテ出鑛及輸送關係迄モ調査セシメ既ニ十八萬噸目標ニ諸般ノ準備ヲ進メ居ル次第ニシテ且「ニユ一、カレドニア」ハ本品ノ對日輸出禁止ヲ爲スニ至レルヲ以テ是非此數量ヲ確保シ置度

五、滿庵鑛ニ付テハ從來「スラバヤ」ノ工藤商店カ「ボルネオ」産ノモノヲ輸出シ内地ニテハ岩井商店カ輸入ニ當リ

漸次買付量ノ増加ヲ圖リ居リ又客年來三井ヲシテ爪哇ニ於テ買付ケシメ居ルニ付二萬七千噸全部確約出來ヌトシテモ之ニ近キ數量ハ確保致度

尙蘭側ハ獨蘇間ニ紛争起ラハ獨ハ滿庵ヲ日本ニ求ムヘシト稱スルモ右ハ假リニ獨蘇事ヲ構フル時ハ日獨間輸送機關タル西比利亞鐵道ノ使用不可能トナルコトヲ無視セル言分ナリ

六、石油ニ付テハ往電第九九號ニ對スル御回電ヲ俟ツテ追電ス

574 昭和16年5月3日 松岡外務大臣より 芳沢日蘭会商代表宛(電報)

# 蘭印石油の買付量につき訓令

本省 5月3日後8時30分発

會商第一〇六號(極祕)

往電第一〇三號ニ關シ

現下ノ國際情勢ニ鑑ミ石油ハ既契約量百八十萬噸ニテハ燃料對策ニ即應セサルニ付無理押シトハ存セラルルモ三百八十萬噸目標ニ要求致度

尙鑛區及買油方針ニ關シ關係省協議ノ結果別電第一〇七號<sup>(省略)</sup>  
ノ通申進ス可然御取計相成度

575

昭和16年5月3日

芳沢日蘭会商代表より  
松岡外務大臣宛(電報)

入国・企業等の問題に関する第二次要求案に  
つき至急回訓方要請

バタビア 5月3日後発

本省 5月3日夜着

會商第一九一號(館長符號扱、大至急)

當方ニ於テハ御訓令ノ趣旨ニ基キ物資獲得ニ重點ヲ置キ此  
ノ上共最善ノ努力ヲナス積リナル處蘭側トシテハ會商ヲ妥  
結シ得ルモノトセハ單ニ物資問題ノミヲ切離シ取纏ムルコ  
トヲ欲セス入國企業交通通信通商等全般ニ亘リ日本カ蘭側  
ノ立場ヲモ認メタルコトヲ明カニスルト共ニ日本側要求ニ  
對シテモ蘭側トシテ認メ得ル範圍ノコトハ之ヲ明瞭ニシ以  
テ日蘭關係ノ明朗化ヲ計リタク若シ部分的ノ妥結ヲ計リ他  
ノ諸問題ニ付テ日蘭間ニ釋然タラサル問題ヲ殘ス位ナラハ  
寧口會商ヲ打切ルコトト致度トノ建前ヲ堅持シ居レリ

就テハ往電第一七七號ニ對シ至急御回訓ヲ請フ

576

昭和16年5月3日

芳沢日蘭会商代表より  
松岡外務大臣宛(電報)

蘭印産重要物資の買付交渉のみを分離して行  
うことは不可能であり第二次要求案につき至  
急回訓方要請

バタビア 5月3日後発

本省 5月3日夜着

會商第一九二號(館長符號扱、大至急)

往電第一九一號發電後貴電第一〇二號及第一〇三號接到セ  
ルモ右ハ重要物資ノミニ關スルモノナル處冒頭往電ノ通り  
蘭側トシテハ本件ヲ切離シ交渉ニ應セサルコトハ明カニシ  
テ若シ我方ニ於テ先以テ本件ノミニ付強引ニ交渉セントセ  
ハ却テ我方カ如何ニ物資問題ニ焦慮シ居ルカヲ明白スルコ  
トトナリ斯クテハ蘭側ハ我方ノ内兜ヲ見透シ物資問題ニ對  
シテモ益々態度ヲ硬化スヘキ恐アルニ付此際是非共入國其  
他ニ關スル我方要求ヲ一括提示シ兩々相引掛け以テ出來得  
ル限り我方要求貫徹ニ努ムルコト絕對必要ト認ムルニ付冒

頭往電ニ對シテモ至急御回訓ヲ請フ

577

昭和16年5月5日

芳沢日蘭会商代表より  
松岡外務大臣宛(電報)

錫・ゴムおよび石油の対日輸出量増加要求は

妥結の見込み絶無のため再考方請訓

バタビア 5月5日後発

本省 5月6日前着

會商第一九五號(大大至急、館長符號扱)

貴電第一〇二號及第一〇三號ニ關シ(蘭印産重要物資買付確保ニ關スル件)

御來示ノ内容ヲ篤ト檢討致シタルカ錫及護謨ニ付テハ屢次ノ往電ヲ以テ蘭側ヲ讓歩セシムルコトノ絶對ニ見込ナキコトヲ充分申進シ置キタルニモ拘ラス御了承ヲ得サルハ眞ニ遺憾ナリ但シ其ノ他ノ物資ニ付テハ蘭側希望物産ノ買増シ及入國企業等ニ關スル往電第一七七號我方第二次妥協案ヲ以テ今後交渉ノ基礎トシ總括的ニ會商妥結ニ對スル我方ノ襟度ヲ示シタルニ於テハ蘭側提示ノ數量ヲ或ル程度増加セシメ得ヘキカト察セラルルモ然ラサル限りハ冒頭電御來示

ノ如キ「ライン」ニテ解決方絶對ニ見込ナシ石澤ヨリハ物資問題ニ付テハ「ホ」トノ間ニ眞劍ナル論議ヲ度重ネ殊ニ護謨錫ノ問題ニ關シテハ蘭側ハ其ノ決定トシテ讓歩不可能ナルコトヲ言明シ居ルニモ拘ラス今更始メニ還リテ論議ヲ蒸返ヘスカ如キハ帝國ノ體面ニモ鑑ミ之ヲ潔シトセスト本使ニ對シ代表ヲ辭シタキニ付政府ニ取次方願出テタリ亦同様ニ石油交渉ノ任ニ當リ來レル伊藤ヨリモ既ニ數ヶ月ニ亘リ「モ」「ホ」及鑛山局長ト論議ニ論議ヲ重ネ蘭側ヲシテナサシメ得ルコトトナサシメ得サルコトト充分明カニナリ居レル今日又モヤ貴電第一〇六號ノ如キ御訓令ハ到底執行方御引受致シ難シト辭意ヲ表示シ來レリ

本使トシテハ今日迄石澤及伊藤ヲシテ交渉ニ當ラシメ居レル處右交渉ニ當リテハ其ノ都度充分協議ノ後之ヲ行ハシメ居ル次第ニシテ其ノ點ハ蘭側ニ於テモ承知シ居リ又「ホ」ノ主張スル所ハ悉ク蘭印政府首腦部ノ方針ニ基キ居ルモノナルコトモ石澤伊藤ノ報告ニ依リ將又本使「モ」間ノ公私會談ニ依リ明カナリ從テ本使ヨリ「モ」ヲ押ストモ蘭側ノ態度ヲ變更セシムルコト到底不可能ナルノミナス本使ニ於テハ既ニ「モ」ニ對シ日蘭双方ノ立場ヲ考慮シタル上何

等全般的解決案ヲ提示スヘキ旨述ヘ置ケル次第モアリ今更  
物資問題ノミニ關シ而モ始メヨリ論議ヲ蒸返ヘスカ如キコ  
トハ到底不可能ナリ從テ兩代表ノ申出ハ尤モノ儀ト思考セ  
ラルルニ就テハ政府ノ御再考ヲ仰キタク若シ御再考不可能  
ノ次第ナラハ本使トシテモ今後ノ交渉ハ御引受致シ難シ何  
分ノ儀至急御回電請フ



578

昭和16年5月6日

松岡外務大臣より

芳沢日蘭会商代表宛(電報)

### 入国・企業等の問題に関する第二次要求案に

#### つき回訓

別電

昭和十六年五月六日發松岡外務大臣より芳沢

日蘭会商代表宛会商第一一〇号

右第二次要求案

本省 5月6日後7時10分發

會商第一一〇九號(大至急)

入國企業等ノ問題ニ付テハ貴電會商第一二五號及第一七七  
號ヲ基礎トシテ之ニ必要ナル修正ヲ加ヘ別電第一一〇號ノ  
第二次案ヲ作成セリ主ナル相違點ハ貴案ニ於テ「好意的考

慮又ハ取計ヲナスノ用意アリ」云々トアルヲ「特別ノ支障  
無キ限り許可スヘシ」云々ト改メタルコトニ在ル處右ハ實  
際ノ運用ニ當リ漠然タル逃口上ヲ蘭側ニ與ヘス若シ特別ノ  
支障アラハ蘭側ヲシテ之ヲ明確ニ申出シメ以テ本件取極ヲ  
有名無實ナラシメサラントスル趣旨ナリ

貴電會商第一九一號ノ通り通商問題ニ關スル話合ト分離不  
可能ナラハ貴代表ニ於テ入國企業等ノ問題ニ關スル本格的  
交渉ヲ開始セラルト共ニ適當ノ時機ニ右第二次案ヲ御提  
出相成リ出來得ル限り我方要望ノ達成方御盡力アリ度ク其  
ノ結果貴案ノ如キ「好意的考慮又ハ取計」云々ニテ満足セ  
ラレ度シト蘭側カ固執スル場合ニハ最後の決定前更メテ御  
請訓アリ度シ

#### (別電)

本省 5月6日後10時30分發

會商第一一〇號(大至急)

一月十六日提出セル覺書前文(貴電第二三號)ノ我方主張ハ  
之ヲ保持スルモノナルコトヲ明確ニシテ左ノ如キ内容ヲ蘭  
側ヲシテ容認セシム

一、入國關係

(イ) 蘭印政府ハ日本人従業員ノ入國ニ付關係者ヨリ許可ノ申請アル場合現行法令ノ範圍内ニ於テ事情ノ許ス限り多數且迅速ニ許可方好意的考慮ヲ加ヘ少クトモ年千六百名迄ハ許可ヲ與フヘシ

(ロ) 従業員交替許可申請者及許可延長申請者並入國ノ目的カ一時的ナル者ハ(イ)ノ項ノ數ニ包含セラレス

(ハ) 日本人ノミノ治療ニ從事スル目的ヲ以テ渡來スル日本人醫師(齒科醫ヲ含ム)ノ入國開業ハ各地方ニ於ケル必要ヲ考慮シ全體トシテ一定數ヲ限リ之ヲ許可スヘシ尤モ外領ニ於ケル日本人ノ企業ニ關係スル日本人従業員ノ治療ニ從事スルコトヲ許可セラレタル日本人醫師(齒科師ヲ含ム)ハ要スレハ當該外領ニ於ケル日本人企業ニ關係スル日本人以外ノ従業員又ハ使用人ヲモ治療スルコトヲ得

二、企業及營業關係

蘭印政府ハ日本人單獨又ハ合辦ノ各種企業及營業ノ新設又ハ擴張等ニ關シ關係者ヨリ承認又ハ許可ノ具體的申請アル場合其ノ都度之ヲ好意的ニ審議シ國防上ノ理由ニ依

リ又ハ蘭印人ノ爲保留スルノ必要上特別ノ支障無キ限リ計畫遂行上必要ト認メラルル事前調査ヲ許容シ且右新設又ハ擴張等ヲ承認又ハ許可スルト共ニ右承認又ハ許可ノ上ハ従業員ノ雇傭及運搬施設其ノ他必要ナル設備ヲ施スコト等ニ付出來得ル限り好意的ニ取計ヒ必要ナル便宜ヲ供與スヘシ殊ニ蘭印政府ハ

(イ) 鑛業ニ關シ日本人企業家ヨリ探鑛又ハ採鑛ノ許可申請アル場合之ヲ好意的ニ審議シ特別ノ支障無キ限り許可スヘシ尙政府保留地域内ニ於ケル鑛業ニ付日本人企業家ヨリ鑛業法第五條Aニ基キ探鑛又ハ採鑛ノ許可申請アリタル場合ニ付テモ亦同シ

(ロ) 水産業ニ關シ日本人關係者ヨリ具體的ニ許可申請アル場合國防上ノ理由ニ依リ又ハ蘭印人特ニ土人ノ爲保留スルノ必要上特別ノ支障無キ限り之ヲ許可スヘク又日本人水産業ニ關係スル従業員ノ雇傭及其ノ經營ノ爲必要ナル附帶施設ヲ設クルコト等ニ付テモ好意的ニ取計ヒ必要ナル便宜ヲ供與スヘシ

(ハ) 商業及各種營業ニ關シ日本人ヨリ許可申請ヲ爲ス場合特別ノ支障無キ限り之ヲ許可スヘク倉庫業其ノ他既ニ

營業制限令ノ適用ヲ受ケ居ルモノニ付テモ具體的ニ申請アラハ個々ノ場合ニ付好意の考慮ヲ加ヘ特別ノ支障無キ限り之ヲ許可スヘシ

### 三、交通通信關係

(イ) 蘭印政府ハ日蘭印間ノ航空發達ハ兩國經濟關係ノ緊密化ニ寄與スル所大ナルヘキヲ以テ將來適當ノ機會ニ日蘭印間直通航空事業ノ開設方ニ付日本政府ト協力スヘク尙差當リ盤谷及西貢其他ニ於ケル日蘭機聯絡ノ改善方ニ付日本政府ト協力スヘシ

(ロ) 日蘭印間ノ電信聯絡ニ關シテハ蘭印政府ハ安全且能率的ナル通信ヲ建設スル爲將來適當ノ機會ニ技術的ニ最新式ナル海底電線ヲ日本ノ管理下ニ建設スルコトニ付日本政府ト協力スヘク尙差當リ「マラバル」無電對日聯絡改善方竝「ヤップ」「メナド」間海底電線利用方ニ付日本政府ト協力スヘシ

(ハ) 沿岸航海ニ關シテハ既存ノ日本人企業ニシテ事業ノ進行ニ伴ヒ沿岸航海自營ノ必要痛感セラルルモノニ付テハ前廣ニ申請アル場合竝新規ノ日本人企業ニシテ事業ノ進行ニ伴ヒ沿岸航海自營ノ必要豫想セラルルモノニ

付テハ最初ヨリ事業計畫ノ一部トシテ申請アル場合蘭印政府ハ國防上ノ理由ニ依リ特別ノ支障無キ限り之ヲ許可スヘシ

尙蘭印政府ハ既ニ日本人ニ許可シ居ル沿岸航海ニ關シ日本人關係者ヨリ日本船舶ノ隻數又ハ噸數増加ノ必要アリトシテ許可申請アル場合ニハ特別ノ支障無キ限之ヲ許可スヘキコト及右既存船舶ノ運行經營及沿岸貿易ヲ困難ナラシムルノ意圖無キコトヲ言明ス

(ニ) 日本人企業ノ經營又ハ生産ノ増大若クハ日蘭印間貿易ノ増進ニ伴ヒ不開港場ヲ特定產物ノ爲ノ開港場若クハ一般の開港場ト爲スノ必要生スルニ至リ關係業者ヨリ要請アル場合ニハ蘭印政府ハ特別ノ支障無キ限り右要請ニ應スヘシ

(ホ) 日本向物資積出ノ爲日本船舶ノ不開港場寄港ヲ必要トスル場合關係者ヨリ申請アラハ蘭印政府ハ特別ノ支障無キ限り之ヲ許可スヘク又其ノ手續ヲ迅速且容易ナラシムヘシ

579

昭和16年5月6日

松岡外務大臣より  
芳沢日蘭会商代表宛(電報)

入国・企業等の問題は後日に譲るも致し方ないが蘭印物資の対日輸入確保だけは至急妥結するよう交渉方訓令

本省 5月6日後6時20分発

會商第一一一號(館長符號扱)

英米ト共同戦線ニ在ル蘭印トノ交渉ガ甚ダ困難ニシテ貴代表ノ御苦勞竝々ナラヌコトハ克ク諒察シ段々ノ御盡力ニ對シ深ク感謝シ居ル次第ナリ而シテ對蘭印關係ノ根本的打開ハ結局英米トノ關係ニ手ヲ觸レザル限り殆ド不可能ナルベク從テ入國企業等ノ問題ハ萬已ムヲ得ザレバ後日ニ殘スコトモ或ハ致方無カルベキモ物資獲得ニ付テハ我方要望ヲ達シ得ザルトキハ物動計畫ニ齟齬ヲ來スベク此ノ點軍側ニ於テモ特ニ重視シ居ルニ付此ノ問題ダケハ至急目鼻ノツク様特ニ御盡力ヲ御願ヒスルト共ニ多大ノ期待ヲ掛ケ居ル事情篤ト御諒承ヲ請フ但シ貴電第一九五號御來示ノゴム「スズ」ニツキテハ別電ス

尙本月中ニハ國際情勢モ今少シ見透シ附クベキカト存スル

ニ付是非共其レ迄御苦勞願ヒ入國企業等ノ問題ニ付テモ往電會商第一一〇號第二次案ヲ基礎トシテ出來得ル限り多ク我方要望ヲ達シ度ク切望スルモ何トシテモ御承諾ヲ得ザル場合ニハ兎ニ角右第二次案ヲ御提出相成リ先方ノ出方ヲ見定メラレタル上改メテ御請訓ヲ乞フ

~~~~~

580

昭和16年5月6日

松岡外務大臣より  
芳沢日蘭会商代表宛(電報)

錫・ゴムに関する交渉方針につき訓令

本省 5月6日後6時発

會商第一一三號(極秘、大急、館長符號扱)

貴電第一九五號ニ關シ

協定妥結ノ爲ニハ貴電第一七五及第一八四號御來示線ニ依ル外ナシト存スルモ我方最小限度ノ希望左ノ通申進ス何分ノ御盡力相煩度

一、護謨及錫ニ付テハ前者二萬屯(客年在京公使トノ間ニ於ケル取極ニ於テ二萬屯トナリ居ルニ付此點強硬ニ御主張アリ度)後者三千屯ニテ已ムヲ得ストスルモ蘭側ノ主張スル「右二品カ「タイ」及佛印ヨリ對日輸出セラルル場



合其數量ニ付テハ蘭側カ確實ト信スル資料ニ基キ認定ス」トノ條件ヲ絶對シ拒否セラレタル上「前記ノ數量ハ如何ナル事情ノ下ニ於テモ必ス對日輸出ヲ爲スヘシ」トノ確約ヲ御取付相成度

尙本邦カ佛印ヨリ輸入スル護謄ハ一萬五千屯丈ケニシテ「タイ」分ハ見透シ附カス又錫ニ付テハ佛印ヨリノ輸入見當附キ居ラス「タイ」國ヨリハ鑛石ニシテ一ヶ月四十屯以下ナリ

二、冒頭貴電御來示ノ如ク他ノ物資ニ於テ増量可能ノ御見込アレハ「ボーキサイト」及「ニツケル」鑛ニ於テ夫々四十萬噸及十八萬噸確保致度

三、石油ニ付テハ今直チニ二百萬噸ノ新規買付ニ關スル保障取付至難ナリト存スルモ今後ノ買油交渉ニ依リ買増ヲ爲シ得ル餘地ヲ留保セラルル様致度

四、「キニーネ」八十噸トセラレ度

五、其ノ他ニ付テハ御裁量ニテ可然御取計相成度



581

昭和16年5月9日

芳沢日蘭会商代表より  
松岡外務大臣宛(電報)

錫・ゴムの対日輸入量交渉における蘭側の強硬姿勢に鑑み会商の決裂をも見越し第二次要求を提出する旨具申

バタビア 5月9日後発  
本省 5月10日前着

會商第一九九號(大至急、館長符號扱)

貴電第一〇號<sup>(1)</sup>乃至第一一三號ニ關シ

今回ノ御訓令ハ政府ニ於テ難キヲ忍ンテ到達セラレタル最後ノ御決定ト思考セラレ御苦心ノ程深ク拜察スル處ニシテ從テ是非共今後ノ交渉ノ大筋ニ於テハ御訓令ヲ遂行シタキ決心ナリ七日朝御訓令接受後「ホ」ヨリ石澤ニ會見ヲ求メタルニ付其ノ希望ニ應シ石澤ヲシテ「ホ」ニ會見セシメ旁「モ」ト本使トノ會見方取計ハシメタル處「ホ」ハ日本政府カ護謄ト錫ノ數量ニ付テハ蘭側ノ意見ヲ入レラレタルコトハ結構ナルモ蘭側ノ固ク主張スル條件ニ同意セラレサルコトハ到底容認スルコト能ハサル次第ニテ政府ニ於テモ同様ノ態度ヲ固執スルコトトナルヘキ旨竝ニ「モ」トノ會見ハ翌日トナルヘキ旨述ヘタル趣ヲ承知シタルニ付翌日迄待ツコト能ハス即日會見方直ニ申入レタル結果七日七時半會

見ノコトナレリ石澤同伴「モ」ニ會見(「ホ」同席)錫ト護謨ニ品目ニ付テハ勿論其他ノ品目ヲ初メ會商全般ニ關シ今回日本政府ハ非常ナル決意ヲ以テ交渉ヲ妥結ニ至ラシムルノ熱意ヲ示シ來タリ護謨ニ付テハ二萬噸錫ニ付テハ三千噸迄蘭側主張通り讓歩シ來リタルニ拘ラス貴方ニ於テハ尙右ニ品目ヲ日本カ佛印及「タイ」ヨリ輸入スル場合蘭側ノ單獨意思ヲ以テ右ニ品目ノ對日輸出量ヲ決定スヘキ旨ノ條件ヲ固持セラルルハ如何ニモ手前勝手ト云フヘク「ホ」カ石澤ニ嘗テ申サレタル通り今回ノ會商ニ依リ兩國間ニ横タハレル一切ノ經濟的懸案ヲ解消シテ兩國間ノ關係ヲ明朗化セントスルノ御希望ハ本使ノ最モ贊成スルトコロナルモ日本政府力既ニ數量ニ於テ最後の讓歩ヲナシタルニ拘ラス蘭印政府ノミ尙條件ヲ固執セラルルコトハ「ホ」ノ所謂明朗化ノ希望ニ反スルモノト言ハサルヘカラスト述ヘタル處「モ」ハ「ホ」ノ右ノ言ハ恐ラク(目下ノ戰時狀態ヲ考慮ニ入ルヘキモノトス)トノ言葉ヲ附加シアリタルモノト思考ス即チ「ホ」ノ言ノ通り日蘭印間ノ關係ヲ明朗化スヘキコトハ其ノ通りナルモ蘭印トシテハ獨逸ト云フ敵ヲ利スル行爲ハ一切之ヲ避ケサルヘカラス護謨、錫ノ輸出ニ關スル條

件ハ即チ此ノ目的ニ出ツルモノナリト述ヘタルニ付本使ハ蘭印トシテ一切ノ利敵行爲ヲ避ケンツル原則ハ尤モト思ハルカ此ノ原則ヲ實際ニ應用スル場合利敵トナラサル程度ノ輸出ナラハ毫モ差支ナカルヘク護謨ノ二萬噸錫ノ三千噸ノ數量ニテハ蘭印ヨリ見ルモ利敵行爲トナルヘキ程度ノモノニ非ラス殊ニ貴方ニ於テ主張セラルル如キ條件ヲ附セラルル場合日本政府トシテハ次年度ノ豫算ヲ編成スルコト不可能ナリト述ヘタル處「モ」ハ今日ノ如キ國際情勢ノ變轉極リナキ時代ニ於テハ長期ノ約束ハ不可能ナリト述ヘタルニ付

三、四箇月ノ約束ニテハ約束ノ價值ナク如何ニ少ク期限ヲ附スルニセヨ一箇年以上ナラサルヘカラスト述ヘタル處「ホ」ハ蘭側ノ調査ニ依レハ佛印「タイ」ノ護謨ノ生産量ハ一年十四萬噸ナルカ日本ハ「タイ」ヨリ一萬噸佛印ヨリ三萬五千噸ノ護謨ヲ契約セラレタルコト承知シ居レリ右ニ蘭印ノ二萬噸ヲ加フル時ハ日本ノ需要(蘭側推定)五萬五千噸ヲ超過スルコト一萬噸ニシテ此ノ一萬噸ノ行方ハ何所ナリヤ想像ニ難カラスト述ヘタルニ付本使ハ佛印「タイ」ヨリ餘リ多ク期待シ得ス日本政府力數量ニ於テ護謨、錫共多

大ノ讓歩ヲナシタルニ拘ラス貴方ニ於テハ尙此ノ額ヲモ更ニ今後減少スルコトモアルヘシトセラルル場合ニハ輸出ノ確約ナキト同様ニテ不安極リナク旁々數量ハ最少需要量ニ減少シタル代リ如何ナル場合ニ於テモ此ノ數量丈ハ必ス輸出スヘキ旨ノ確約ヲ得タキコトヲ堅ク主張スルモノニシテ此ノ上ハ我方トシテ一時モ讓歩スル能ハサルコトヲ茲ニ斷言スルモノナリト闡明シ置キタリ之ニ對シ「モ」ハ蘭側トシテハ先刻モ申ス通り蘭側ノ意思ヲ以テ輸出货量ヲ決定スヘシトノ條件ヲ固執スルモノナルモ折角ノ御申出ニ付兎ニ角考慮スヘシト答ヘタリ以上ハ「モ」トノ會談ノ要領ナルカ右ニ依リ御承知相成ルヘキ通り護謄ト錫ニ關スル蘭側ノ態度ハ依然強硬ニシテ此ノ際若シ我方ニ於テ多少讓歩ノ色ヲ示サハ先方ニ於テハ或ハ附上ル惧モアルニ付本使トシテハ御訓示ニ基キ此ノ上一步モ讓歩セサル態度ヲ堅持シ讓歩スヘキ順番ハ蘭側ナリトスル態度ヲ持續スヘク從テ蘭側ニシテ此ノ問題ニ付讓歩セサル場合ハ其ノ他ノ物資ニ關スル交渉モ豫テ「ホ」カ石澤ニ話シタル通り妥結ニ至ラサルヤモ計リ難ク其ノ場合會商全般ハ或ハ決裂ノ已ムナキニ至ルヤモ計リ難ク就テハ其ノ場合ヲ考慮シ此ノ際御訓示ノ第二次

案ヲモ提出シ置キ（政府ニ於テハ國際情勢カ我方ニ有利ニ轉回スルヲ待チ第二次案ヲ提出シタキ御希望ナルヤニ拜察セラルルモ右國際情勢ノ有利ニ轉回スル場合ハ英國上陸作戰ヲ意味セラルルモノト思ハルルモ右上陸作戰ハ果シテ實行セラルルヤ又實行セラルルモ果シテ成功スルヤ目下尙不明ナル上護謄及錫ニ關スル條件ノミニテ日蘭會商カ決裂スルコトナリテハ世間ヨリ見テ如何ニモ了解シ難シト思考ス）愈々先方ヨリ會商打切り通告シ來ル時ハ日本側トシテハ會商全般ニ付難キヲ忍ンテ妥協的精神ヲ發揮シ入國企業交通通商一切ノ經濟問題ヲ含ム公正ナル妥協案ヲ提出シテ交渉ヲ妥結セシメントシタルニ拘ラス蘭側力區々タル條件即チ護謄及錫ノ輸出货量ニ關スル極メテ實際ニ即應セサル一方的ノ不公正ナル條件ヲ固執シタル爲決裂ニ至リタリト天下ニ聲明致度キ所存ニテ飽迄強硬ナル態度ヲ持續スヘキニ付右御含置請フ

582

昭和16年5月14日

芳沢日蘭會商代表より  
松岡外務大臣宛（電報）

わが方第二次要求を蘭側へ提出について

付記 昭和十六年五月十四日

右第二次要求と訳文

バタビア 5月14日後発

本省 5月14日夜着

會商第二〇一號

貴電會商第一一一號ニ關シ(蘭印交渉ニ關スル件)

十四日本使「モ」ノ會見(石澤「ホ」同席)第二次案ヲ英文ニ認メ「メモランダム」トシテ手交シ蘭側ニ於テ之ヲ總括的ニ考究シ之カ受諾方回答アリタキ旨ヲ申入ルルト共ニ右受諾アル場合ハ砂糖其ノ他蘭側力特ニ輸出ヲ希望スルモノニ付テハ適當量ノ買ヒ増ヲ考慮スヘシト述ヘタリ「モ」ハ篤ト考究致シタル上何分ノ回答ヲ爲スヘキ處數日中ニハ蘭側ノ態度ヲ決定シ得ヘシト答タリ次ニ本使ヨリ七日ノ會見ニ於テ護謄ト錫ニ關シ再考ヲ求メ置キタルカ結果ヲ承知致度シト追求セルニ「モ」ハ總テノ問題ニ付總括的ニ御返事致スヘシトテ即答ヲ避ケタリ

尙一月十六日附日本側要求提出後政府ヨリ「サイザル」四萬噸ノ輸入ヲ希望スルニ付右ヲ追加スル様御訓令越シアリタルヲ以テ併テ考慮アリタキ旨附言シタルカ「モ」ハ日本

側ノ要求品目ハ既ニ總督ニ提示済ナルニ付新シキ品目ヲ追加スルコトハ避ケタク別ニ取扱フコトト致度シト主張セリ

(付記)

(入國、企業、交通通信問題ニ關スル要求邦譯文)

覺書

日本代表部ハ、一九四一年一月十六日和蘭代表部ニ對シテ其ノ提出セル覺書ヲ再考慮シ、次ノ新提案ヲ和蘭代表部ニ對シテ茲ニ提出ス。但シ日本代表部ハ、前記覺書ノ前文ニ表明セラレタル日本側見解ハ日本政府ノ依然堅持スル所ナル旨明確ナラシメ置キ度シ。

(一)、入國關係

(イ)、蘭印政府ハ日本人從業員ノ入國ニ付關係者ヨリ許可ノ申請アル場合現行法令ノ範圍内ニ於テ事情ノ許ス限り多數且迅速ニ許可方好意的考慮ヲ加ヘ少クトモ年千六百名迄ハ許可ヲ與フベシ。

(ロ)、從業員交替許可申請者及許可延長申請者竝入國ノ目的カ一時的ナル者ハ(イ)ノ項ノ數ニ包含セラレズ。

(ハ)、日本人ノミノ治療ニ從事スル目的ヲ以テ渡來スル日

本人醫師(齒科醫ヲ含ム)ノ入國開業ハ各地方ニ於ケル必要ヲ考慮シ全体トシテ一定數ヲ限り之ヲ許可スベシ尤モ外領ニ於ケル日本人ノ企業ニ關係スル日本人従業員ノ治療ニ從事スルコトヲ許可セラレタル日本人醫師(齒科醫ヲ含ム)ハ要スレハ當該外領ニ於ケル日本人企業ニ關係スル日本人以外ノ従業員又ハ使用人ヲモ治療スルコトヲ得。

(二)、企業及營業關係

蘭印政府ハ日本人單獨又ハ合併ノ各種企業及營業ノ新設又ハ擴張等ニ關シ關係者ヨリ承認又ハ許可ノ具體的申請アル場合其ノ都度之ヲ好意的ニ審議シ國防上ノ理由ニ依リ又ハ蘭印人ノ爲保留スルノ必要上特別ノ支障ナキ限り計畫遂行上必要ト認メラル、事前調査ヲ許容シ且右新設又ハ擴張等ヲ承認又ハ許可スルト共ニ右承認又ハ許可ノ上ハ従業員ノ雇傭及運搬施設其ノ他必要ナル設備ヲ施スコト等ニ付出來得ル限り好意的ニ取計ヒ必要ナル便宜ヲ供與スベシ殊ニ蘭印政府ハ

(イ)、鑛業ニ關シ日本人企業家ヨリ探鑛又ハ採鑛ノ許可申請アル場合之ヲ好意的ニ審議シ特別ノ支障ナキ限り許

可スベシ尙政府保留地域内ニ於ケル鑛業ニ付日本人企業家ヨリ鑛業法第五條Aニ基キ探鑛又ハ採鑛ノ許可申請アリタル場合ニ付テモ亦同ジ

(ロ)、水産業ニ關シ日本人關係者ヨリ具體的ニ許可申請アル場合國防上ノ理由ニ依リ又ハ蘭印人特ニ土人ノ爲保留スルノ必要上特別ノ支障ナキ限り之ヲ許可スヘク又日本人水産業ニ關係スル従業員ノ雇傭及其ノ經營ノ爲必要ナル附帶施設ヲ設クルコト等ニ付テモ好意的ニ取計ヒ必要ナル便宜ヲ供與スベシ

(ハ)、商業及各種營業ニ關シ日本人ヨリ許可申請ヲ爲ス場合特別ノ支障ナキ限り之ヲ許可スヘク倉庫業其他既に營業制限令ノ適用ヲ受ケ居ルモノニ付テモ具體的ニ申請アラバ個々ノ場合ニ付好意的考慮ヲ加ヘ特別ノ支障ナキ限り之ヲ許可スベシ

(三)、交通通信關係

(イ)、蘭印政府ハ日蘭印間ノ航空發達ハ兩國經濟關係ノ緊密化ニ寄與スル所大ナルベキヲ以テ將來適當ノ機會ニ日蘭印間直通航空事業ノ開設方ニ付日本政府ト協力スベク尙差當リ盤谷及西貢其他ニ於ケル日蘭機連絡ノ改

善方ニ付日本政府ト協力スベシ

(ロ)、日蘭印間ノ電信連絡ニ關シテハ蘭印政府ハ安全且能率ナル通信ヲ建設スル爲將來適當ノ機會ニ技術的ニ最新式ナル海底電線ヲ日本ノ管理下ニ建設スルコトニ付日本政府ト協力スベク尙差當リ「マラバル」無電對日連絡改善方竝「ヤップ」「メナド」間海底電線利用方ニ付日本政府ト協力スベシ

(ハ)、沿岸航海ニ關シテハ既存ノ日本人企業ニシテ事業ノ進行ニ伴ヒ沿岸航海自營ノ必要痛感セラル、モノニ付テハ前廣ニ申請アル場合竝新規ノ日本人企業ニシテ事業ノ進行ニ伴ヒ沿岸航海自營ノ必要予想セラル、モノニ付テハ最初ヨリ事業計画ノ一部トシテ申請アル場合蘭印政府ハ國防上ノ理由ニ依リ特別ノ支障ナキ限り之ヲ許可スベシ

尙蘭印政府ハ既に日本人ニ許可シ居ル沿岸航海ニ關シ日本人關係者ヨリ日本船舶ノ隻數又ハ噸數増加ノ必要アリトシテ許可申請アル場合ニハ特別ノ支障ナキ限り之ヲ許可スベキコト及右既存船舶ノ運行經營及沿岸貿易ヲ困難ナラシムルノ意圖ナキコトヲ言明ス

(ニ)、日本人企業ノ經營又ハ生産ノ増大若クハ日蘭印間貿易ノ増進ニ伴ヒ不開港場ヲ特定產物ノ爲ノ開港場若クハ一般的開港場ト爲スノ必要生ズルニ至リ關係業者ヨリ要請アル場合ニハ蘭印政府ハ特別ノ支障ナキ限り右要請ニ應ズベシ

(ホ)、日本向物資積出ノ爲日本船舶ノ不開港場寄港ヲ必要トスル場合關係者ヨリ申請アラバ蘭印政府ハ特別ノ支障ナキ限り之ヲ許可スベク又其ノ手續ヲ迅速且容易ナラシムベシ

(五月十四日蘭側ニ提出セル日本品ニ對スル蘭印輸入割當要求邦譯文)

第一表

| 統計番號    | 品名                                            | (A) 蘭印輸入許可<br>數量ニ對スル日<br>本品ノ輸入割當<br>要求百分比率 | (B) 日本品ニ割當テラル<br>ヘキ最低數量 |
|---------|-----------------------------------------------|--------------------------------------------|-------------------------|
| 二五一     | セメント                                          | 一〇〇・〇                                      | 一三〇、〇〇〇千B 珎             |
| 一三二     | 麥酒(スタウト以外ノ瓶詰)                                 | 八〇・〇                                       | 二、〇〇〇千 立                |
| 一五四—一五二 | 晒綿布                                           | 一〇〇・〇                                      | 一〇四、四〇〇千 米              |
| 一五三—一五五 | キヤムブリツクス                                      | 一〇〇・〇                                      | 一、二〇〇千 米                |
| 一五七—一五九 | キヤムブリツクス、シャータインクス、エレフ<br>アント及マダホラムス           | 一〇〇・〇                                      | 二五、三〇〇千 米               |
| 一五六六    | シャータインクス及ロングクロス                               | 一〇〇・〇                                      | 二〇、五〇〇千 米               |
| 一五七—一五九 | ドリル、ジンス及トウイル                                  | 一〇〇・〇                                      | 一二、五〇〇千 米               |
| 一五七—一五九 | サテン、フランネル及其他ノ晒綿布                              | 一〇〇・〇                                      | 七、〇〇〇千 米                |
| 一五三及一五四 | 未晒綿布                                          | 九七・〇                                       | 二、〇〇〇千 米                |
| 一五二五    | キヤリコツト                                        | 九七・〇                                       | 一〇、三〇〇千 米               |
| 一五二六    | シャータインクス(スーパ)及其他特記セサル<br>平織物、幅二九吋以下、(糸數三五本以下) | 九七・〇                                       | 三四、六〇〇千 米               |
| 一五七及一五八 | 同 幅三〇—三三吋、(糸數三五本以下)                           | 九八・〇                                       | 二、四〇〇千 米                |
| 一五二九    | 同 幅三四—三六吋、(糸數三七本以下)                           | 一〇〇・〇                                      | 二九、一〇〇千 米               |
| 一五三〇    | 同 幅三七—四一時、(糸數三三本以下)                           | 一〇〇・〇                                      | 六、四〇〇千 米                |
| 一五三及一五三 | 同 幅四二吋以上、(糸數三六本以下)                            | 九二・〇                                       | 二、〇〇〇千 米                |
|         | ジャバンシャータインクス幅三六吋以下                            | 九二・〇                                       | 二、〇〇〇千 米                |



5 第二次提案の提出と日蘭会商の打切り

|         |                        |       |            |
|---------|------------------------|-------|------------|
| 一五三三    | 同 幅三七吋以上               | 一〇〇・〇 | 三、五〇〇千 米   |
| 一五三四    | ドリル及ジンス、幅二三吋以下、糸數三二本以下 | 一〇〇・〇 | 七、六〇〇千 米   |
| 一五三五    | 同 幅二三吋以上、糸數三二本以下       | 一〇〇・〇 | 四〇〇千 米     |
| 一五三六    | 同 幅三〇吋以下、糸數三三―三七本      | 一〇〇・〇 | 一七〇千 米     |
| 一五三七    | 同 幅三二吋以上、糸數三三―三七本      | 一〇〇・〇 | 三六〇千 米     |
| 一五三八    | 同 幅二八吋以下、糸數三八本以上       | 一〇〇・〇 | 九、二〇〇千 米   |
| 一五三九    | 同 幅二九吋以上、糸數三八本以上       | 一〇〇・〇 | 二〇〇千 B 鈺   |
| 一五四〇    | 其ノ他ノ未晒綿布               | 八五・〇  | 七〇〇千 方 米   |
| 七四〇     | 鑄鐵製フライ鍋                | 八七・〇  | 一六〇千 打     |
| 四六及一四六  | 窓硝子(無色透明)              | 一〇〇・〇 | 八〇〇千 打     |
| 四七四及四七五 | 硝子水呑コップ、無色(非切子)        | 一〇〇・〇 | 一、四〇〇千 打   |
| 四七八及四七九 | 硝子封度瓶、普通品              | 一〇〇・〇 | 五〇〇千 打     |
| 四八二及四八三 | 硝子ランプホヤ(非雲母製)          | 九三・〇  | 三、四〇〇千 B 鈺 |
| 七四六     | エナメル製鍋、弁當箱、洗面器及湯沸      | 九三・〇  | 二、六〇〇千 臺   |
| 七四六     | エナメル製皿、指洗、コップ匙及特記セサル臺  | 九三・〇  | 六、三〇〇千 B 鈺 |
| 八三三     | 自轉車(自動自轉車ヲ除ク)          | 一〇〇・〇 | 七、五〇〇千 個   |
| 八三四     | 同 部分品及附屬品、特記セサルモノ      | 一〇〇・〇 | 二、三〇〇千 個   |
| 四八〇     | 自轉車及懷中電燈用電球            | 八八・〇  | 四、四〇〇千 個   |
| 一四八〇    | 自動車用電球                 | 八八・〇  | 三六〇千 打     |
| 二四八〇    | 家庭用電球                  | 八八・〇  | 九〇千 打      |
| 九〇八     | 齒刷子                    | 八〇・〇  |            |
| 九一三     | ペンナイフ                  | 一〇〇・〇 |            |

|        |                        |       |          |
|--------|------------------------|-------|----------|
| 九一四    | 各種鋏（バリカンヲ含ム）           | 一〇〇・〇 | 一〇〇千B 盥  |
| 九一五    | 家庭用ナイフ                 | 五五・〇  | 七〇千 打    |
| 九一六    | 剃刀及同刃                  | 九六・〇  | 四〇千B 盥   |
| 九一七    | 其ノ他ノ刃物                 | 八四・〇  | 二六千B 盥   |
| 九三六    | 石油ランプ及同部分品鉾力笠付提ランプ     | 一〇〇・〇 | 二〇千 打    |
| 九三七    | 同 硝子笠付提ランプ             | 一〇〇・〇 | —        |
| 九三八    | 同 壁掛ランプ                | 一〇〇・〇 | 三〇〇千 打   |
| 九三九    | 同 特記セサルモノ              | 一〇〇・〇 | 一八〇千B 盥  |
| 一六二八   | 浴用タオル                  |       |          |
| 同      | 綿製浴用タオル（打一、三二〇瓦以下）     | 九〇・〇  | 三六〇千 打   |
| 一六二二   | 同（同 以下）                | 一〇〇・〇 | 九〇〇千 枚   |
| 一六二四   | 綿毛布                    | 一〇〇・〇 | 一一〇千 枚   |
| 四四八    | 兵隊毛布                   | 八〇・〇  | —        |
| 四四九    | 衛生陶器                   | 九八・〇  | 三四〇千B 盥  |
| 一四四九   | 移動式衛生陶器及同部分品           | 九八・〇  | 一三〇千B 盥  |
| 四四九    | 固着式衛生陶器                |       |          |
| 同      | 部分品及附屬品                |       |          |
| 同      | 陶器                     |       |          |
| 四三—四三  | 粗製陶器特記セサルモノ            | 一〇〇・〇 | 三、九〇〇千 打 |
| 四三七—四三 | 上質陶磁器特記セサルモノ           | 五〇・〇  | 六六〇千B 盥  |
| 四三六    | 粗製陶器其ノ他ノモノ             |       |          |
| 四四、四六  | 支那製飯碗及匙、其他ノ特記セサル上質陶磁器、 |       |          |
| 及四七    | 竝ニ組物及同部分品、アスパラガス皿、パイ皿、 |       |          |

|         |                                      |       |          |     |
|---------|--------------------------------------|-------|----------|-----|
| 一五七〇    | 色染綿布、キャンブリックス                        | 一〇〇・〇 | 三四、〇〇〇千  | 米   |
| 一五七一    | 同 ジンス、ドリル、トウイル、幅二六吋以下                | 一〇〇・〇 | 五〇〇千     | 米   |
| 一五七二    | 同 同 黒染物、幅二七―二八吋、糸數三二本以下              | 一〇〇・〇 | 四六、〇〇〇千  | 米   |
| 二五七二    | 同 同 黒染以外、幅二七―二八吋糸數三二本以下              | 一〇〇・〇 | 二一、二〇〇千  | 米   |
| 三五七二    | 同 同 幅二七吋以上糸數三三本以上                    | 九三・〇  | 一一、三〇〇千  | 米   |
| 四五七二    | 同 同 幅二九吋以上糸數三二本以上                    | 八五・〇  | ―        |     |
| 一五七三    | 色染綿布朱子、イタリアン、ラスチュプ及ヴェネシアン並ニ上記ノプロツシエ物 | 一〇〇・〇 | 一、二〇〇千   | 米   |
| 一五七四    | 同 綿ネル                                | 一〇〇・〇 | 一、〇〇〇千   | 米   |
| 一五七五    | 同 上記以外ノモノ及其他ノプロツシエ物幅二四吋以下、糸數三二本以下    | 九六・〇  | 二三、四〇〇千  | 米   |
| 四一八     | 石 鹼                                  | 九〇・〇  | 三、六〇〇千   | B 疋 |
| 四九―四二   | 化粧石鹼                                 | 五〇・〇  | 七〇〇千     | B 疋 |
| 一五二―一五三 | 洗濯石鹼及其ノ他ノ石鹼                          | 六六・〇  | 五六〇千     | B 疋 |
| 一五三―一五四 | 綿縫糸                                  | 一〇〇・〇 | 六五〇、〇〇〇千 | 米   |
| 一五二―一五三 | 綿縫糸、ボビン卷                             | 一〇〇・〇 | 五〇〇千     | B 疋 |
| 一五二―一五三 | 同 球卷                                 | 一〇〇・〇 | 一一〇千     | B 疋 |
| 一五二―一五三 | 同 其他                                 | 一〇〇・〇 | 一一〇千     | B 疋 |
| 六二〇     | 包装紙、統計番號六一九ニ該當セサル其ノ他ノモノ              | 九七・〇  | 一一、〇〇〇千  | B 疋 |
| 一五七〇    | 織 物                                  | 一〇〇・〇 | 三四、〇〇〇千  | 米   |
| 一五七一    | 同 ジンス、ドリル、トウイル、幅二六吋以下                | 一〇〇・〇 | 五〇〇千     | 米   |
| 一五七二    | 同 同 黒染物、幅二七―二八吋、糸數三二本以下              | 一〇〇・〇 | 四六、〇〇〇千  | 米   |
| 二五七二    | 同 同 黒染以外、幅二七―二八吋糸數三二本以下              | 一〇〇・〇 | 二一、二〇〇千  | 米   |
| 三五七二    | 同 同 幅二七吋以上糸數三三本以上                    | 九三・〇  | 一一、三〇〇千  | 米   |
| 四五七二    | 同 同 幅二九吋以上糸數三二本以上                    | 八五・〇  | ―        |     |
| 一五七三    | 色染綿布朱子、イタリアン、ラスチュプ及ヴェネシアン並ニ上記ノプロツシエ物 | 一〇〇・〇 | 一、二〇〇千   | 米   |
| 一五七四    | 同 綿ネル                                | 一〇〇・〇 | 一、〇〇〇千   | 米   |
| 一五七五    | 同 上記以外ノモノ及其他ノプロツシエ物幅二四吋以下、糸數三二本以下    | 九六・〇  | 二三、四〇〇千  | 米   |

|      |                                             |       |          |   |
|------|---------------------------------------------|-------|----------|---|
| 二五七五 | 同 同 幅二四吋以上、糸數三三本以上                          | 八四・〇  | — 千      | 米 |
| 一五七六 | 同 同 幅二五吋上                                   | 一〇〇・〇 | 三〇、九〇〇 千 | 米 |
| 一五七七 | 捺染綿布、ドリル、ジンス、トウイル、立縮捺染物 幅二八吋以下、糸數三三本以下      | 一〇〇・〇 | 二四、二〇〇 千 | 米 |
| 二五七七 | 同 同 右以外ノモノ                                  | 一〇〇・〇 | — 千      | 米 |
| 一五七八 | 同 朱子                                        | 一〇〇・〇 | — 千      | 米 |
| 一五七九 | 同 綿ネル                                       | 一〇〇・〇 | — 千      | 米 |
| 一五八二 | 同 上記以外ノ捺染物 幅二四吋以下、糸數三二本以下                   | 一〇〇・〇 | 八六、四〇〇 千 | 米 |
| 二五八二 | 同 同 幅二四吋以下 糸數三三本以上                          | 九六・〇  | — 千      | 米 |
| 一五八三 | 同 同 幅二五吋以上                                  | 一〇〇・〇 | 三三、三〇〇 千 | 米 |
| 一五八四 | 糸染綿布ドリル、ジンス及トウイル 幅二四以下 糸數三三本以上白地物(ルーリツクヲ除ク) | 一〇〇・〇 | 六九、四〇〇 千 | 米 |
| 二五八四 | 同 同 其ノ他ノモノ                                  | 一〇〇・〇 | 九〇〇 千    | 米 |
| 一五八九 | 糸染綿布綿ネル                                     | 九八・〇  | — 千      | 米 |
| 一五九〇 | 同 柳條布(ベツトクロス)                               | 一〇〇・〇 | 六、七〇〇 千  | 米 |
| 一五九一 | 同 上記以外ノモノ 幅二四吋以下 糸數二六本以下(サロン制限令ニ含マレルモノヲ除ク)  | 九八・〇  | 八、九〇〇 千  | 米 |
| 二五九一 | 糸染上記以外ノモノ 幅二四吋以下 糸數二七本以上                    | 九六・〇  | — 千      | 米 |
| 一五九二 | 同 同 幅二五吋以上                                  | 九八・〇  | 一八、二〇〇 千 | 米 |
| 一五九四 | 蚊帳地用織物(「テュール」ヲ含ム)                           | 一〇〇・〇 | 五、八〇〇 千  | 米 |
| 一五九六 | 綿ボイル及半ボイル                                   | 一〇〇・〇 | 三、七〇〇 千  | 米 |

|           |                                               |       |           |
|-----------|-----------------------------------------------|-------|-----------|
| 二五九六      | 綿アジュール物、金銀箔捺染物、マーセライズ物、絹交織物及其他特殊物             | 一〇〇・〇 | 二、五〇〇千    |
| 一五七一・一六〇八 | 綿サロン、カインバンジャン、スレンジャン、カインカバラ等                  | 九五・〇  | 二〇〇千コルゼ   |
| 一六〇及一六三三  | 毛織物及毛交織物                                      | 一〇〇・〇 | 三一〇千B 疋   |
| 一六一六      | 絹織物                                           | 八九・〇  | 八〇千 疋     |
| 一六一七      | 絹交織物                                          | 一〇〇・〇 | 三一〇千 疋    |
| 一六一八      | 人絹及人絹交織物                                      | 一〇〇・〇 | 三、二〇〇千N 疋 |
| 一六一九及一六三〇 | 麻織物及麻交織物                                      | 一〇〇・〇 | 二六〇千B 疋   |
| 二六二一      | 其他ノ織物(シユートヲ混織セル綿製品)                           | 一〇〇・〇 | 三六〇千 疋    |
| 一六三三及一六三五 | 被覆物及上掛物竝ニ毛布(純毛ノモノ、羊毛ノモノ、起毛サレサルモノ、製品タルト否トヲ問ハス) | 九五・〇  | 四〇千 疋     |
| 一六六及一六七   | 卓子掛、ナブキン類(綿製、麻製、竝ニ半麻製)及其他ノ類似品竝ニシート(綿麻及半麻製)    | 八二・〇  | 九〇千 疋     |
| 一六三〇      | 白手巾、綿麻及半麻製、表面積四〇〇平方吋以下                        | 九八・〇  | 一一〇千 打    |
| 二六三〇      | 白以外ノ手巾 同                                      | 一〇〇・〇 |           |
| 二六三一      | 糸染(縞)手巾、綿製及半麻製、表面積四〇〇平方吋以下                    | 九八・〇  | 二二〇千 打    |
| 三六三二      | 其他ノ糸染(縞)手巾、同                                  | 一〇〇・〇 | 一         |
| 一六三二      | 其他特掲ナキ手巾(人絹及半人絹製以外ノモノ)                        | 一〇〇・〇 | 九五〇千 打    |
| 同         | 同 (人絹及半人絹製ノモノ)                                | 一〇〇・〇 |           |
| 一六三三      | 天鵞絨(カオツシヲ含ム)衣服用、綿製ノモノ                         | 一〇〇・〇 | 二七〇千B 疋   |
| 一六三三      | 同 同 其他ノモノ                                     | 一〇〇・〇 | 一四〇千 疋    |
| 二六三七      | 窓掛、家具用布、壁掛布                                   | 一〇〇・〇 | 四五〇千 疋    |

| 統計番號 | 品名     | (A) 別一號ノ通表 |  | (B) 別表第一號ノ通 |
|------|--------|------------|--|-------------|
|      |        |            |  |             |
| 一〇〇  | 鰯罐詰    | 八四・〇       |  | 九、九〇〇千B 疋   |
| 一四二二 | セロファン紙 | 一〇〇・〇      |  | 五〇〇千B 疋     |

  

|                               |                                                                         |                      |                              |
|-------------------------------|-------------------------------------------------------------------------|----------------------|------------------------------|
| 五八六及五八九<br>五九六及六〇一<br>六〇〇及六〇三 | 特記セサル莫大小製品及絹製品<br>自動車タイヤ<br>タイヤ、自動車及自動自転車用<br>チューブ、同<br>既製衣服類           | 九一・〇<br>七八・〇<br>七五・〇 | 四、一〇〇千B 疋<br>六九〇千 疋<br>八〇千 疋 |
| 五八六                           | 男子及少年用上衣洋服、外套、半ズボン既製品、<br>ビヂヤマ、浴衣、和服及其他上衣ト見ラル、モノ                        | 五九・〇                 | 一二〇千B 疋                      |
| 五八七                           | 婦人及少女並小兒用上衣、少女服、小兒服既製品、<br>品、和服、浴衣、ビヂヤマ、ハツビイコート、<br>ベビー服、カバヤ等           | 九五・〇                 | 一三〇千 疋                       |
| 五九〇                           | 綿製ベロース、ポロシヤツ                                                            | 一〇〇・〇                | 一                            |
| 五九一                           | 其他ノ下着類、ワイシヤツ、シヤツ、猿又、ツ<br>ボン下、肌着、乳カクシ、寢卷及其他下着ト見<br>ラルル各種既製品(但シ莫大小製品ヲ含マス) | 九〇・〇                 | 八八〇千B 疋                      |
| 五九六                           | 別掲以外ノ衣服類、ショール、頸卷、ヴェール、<br>面綱、ゲートル、前掛、エプロン、足袋、脚半、<br>腹卷等(但シ莫大小製品ヲ含マス)    | 九七・〇                 | 五五千B 疋                       |
| 六〇〇                           | 各種帽子(但シ婦人帽、男子用中折帽、竹帽子<br>等ヲ含マス)                                         | 九八・〇                 | 二、一七〇千 個                     |

第二表

編 注 本文書の原文(英文)は省略。

本文書は、昭和二十六年六月、外務大臣官房文書課作成「外交史料 日、蘭印經濟交渉ノ部」より抜粋。

|         |              |       |           |
|---------|--------------|-------|-----------|
| 四七七     | 硝子瓶          | 九〇・〇  | 一、三〇〇千B打  |
| 四八六     | 硝子器(皿、コップ等)  | 九六・〇  | 二、九〇〇千B打  |
| 五〇六     | ベニア板         | 九八・〇  | 三、〇〇〇千組   |
| 二五〇六    | 同附屬品         | 一〇〇・〇 | 二、七〇〇千B打  |
| 五四九     | 綿糸           | 八七・〇  | 一〇、〇〇〇千B打 |
| 五五〇     | 生糸           | 七〇・〇  | 二〇〇千B打    |
| 二五五〇    | 人絹糸          | 一〇〇・〇 | 二、〇〇〇千B打  |
| 三五〇九    | スフ糸          | 一〇〇・〇 | 二、〇〇〇千B打  |
| 五五六―五五九 | 刺繡糸          | 一〇〇・〇 | 九二〇千B打    |
| 五七九     | 刺繡製品及レース及同製品 | 九八・〇  | 五〇〇千B打    |
| 五三及五三   | 綿製靴下         | 七〇・〇  | 二〇〇千打     |
| 二六二五    | 煙草用紙         | 九八・〇  | 七〇〇千B打    |
| 八七五     | 織物工場用機械器具    | 一〇〇・〇 | 二、五〇〇千B打  |
| 一八九四    | 懷中及自轉車用乾電池   | 五〇・〇  | 六、〇〇〇千個   |
| 九八六     | 帽子、靴、布帛製裝身具  | 九五・〇  | 三〇〇千B打    |
| 九九五     | 玩具           | 九二・〇  | 二、〇〇〇千B打  |

583

昭和16年5月21日

芳沢日蘭会商代表より  
松岡外務大臣宛(電報)

第二次要求付属の蘭印物資買付案(第三表)を  
蘭側へ提出について

付記 右第三表和訳文



バタビア 5月21日後発  
本省 5月22日前着

會商第二〇六號(館長符號扱)

往電會商第二〇一號ニ關シ

物資買付ニ付テハ曩ニ我方ヨリ口頭ヲ以テ大體我方要求量ヲ蘭側ニ説明シ置キタルカ先方ノ希望モアリ二十日右一括「リスト」トシテ蘭側ニ送付セリ主要品目數量左ノ通

(一) 護謄、錫、「ニツケル」鑛、「ボーキサイト」、「キニーネ」ハ貴電會商第一一三號ノ一、二、四ノ數量其ノ儘

(二) 鑛油ハ百八十萬噸トシ尙貴電會商第一〇七號及第一一三號ノ三ノ趣旨ヲ取入レ「蘭印政府ニ於テ増産其他ノ方法ニ依リ三百八十萬噸ニ至ル迄對日輸出増量方盡力スヘキ旨竝ニ日本政府ハ少クモ五ヶ年間三百八十萬噸迄買付クル用意アル旨」附記セリ

(三) 「コプラ」及「パーム」油ハ貴電會商第一〇三號ニ御訓電ノ次第ハ有ルモ蘭側カ二萬噸及一萬二千噸ニ迄折レ來リタル際飽迄三萬噸及二萬噸ヲ押シ通スコトハ「ホ」及「モ」ノ顔ヲ潰スコトトナリ不得策ナルノミナラス結局不可能ナルヘキ處「コプラ」ハ當初「ホ」カ二萬五千噸

トセルヲ「モ」カ之ヲ二萬噸ト削減セル經緯アリタルニ鑑ミ二萬五千噸ヲ要求シ置キタリ「パーム」油ハ九六〇噸ヨリ一躍一萬二千噸ニ引上ケクレタルコトニモアリ蘭側意嚮通り一萬二千噸トセリ

(四) 滿俺鑛ハ生産量少ナキモ貴電會商第一〇三號ノ五ノ次第モアリ二萬噸トセリ

(五) 「ヒマシ」、「カボック」、「タンニン」劑、「ピツチコークス」ハ往電會商第一八四號數量

(六) 屑鐵六萬噸、規那皮六百噸、黃麻一千三百噸、「サイザル」四萬噸、砂糖十萬噸其他ノ物資ハ第一次提案其儘變更セス

(七) 尙末尾ニ日本代表ハ五月十四日附日本側覺書ニ對スル蘭側回答カ「フエボラブル」ナルニ於テハ二月三日附蘭側覺書ニ依ル蘭側希望ニ鑑ミ蘭印物資ノ日本ヘノ輸入特ニ砂糖及珈琲ニ付本表ニ掲記セル數量以上ニ増量買付方日本政府ニ進言スヘキ旨附記シ置キタリ  
本件「リスト」郵送ス

(付記)

5 第二次提案の提出と日蘭会商の打切り

| 第三表                |                                                                                               | (邦譯文)   |
|--------------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------|---------|
| 品目                 | (單位 廬)                                                                                        | 蘭印物資買付量 |
| 1、珈琲               | 四八〇                                                                                           |         |
| 2、木材               | 六五、〇〇〇                                                                                        |         |
| 3、縞黒檀              | 三四〇                                                                                           |         |
| 4、ダマル及コパール         | 一、四五〇                                                                                         |         |
| 5、カポック(種付ヲ含ム)      | 一、〇〇〇                                                                                         |         |
| 6、カポック種子           | 五、五〇〇                                                                                         |         |
| 7、玉蜀黍              | 八〇、〇〇〇                                                                                        |         |
| 8、コブラ              | 二五、〇〇〇                                                                                        |         |
| 9、カツサバ、ルート         | 八、〇〇〇                                                                                         |         |
| 10、籐               | 一、〇〇〇                                                                                         |         |
| 11、パーム油            | 一二、〇〇〇                                                                                        |         |
| 12、屑鐵(鉞力屑ヲ含ム)      | 六〇、〇〇〇                                                                                        |         |
| 13、棉花              | 一、六〇〇                                                                                         |         |
| 14、タンニンゲ材料         | 四、〇〇〇                                                                                         |         |
| 15、砂糖              | 一〇〇、〇〇〇                                                                                       |         |
| 16、生護謨             | 二〇、〇〇〇                                                                                        |         |
| 17、錫               | 三、〇〇〇                                                                                         |         |
| 18、錫鑛(七三%以上錫ヲ含ムモノ) | 四〇〇、〇〇〇                                                                                       |         |
| 19、ボーキサイト          | 一八〇、〇〇〇                                                                                       |         |
| 20、ニツケル鑛           | 二〇、〇〇〇                                                                                        |         |
| 21、滿俺鑛             | 一〇〇、〇〇〇                                                                                       |         |
| 22、工業鹽             | 六、〇〇〇                                                                                         |         |
| 23、ヒマシ             | 六〇〇                                                                                           |         |
| 24、規那皮             | 八〇                                                                                            |         |
| 25、キニーネ            | 一、八〇〇、〇〇〇                                                                                     |         |
| 26、鑛油              | 差當り一百八十萬屯ト記入シタル上「蘭印政府ニ於テ増產其他ノ方法ニ依リ三百八十萬屯ニ達スル迄對日輸出方盡カスヘキ旨竝ニ日本政府ハ少クモ五ヶ年間毎年三百八十萬屯迄買付クル用意アリ」ト附記セリ |         |
| 27、ピッチ・コークス        | 二五、〇〇〇                                                                                        |         |
| 28、黃麻              | 一、三〇〇                                                                                         |         |
| 29、糖蜜              | 六〇、〇〇〇                                                                                        |         |

編注 本文書の原文(英文)は省略。

本文書は、昭和二十六年六月、外務大臣官房文書課作成「外交史料 日、蘭印經濟交渉ノ部」より抜粋。

584

昭和16年5月21日

松岡外務大臣より  
芳沢日蘭会商代表宛(電報)

わが方第二次要求を蘭側は全面的に拒絶する  
との情報について

本省 5月21日前4時55分発

會商第一二〇號(大至急、館長符號扱)

確實ナル情報ニ依レバ蘭印ハ我方最後案ヲ全面的ニ拒否シ  
貴代表ノ歸國ヲ促スコトニ決定セル趣ナリ

585

昭和16年5月21日

松岡外務大臣より  
芳沢日蘭会商代表宛(電報)

ゴムの対日全面禁輸を蘭側が決定したとの情  
報について

本省 5月21日後7時0分発

會商第一一二號(大至急、館長符號扱)

往電會商第一二〇號ニ關シ

其後ノ情報ニ依レハ「ファン、モーク」ハ護謨ノ對日輸出ヲ全面的ニ禁止スルコトニ決シ其旨本國政府ニ進言セル趣ナリ英國側ハ蘭印カ英領馬來ト步調ヲ合ハセ五月以降錫「ゴム」ノ對日輸出ノ全面的禁止方ヲ蘭政府ニ示唆シ來レル模様ナルカ蘭側モ愈々肚ヲ決メタルモノカト思ハル尙「モ」ハ英側ニ我方最後案ヲ詳細説明シ禁輸措置ハ貴代表ノ面子ヲ重ンシ貴代表蘭印引揚後ニ公表スヘキ旨語レル模様ナリ御參考迄

586

昭和16年5月22日

松岡外務大臣より  
芳沢日蘭会商代表宛(電報)

日蘭会商における蘭側の態度硬化に対し芳沢  
代表の召還等を検討している旨バブストヘ通  
報について

本省 5月22日後8時50分発

會商第一二三號(至急、館長符號扱)

二十二日次官「パ」公使ヲ招致シ我方カ conciliatory ナル態度ヲ以テ臨ミ居ルニ拘ラス蘭印側最近ノ出方ハ頗ル硬化セル様子ニテ嘗テ了解ヲ遂ケタル十三品目ニ付テモ異論ヲ

唱へ護謄、錫等ノ對日輸出ニ關シ佛印馬來ノ分ト關聯セシメントスルカ如キハ英米等ノ指金ニ依ルモノト斷セサルヲ得サル處事態斯クナル上ハ我方トシテ芳澤代表ノ召喚ヲ考慮セサルヲ得サルコトナリ更ニ may be compelled to take further measures which we hate to take ト述ベタル處「パ」ハ護謄、錫等ニ對スル蘭印側態度ハ日本ヲ通シ獨逸ニ送ラレ居ルニ依ルモノナリト述ヘタルニ付次官ハ全然獨逸ニ行カストハ申ササルモ大部分ハ最近膨張セル我軍需工業ニ使用セラルルモノニシテ蘭側カ此事實ヲ無視シ戰前以上ノ數量ハ凡テ獨逸ニ行クカ如ク即斷シ理不盡ナル態度ニ出ツル以上我方トシテハ全面的ニ從來ノ態度ヲ再檢討セサルヲ得サル段階ニ達シタリト應酬セリ

之ニ對シ「パ」ハ右品目ノ日本ノ需給狀態ヲ示サルニ於テハ之ヲ取次クコトニ依リ難局ヲ打開シ得ヘキニ付是非其ノ通り取計ハレ度シト懇願セルニ付次官ハ御希望ハ大臣ニ取次クヘキモ右ハ「バタヴィア」ニ於テ屢々試ミタル所ニシテ疑深キ蘭印當局ヲ納得セシムルコト不可能ナリシニ鑑ミ今更左様ノ數字ヲ示シタリトテ貴方ハ信セサルヘシ本日ハ唯以上ノ趣旨ヲ申入ルル様命セラレタルノミニシテ是レ

以上論議スルヲ避ケ度シト突撥ネタル處「パ」ハ相當狼狽シタル面持ニテ更ニ考慮ヲ加ヘラレ度シト繰返シタル趣ナリ

~~~~~

587

昭和16年5月23日

松岡外務大臣より  
芳沢日蘭会商代表、在英国重光大使、  
在米国野村大使宛(電報)

錫・ゴム問題での対蘭斡旋をクレイギー英国

大使へ要請について

本省 5月23日後9時30分発

合第一一七號(至急、館長符號扱)

二十二日「クレイギー」大使ヲ招致シ本大臣ヨリ日蘭印交渉ハ我方ノ非常ナル全面的讓歩ニ依リ雙方ノ主張以前ニ比シ接近シタルガ唯護謄及錫ニ關シテハ困難アリ客年六月蘭側ハ護謄二萬匁、錫三千匁ハ如何ナル事態ニ於テモ對日供給スベシト確約セルガ我方ハ其ノ數量迄讓歩ヲナシタルニ拘ラズ蘭印側ハ佛印及「タイ」ノ對日供給量ト睨ミ合セタル上更ニ右數量ヨリ減額スルコトアルベシト主張シ居ル處我方ノ護謄及錫需要増加セルヲ忘ルベカラズ日本ガ獨逸ニ

對シ護謨ヲ供給スルノ虞アリト云ハルルモ我方ガ蘭印ニ對シテ要求スル二萬噸ヲ佛印、「タイ」等ヨリ輸入ヲ豫想スル噸數ト併ハスモ我方ノ必要トスル全數量ヲ遙ニ下廻ル次第ニシテ世界何レノ國ガ自分ノ肉ヲ切りテ迄他國ニ與フルモノアリヤ又弱少蘭印ガ對獨再輸出ヲ爲サザル保障ヲ我方ニ要求スルガ如キハ蘭印ノ増長ヲ示スモノニシテ大國ノ日本ニ對シ「ヒュミリエーション」ナリ我方ハ斷ジテ斯ル保障ハ與ヘ得ズ萬一交渉決裂シ芳澤代表引揚ゲトモナラバ外交上ハ勿論國內的二モ憂慮スベキ事態ノ起ルコト無キヲ保セズ抗。蘭延イテハ排英米熱モ煽ラルルニ至ルベク最早本大臣ニ於テ從來ノ如ク之ヲ阻止シ得ザルヤモ知ルベカラズ依テ大至急和蘭及蘭印政府ヲ反省セシムル爲貴國ノ壓力ヲ用キラルル様貴使ノ「グッド、オフィス」ヲ煩ハシ度ク至急本國政府ニ電報セラレ度シト申入レタルニ大使ハ貴意ニ副フ様早速電報努力スベシト答ヘタリ

本電宛先 芳澤代表、英、米



588

昭和16年5月24日

芳沢日蘭会商代表より  
松岡外務大臣宛(電報)

### 蘭印石油資源に関するわが方提案を蘭側へ提出について

別電 昭和十六年五月二十四日發芳沢日蘭会商代表

より松岡外務大臣宛会商第二一〇号

右わが方提案

バタビア 5月24日後發

本 省 5月24日夜着

#### 會商第二一〇九號

石油資源ニ關スル我方提案ニ付テハ別電第二一〇號ノ通り覺書ヲ作成二十二日蘭側ヘ手交セリ

#### (別電)

バタビア 5月24日後發

本 省 5月25日前着

#### 會商第二一〇號

Japanese delegation request Netherlands

Government that they will give B.O.M. concessions of mineral oil exploration and, when oil is found, of exploitation thereof in following three districts as has been

already applied. Viz:-

279,000 H.A. in Sangkoelirang districts (Netherlands Government will keep remainder of 1,300,000 H.A. in Mangkalat Peninsula as sphere of interest of B.O.M. for future extension of Concession).

121,400 H.A. called "Banguai-block" in Celebes opposite Isle of Pelang.

600,000 H.A. to be chosen out of 1,300,000 H.A. in north-east of New Guinea.

~~~~~

589

昭和16年5月29日 松岡外務大臣より  
芳沢日蘭会商代表宛(電報)

日蘭会商に関する石井情報局第三部長の記者

談話につき通報

別 電 昭和十六年五月二十九日発松岡外務大臣より

芳沢日蘭会商代表宛会商第一三〇号

右談話内容

本省 5月29日後8時0分発

會商第一二九號(至急)

二十九日次官ト打合せノ上石井部長ヨリ新聞記者ニ對シ別電第一三〇號ノ通談話セルガ各紙夕刊ハ之ヲ敷衍シテ掲載シ中ニハ多少「アラーミング」ニ報道セル向モアルニ付爲念

(別 電)

本省 5月29日後8時30分発

會商第一三〇號(至急)

蘭印交渉ハ蘭側ニ於テ全然獨自ノ立場デ日本ト交渉シ兩者間ノ經濟關係ヲ合理的ニ調整セントスル意向ヲ示シタルニ付帝國政府ハ昨年來使節ヲ送り交渉シ現ニ芳澤代表ガ交渉繼續中ナルガ最近蘭側ハ從來屢々確約セル物資ノ供給ニ付イテマデモ態度ヲ變更シ其ノ供給拒絶ニ傾カントスル模様ナルノミナラズ其ノ他ノ問題ニ付キテモ誠意ノ疑ハルルモノアリ斯クシテ日蘭會商ハ今や重大ナル難關ニ逢着セントシツツアリ

~~~~~

590

昭和16年5月31日 松岡外務大臣より  
芳沢日蘭会商代表宛(電報)

日蘭會商をめぐる大橋外務次官とオーストラ  
リア元副首相との会談内容通報

本省 5月31日午後5時10分発

會商第一三一號

卅日「レイサム」來訪ノ際次官ニ對シ蘭印交渉ニ關スル卅  
日夕刊ノ新聞記事ハ一種ノ「スレッツ」ナリト言ヒタルニ  
付キ次官ハ蘭印問題ニ對スル國民ノ關心ハ深酷ニシテ若シ  
本交渉ニシテ失敗センカ輿論ノ興奮ハ抑フル事ヲ得ズ外務  
省ハ本件ヲ平和裡ニ解決セントスル熱意アリ輿論ノ擡頭ヲ  
抑制スルト共ニ其内容ヲ國民ニ示シ得ザル程ノ弱キ提案ヲ  
爲シ蘭印側ヲシテ受諾シ易カラシメ且隱忍シテ交渉ヲ續ク  
ルコト已ニ半歳ヲ超ヘタルモ蘭印ハ今尙言ヲ左右ニシテ今  
ヤ解決ノ望渺ナキニ至リタルニ鑑ミ交渉ノ狀況ニ付キ「ヒ  
ント」ヲ與ヘタル處新聞ガ書キタタル迄ニシテ之モ交渉  
ヲ圓滿裡ニ解決セントスル熱意ヨリ發シタルモノニ外ナラ  
ズ然ルニ尙蘭印ガ覺醒セズ從來ノ態度ヲ持續スルニ於テハ  
我々トシテ凡テヲ成行ニ任スノ外ナク其ノ場合何事ガ起ル  
モ已ムヲ得ザル次第ナリト述べヲキタリ

在濠公使、英、米へ轉電セリ

591

昭和16年6月1日 芳沢日蘭會商代表より  
松岡外務大臣宛(電報)

蘭印に対する本邦新聞の攻撃的報道が蘭印の  
対日感情を刺激しているため対外配信の抑制

要請

別電 昭和十六年六月一日発芳沢日蘭會商代表より

松岡外務大臣宛會商第二一七號

右報道内容

バタビア 6月1日後発

本省 6月2日後着

會商第二一六號(外機密、館長符號扱)

昨一日同盟電ハ大要別電會商第二一七號ノ如ク報道セル處  
會商ハ今ヤ最後ノ段階ニ入り蘭側回答案ニ目下蘭印評議會  
ノ議ニ掛ケ慎重檢討中ニシテ最重要大時機ニ到達シ居レリ然  
ルニ最近我方新聞ノ蘭印攻撃ニ依リ渺カラス蘭印朝野ノ感  
情ヲ刺戟シ居ル矢先又モヤ斯ノ如キ手嚴シキ評論ヲ繰返ヘ  
サレテハ蘭側ヲシテ讓歩スルヲ得サラシムル虞レアリ就テ  
ハ假令新聞カ如何様ニ論スルニモセヨ同盟ヲシテ「キヤリ  
ー」セシメサル様特ニ御配慮ヲ請フ

因ニ「ホ」ハ石澤ニ對シ石井部長ノ記者會見ノ際ノ言辭及最近日本新聞ノ對蘭印論調ハ蘭印朝野ニ對シ甚タ不快ノ感ヲ與ヘ居ル處本件ハ東京ニ於テ「パ」公使ヲシテ措置ヲ取ラシムルコトトナルヘキ旨語リタル趣ナリ

(別電)

會商第二一七號(館長符號抜)

バタビア 6月1日後発  
本省 6月2日前着

日日及讀賣ハ社説ニ於テ激烈ナル文句ヲ用ヒ蘭印ニ警告ヲ發シタルカ日日ハ蘭印當局ノ挑發的驕慢ナル態度ハ驚ク外ナキ處若シ蘭印カ國際情勢ニ對スル見解ヲ誤リ行動スルナラハ夫レハ自滅ニ導クモノニシテ日本ハ假令經濟的要求ヲ拒絶サレテモ冷靜不動ノ態度ヲ執ルヘク我南進政策ハ國際情勢ヤ蘭側ノ態度ニ影響サルル所ナシ吾人ハ蘭印ノ品位ヤ誠意ノミナラス常識ヲ疑ハサルヲ得スト論シ讀賣ハ蘭印カ以前ノ協調的態度ヲ豹變セルハ獨逸ノ壓倒的勝利及日本カ着々大東亞共榮圈ノ基礎ヲ固メツツアル等ノ國際情勢ヲ反映セサリシ「ク」外相蘭印出發ノ際即チ英米空軍ノ新嘉坡

集結ノ際ニ於ケル強硬ナル聲明ハ英米濠蘭四國間ノ對日軍事同盟結成ヲ報シタルモノニアラスヤ日本ハ蘭印ニ對シ何等領土的野心ハナキモ忍耐ニモ限リアリ蘭印ハ須カラク歐洲ノ小國カ自國ノ安全保持ノ爲大國ニ頼リタル結果陷リタル悲慘ナル運命ニ學フヘキナリト論セリ

~~~~~

592 昭和16年6月5日 芳沢日蘭会商代表より  
松岡外務大臣宛(電報)

第二次要求に対する蘭側回答の強硬な内容を  
想像させる蘭印紙の論調報告

バタビア 6月5日後発  
本省 6月5日夜着

會商第二一九號(大至急、館長符號抜)  
往電第二一四號ニ關シ

其ノ後事態ノ推移ヲ注視シ居レル處印度評議會ニ於ケル審議ハ既ニ結了セルト見ヘ「モ」ハ三日夜總督ト會見シ更ニ四日モ會見シテ先方ノ回答案ニ「フィニツシングタツチ」ヲ爲シタル模様ナリシカ五日「ホ」ヨリ蘭側回答ノ用意出來タル旨通知越シアリタルヲ以テ六日午前十時ニ會見スル



コトニ打合セタリ尙六日ニ回答アルヘキハ五日朝ノ路透電ニ依リ「キヤリー」サレタル華府「スター」(野村大使ヨリ電報アルヘキモノト考ヘ省略ス)ノ論說中ニモ「メンシヨン」サレ居レリ尙蘭側ノ回答力強硬ナルモノニテ會商ヲ決裂ニ至ラシムルモノナルヤニ想像セラルル次第ハ日本ニ於ケル「プレスキヤンペイン」ニ對シ當地新聞ハ當初反駁ヲ試ミタルモ茲四五日ハ日本ノ攻撃ヲ全く默殺シ漸ク四日ニ至リ單ニ「ジャバボーデ」ノミカ政府ノ意嚮ヲ擱ミ居レリト察セラルルカ如キ左記要領ノ論評ヲ加ヘタルニ止マリ居ルコトニ依リ付度シ得ルモノト思考ス

#### 記

蘭側ノ回答ハ一兩日中ニ提出セラルヘキ處蘭印ノ物資カ一部テモ日本ヲ經テ獨逸ニ渡ルカ如キコトハ絕對ニ拒絶セントスル蘭側態度ハ正當ニシテ右態度ニ何等變更ヲ生セリトハ思ハレス從テ會商ハ今や最後ノ「ステーチ」ニ到達シ多分今週中ニハ終了スルモノト思ハル蘭側ヲ脅迫セントシテ行ハレタ「プレスキヤンペイン」ハ全く無効ニ終ツタ和蘭人ノ如ク冷靜ナル民族ニハ神經戰爭ハ無駄テアルコト位ハ日本テモ既ニ承知セラレ居ル筈テアル

593

昭和16年6月6日

芳沢日蘭會商代表より  
松岡外務大臣宛(電報)

#### 蘭側より第二次要求への回答提出について

付記 右蘭側回答仮訳

バタビア 6月6日後発

本省 6月7日前着

會商第二二三號(大至急、館長符號扱)

往電第二一九號ニ關シ

「モ」ヨリ蘭側回答ヲ手交スル以前ニ申上ケ置キタキコトアリト前置シ第一最近ノ日本新聞ノ論調ハ蘭側ノ頗ル遺憾トスル所ナリ尙彼等ハ蘭側力故意ニ回答ヲ遷延セシメ居ルモノナリト論セルモ日本側ハ第二<sup>イ</sup>次案受領後左程ノ時日ヲ經過シ居ラス蘭側トシテハ銳意回答作成ニ努力セル次第ナレハ筋違ノ非難ナリ第二ニ松岡大臣ハ「クレギー」大使ニ護謨、錫ニ關スル斡旋方依頼セラレ其ノ結果倫敦ニ於テ英政府ヨリ和蘭政府ニ「アプーローチ」シ來レル處蘭側ハ蘭印ノ問題ハ獨自ノ判斷ニ依リ決定スルニ付第三國ノ容喙ヲ欲セスト回答セル結果英政府ハ本件

ヨリ手ヲ引キタリ右様事情モアリテ今次回答ハ若干豫定ヨリ遅レタルモ慎重熟議ノ結果ナルニ付御含ミ置キ相成度シ第三ニ最近一、二ヶ月ニ於ケル日本ノ有力政治家ノ言動ハ悉ク日獨同盟關係強化ヲ明示シ居リ斯クノ如キ情勢ニ於テ日蘭印經濟關係ノ調整ヲ計ルハ困難極マル問題ナルカ何トカ *Modus vivendi* ヲ發見セント努メ慎重考慮ノ上今次回答ヲ作成セル次第ニシテ蘭側ノ誠意ハ充分表現セラレ居ル筈ナリ尙蘭側ハ飽迄獨立自主ノ方針ヲ堅持スルヲ以テ調整ト言フモ右方針ヨリ出發シテ萬事ヲ考慮スルハ申ス迄モナシ最後ニ種々周圍ノ雜音アリシニ拘ラス貴全權及石澤代表力常々忍耐ト友好的態度ヲ示メサレタルハ和蘭政府及代表部ノ「アプレシエイト」スル所ニシテ會商ノ結末如何ニ拘ラス右ハ欣快ナル記憶トシテ永ク殘ルヘシト述ヘタルニ付本使ハ回答ヲ披見スル前ニ一言シ置キタシトテ最近日本新聞カ蘭印問題ヲ熱心ニ論議スルハ國民全體力會商ノ成行及結果ニ重大ナル關心ヲ拂ヒ居ル事實ノ反映ニ外ナラス其ノ内容ニ付遺憾ノ點多シト言ハルルモ之トテ全文ヲ通讀スルニ於テハ簡單ナル同盟電トハ異ナリタル印象ヲ起スヘシ

兎モ角日本國民ノ大多數ハ

必スシモ新聞ノ激越ナル議論ヲ裏書スルモノニアラスシテ政府ト共ニ日蘭友好關係ノ助長ヲ希望シ居レリト確信ス故ニ新聞ニ對シテハ餘リ重要性ヲ置カレサル様要望スト應酬セリ

二、次テ「モ」ハ蘭側回答(別電)<sup>(編注)</sup>ヲ手交セルニ付一讀ノ後附屬書一、石油「コンセシヨン」ニ付「マンカリアット」

半島トアルハ半島全體ナリト解スル處如何ト質セル處「モ」ハ然リト答ヘタリ次ニ「バンガイ、ブロック」ト北東「ニユウギニア」ニ於ケル石油試掘ニ關スル許可申

請ハ will be held over for consideration 云々トアル處其

ノ意味如何ト質問セル處右地域ハ合理的期間(二、三年又ハ數年)BOMノ爲ニ留保シ置ク積リニシテ他ノ會社ヨリ同地域ニ對スル試掘許可申請アルモBOMノ申請ヲ考慮スルコトナク之ヲ新申請者ニ許可スルカ如キコトハ爲サストノ意味ナリト答ヘタリ

三、次ニ附屬書ニ付護謄ハ蘭側ヨリ二萬噸ナラハ供給スヘシトノコトナリシニ付我方之ニ同意セル次第ナルカ今同之ヲ一萬五千噸ニ減少セラレ居ルハ如何ナル理由ニ依ル

ヤト質セル處「モ」ハ蘭側ハ蘭印政府ノ最後の決定トシテ無條件ニ二萬噸供給方申出タルコトナク（會商往電第一八四號前段參照）其ノ後這般ノ狀勢ヲ考慮ノ上一九四一年分（二月乃至十二月）トシテ條件附ニテ一萬五千噸ヲ許可スルコトニ決シタル次第ナリト答ヘタリ次テ「ボーキサイト」ハ日蘭當業者間ニ四〇萬噸迄供給方契約シ居ルニ拘ラス二十四萬噸トセルハ不都合ナリト述ヘタル處「モ」ハ日本ノ現狀ヨリ判斷シ二十四萬噸ヲ需要ストハ納得シ難ク「アルミ」トシテ獨逸ニ供給セラルル懸念濃厚ニ付減量セル次第ナリト答ヘタリ次ニ蘭側數字ハ凡テ最小限度ヲ示スモノニシテ對獨再輸出ノ懸念消滅セハ増量可能ト考ヘ差支ナキヤト質セル處「モ」ハ凡テ獨逸行ノ懸念アルモノニ付テハ最高數字ト御承知アリタシト答ヘタリ更ニ「キニーネ」減量ノ理由ヲ質セル處「モ」ハ研究ノ結果日本自體ノ要求トシテハ六〇噸ニテ充分ト認メタル爲ナリト答ヘタリ

終リニ買油關係ニ付蘭側政府ハ兩當事者間ニ契約セラレタル一八〇萬噸ノ對日供給ニ付テハ異議ナキト共ニ將來對日供給量ヲ増加セシムル様斡旋ノ用意アリト屢々説明

アリタルニ拘ラス何等之ニ言及スルコトナキハ如何ト質問セル處蘭印政府ノ態度ハ既言ノ通りニシテ何等變化ナキモ本件ハ本質的ニハ當事者間ノ問題ニシテ政府トシテ強制スヘキ性質ノモノニアラサルニ付之ヲ明確ニ記載スルハ避ケタシトノ見地ヨリ省略セル次第ナル力強制ニ至ラサル範圍ニ於テ必要ニ應シ口添スル用意ハアルニ付諒承アリタシト答ヘタリ

四、本使ハ最後ニ回答ハ一瞥セルニ過キサレハ決定的意見ハ述ヘ難キモ一應ノ印象ニ依レハ今次蘭側回答ハ極メテ不満足ナルモノニシテ日本政府ニ於テ之ヲ基礎トシテ會商ヲ妥結セシムルコトニ同意スヘシトハ到底思考セラレス然シ乍ラ兎ニ角政府ニ報告シ更ニ研究ノ上改メテ會見ヲ求ムルヤモ知レサルニ付諒承アリタシト述ヘタル處「モ」ハ何分ノ御回答ヲ待ツヘシト答ヘタリ

編 注 別電會商第二二三号は省略。蘭側回答仮訳を本文書付記として採録。

（付 記）

昭和十六年六月六日和蘭代表ヨリ帝國代表ニ

手交シタル覺書(蘭印側最後の回答)假譯

前文

(編註)

一九四一年五月十四日及二十一日日本經濟代表部ヨリ提示セラレタル覺書類ヲ檢討セル處和蘭代表部ハ日本側提案カ會商ヲ通シ問題トナリタル各種ノ點ニ付徹底的ニ論議セラレタル結果ニ基キ數個ノ點ニ於テ修正セラレ居ルコトニ満足ス是等修正ハ日本側原案ヲ現在ニ於ケル非常事態ノ緊急ノ必要ニ適應セシメ且和蘭代表部カ日本側原案中蘭印經濟政策ノ諸原則ニ背馳スルモノ多々アリトノ理由ニ基キ提起セル種々ノ反對ヲモ或程度迄容認セントスル日本代表部ノ努力ノ結果ナリト認メラル

然レ共和蘭代表部ハ日本政府ノ見解力依然トシテ是等原則ニ著シク背馳スルモノアルヲ遺憾トセサルヲ得ス即チ一九四一年五月十四日ノ日本側覺書ニ依レハ日本政府ハ依然一九四一年一月十六日ノ覺書ノ前文ニ開陳セラレタル種々ノ見解ヲ固執ス是等見解ハ蘭印ノ天然資源ノ開發不充分ナリトノ想像及蘭印ト日本帝國トハ相互依存ノ關係ニ在リトノ臆斷ニ基クモノナルヲ以テ之ヲ實踐ニ移ス場合蘭

印ニ於テ日本ノ經濟的特殊地位ヲ造成スルニ至ルヘキハ明カナリ

故ニ茲ニ再ヒ一九四一年二月三日ノ和蘭側覺書中ニ開陳シタル蘭印ニ關スル和蘭政府ノ基本的經濟政策ニ言及スルコト適當ナルヘシ即チ和蘭ノ政策ハ住民ノ福祉、進歩、解放ノ助長及友好國ニ對スル無差別待遇竝ニ如何ナル特殊ノ活動分野ニ於テモ優越的ナル外國利益ノ設定セラルルヲ防止スルコトニ在リ

蘭印ハ其ノ本國ノ援助ヲ得テ大體充分ニ其ノ經濟生活ノ發達及資源ノ開發ヲナシ得ヘキ經濟發達ノ段階ニ到達セリト言フヲ得ヘク此ノ方法ニ依ルコトカ住民ノ願望ニモ合致スルモノナリ故ニ外國利益ヲ餘リ寛大ニ許容スルコトニ依リ其ノ進展ヲ阻害セサル様注意ヲ拂フノ要アリ和蘭本國ハ素ヨリ爪哇及蘭印ノ其ノ地域ニ於ケル人口ハ稠密ナルニ依リ出來得ル限り王國臣民ノ利益ノ爲ニ蘭印ノ經濟資源ヲ開發シ其ノ勞働市場ヲ保留スルノ必要益々緊切トナル

他面ニ於テ右政策ハ外國人ノ企業ト雖モ一旦蘭印ニ設立セラレタル上ハ同種ノ内國人企業ト同一ノ規則ニ服シ且同種ノ便宜ヲ供與セラルルモノナルコトヲ意味ス但シ當該外國

人ノ本國力在留和蘭臣民ノ利益ヲ右ト同一ノ精神ヲ以テ待遇スルコトヲ條件トス

是等一般經濟政策上ノ諸々ノ考慮ハ別トシ蘭印ト諸外國トノ關係ハ戰爭繼續中貿易其ノ他ノ經濟活動ニ對スル種々不可避ナル制限ニ依リテ影響ヲ蒙ラサルヲ得ス是等制限ハ直接間接ノ利敵行爲ヲ防止シ蘭印國防ノ安全ヲ確保シ竝ニ王國及其ノ同盟國ノ戰爭遂行ノ努力ヲ促進センガ爲ニシテ其ノ性質上臨時のモノナリ

日蘭兩國政府間ニ蹣<sup>（續）</sup>ルカ如ク見ユル一般の觀念ノ相違ニ拘ラス和蘭代表部ハ最近ノ日本側覺書ニ提起セラレタル個々ノ問題ニ付其ノ執リタル態度ノ合理性ノミナス種々ノ點ニ於テ日本ノ利益ニ對シテ開カレアル實際上ノ可能性ニ關シテモ再ヒ日本代表部ヲ納得セシムルノ努力ヲナスコトヲ望マシト思考ス

依テ是等個々ノ問題ニ關スル和蘭政府ノ見解ヲ左ニ開陳ス  
I、日本人ノ入國

(A) 「外國人勤勞條例」ノ目的ハ蘭印ノ住民ノ爲出來得ル限り同領ニ於ケル職業ヲ保留セントスルニ在リ從テ外國人ニ對シテハ唯特殊ノ地位ニ其ノ勞働ガ必要ト認メ

ラレ且之ニ和蘭臣民ヲ得ルコト能ハザル場合ニノミ勞働許可ヲ與フ加之關係雇傭者ハ將來ニ於ケル缺員ヲ充タス爲出來得ル限リ和蘭臣民ニ對シ充分ナル實際的訓練ヲ施スベキモノナリトノ了解アリ外國人雇傭ノ要求ハ常ニ寛大ニ審查セラレ居リ此ノ方針ハ今後モ之ヲ持續スベシ和蘭政府ハ勞働許可申請ノ取扱ニ付各關係當局ヨリ意見ヲ徵スルノ必要及時ニ地方的調査ヲ爲スノ必要アル場合ニモ出來得ル限リ之ヲ迅速ナラシメンコトヲ期ス

本件ハ極メテ重大ナル利害關係アルヲ以テ和蘭政府カ右條例ノ根本原則ヲ考慮ニ入ルルコトナク多數ノ外國人ニ對シ勞働許可ヲ下付スヘシトノ保障ヲ與フルコトハ如何ニスルモ不可能ナリ故ニ日本側覺書ニ要求セラレタルカ如ク割當ノ最大限度迄日本人ノ入國ヲ許可スヘシトノ無條件の保障ハ之ヲ與フルコトヲ得サルノミナス斯クノ如キコトハ他ノ諸外國ニ對スル許スヘカラサル差別待遇トナルヘシ

(B) 此ノ點ニ關聯シ或ル勞働許可ノ下付カ前顯割當ニ包含セラルヘキヤ否ヤノ問題ニ付テハ更ニ討議スルコトヲ

必要トセサルカ如シ

(C) 和蘭政府ハ専ラ在留日本人ヲ診療スヘキ日本人醫師ノ  
蘭印入國方ニ付テハ在留日本人ノ數ヨリ見テ之ヲ妥當  
トスルカ如キ場所ニ於テ開業スルノ目的ヲ以テ其ノ嚴  
格ニ限ラレタル數カ入國スルヲ許可センカ爲現行規則  
ノ改正方ニ付好意的考慮ヲ拂フノ用意アリ右醫師ノ診  
療ヲ日本人企業ニ働ク凡テノ從業員又ハ使用人ニ及ホ  
スコトハ適當ナラス蓋シ其ノ大多數ハ日本人ニ非サレ  
ハナリ

## II、企業及營業

外國人ノ單獨又ハ和蘭人トノ合辦ノ企業ノ新設ニ付テハ  
斯カル企業カ前文ニ述ヘラレタル方針ノ範圍内ニ於テ蘭  
印ノ經濟開發ニ相當ノ貢獻ヲ爲スヘシト關係當局ノ認ム  
ル限り之ヲ許可スヘシ

(A) 以上述ヘタル所ハ蘭印ニ於ケル鑛業ニ對スル外國人ノ  
參加ニ付テモ亦該當ス蘭印ニ於ケル鑛油ノ試掘、採掘  
ニ對スル日本人ノ參加方ニ關シ日本經濟代表部ノ爲サ  
レタル要求ニ對スル回答ハ本覺書ノ第一附屬書ニ見出  
サルヘシ

(B) 漁業及漁業關係產業ノ發展ハ土人ノ爲ニ保留セラルヘ  
キモノナルニ依リ和蘭政府ハ外國人ニ對シ水産業ニ關  
スル許可ヲ與ヘ又ハ便宜ヲ供與シ得ルノ地位ニ非ス尤  
モ特殊ノ事情ノ下ニ於テ或ル外國人申請者ニ對シ斯ク  
ノ如キ便宜ヲ供與シ得ル可能性アリヤ否ヤハ各個ノ申  
請ヲ夫レ自身ノ價值ニ依リテ審査シ以テ各場合ニ付  
別々ニ考慮セラルヘキモノナリ國防上明カナル理由ニ  
依リ和蘭政府ハ當分斯クノ如キ便宜ヲ供與スルコトヲ  
得サルヘシ

得サルヘシ

(C) 以上蘭印ニ於ケル企業ニ對スル外國人ノ參加ニ付テ述  
ヘタル所ハ日本側覺書ノ第二節(ハ)ニ指示セラレタル商  
業竝ニ倉庫業及其ノ他各種營業ニ付テモ該當ス經濟活  
動ノ是等部門ハ和蘭臣民ノ爲ニ大ナル程度迄保留スル  
コト必要ナリ蓋シ和蘭政府ニトリテ經濟政策上ノ主要  
問題ノ一タル地方民ノ商業及産業教育ニ付殊ニ商店、  
小倉庫、小工場ノ如キ小商業其ノ他ノ企業ハ其ノ機會  
ヲ與フルモノナレハナリ

## III、交通通信

(A) 和蘭政府ハ盤谷、西貢及其ノ他ノ地點ニ於ケル日蘭航

空路ノ聯絡改善方ニ付日本政府協力スルノ用意アリ然レトモ和蘭政府ハ蘭印内及諸外國トノ間ノ航空運輸ノ將來ニ於ケル發展ハ幾多不確定ナル要素ニ依存シ從テ現在ノ事情ノ下ニ於テハ本件ニ付何等約束ヲ爲スコトヲ得ストノ見解ヲ有ス

(B) 無線電信聯絡ノ現在ニ於ケル進歩ヲ考慮スレハ和蘭政府ノ見ル所ニテハ日蘭印間ニ高價ナル海底電線ニ依リ電信聯絡ノ重複ヲ行フヘキ何等ノ理由無シ「マラバール」・日本間ノ無線通信ノ改善力必要ナル場合ニハ和蘭政府ハ必要ナル協力ヲナスノ用意アリ右無線通信ニ加ヘ「ヤツプ」・「メナド」間海底無線利用ノ措置ヲ講スルコトヲ必要トスル理由ハ何等之ヲ認メサルノミナラス右海底電線ノ修理狀態ハ甚タ不良ニシテ之ヲ使用スルカ爲ニハ費用ノ嵩ム大々的ナル修繕及改良ヲ必要トス

(C) 蘭印ニ於ケル沿岸航行ハ自國海運ノ助長保護ノ爲外國船ニ對シテハ原則トシテ之ヲ禁止シ居レリ或ル日本船ヲ含ム特定ノ例外ハ現行海運法施行ノ際既ニ存在シ居タル海運業者ニ許與セラレタル最大限度ノ讓歩ト認メ

ラルヘキモノナリ然レトモ和蘭政府ハ外國船沿岸航行權保有者ニ對シ船型、隻數、噸數ニ關スル現行制限内ニ於テ其ノ事業ノ維持ニ必要ナル便宜ヲ引續キ供與スヘシ

(D) 特定產物ノ輸出又ハ一般通商目的ノ爲ニスル不開港場ノ開放ハ利用シ得ヘキ船便トノ關係ニ於テ當該地方ノ現實ノ必要如何ニ依ルモノニシテ個々ノ場合ニ付其レ自身ノ價值ヲ檢討シ且各外國船ニ對スル無差別主義ニ則リテ決定セラルヘキモノナリ

(E) 前項ハ外國船ノ不開港場寄港ニ關スル許可ニ付テモ亦適用アリ

#### IV、貿易及商業

蘭印ノ繁榮ハ多數國トノ貿易ニ依存スル所大ナルカ故和蘭政府トシテハ其ノ輸入ヲ輸出ニ關スル緊急狀態ニ適應セシムルコトニ付出來得ル限り其ノ行動ノ自由ヲ保持スルコト極メテ重要ナリ

加之戰爭ノ繼續中ハ外貨ノ浪費ヲ避クル爲輸入ニ對シ嚴重ナル管理ヲ實行スルト共ニ蘭印ヨリノ輸出力軍事的價值アル資材ノ敵國ヘノ供給ニ何等役立ツカ如キコトヲ防



止スル爲輸出ニ對シテモ同様嚴重ナル管理ヲ實行スルノ必要アリ國家存立ノ爲現在戰ヒツツアル和蘭トシテハ是レ以外ニ途無キコトハ必スヤ日本政府ニ於テモ之ヲ諒解セラルヘシ

是等ノ考慮ハ別トスルモ急變シツツアル國際情勢ハ長期ニ亘ル各種物資ノ確定數量ノ輸出入ニ關スル正式ニシテ且拘束力アル協定ヲ締結スルコトヲ不得策ナラシメ居レリ尤モ他方ニ於テ諸々ノ事情及國家ノ死活的利益ノ許ス限り急激ナル變更ハ之ヲ避クルコトカ和蘭政府ノ通商政策ニ合致スル所以ナリ而シテ此政策カ日、蘭印間ノ相互の二重要ナル貿易ニ關シ遵守セラルルモノナルコトニ付テハ日本政府ニ於テモ安心セラレ度シ

1(A) 蘭印ノ輸入貿易上ニ於ケル日本ノ利益ニ關シテハ充分考慮ノ上合意成立シ右ハ所謂「ハルト」・石澤協定及「ファン・モーク」・小谷協定トシテ具体化セラレタリ和蘭政府ハ是等協定ヲ改訂スルノ要ヲ認メス右協定ハ依然其ノ效力ヲ有ス

現在ノ不安定ナル事情ノ下ニ於テハ向フ十二ヶ月間ト雖モ如何ナル特定國ヨリ輸入セラルヘキ或ル特定

商品ノ數量ニ付テモ何等ノ約束ヲ爲スコト不可能ナルカ如ク見ユ然レトモ和蘭政府ハ若シ日本政府カ日本ニ於ケル生産ノ調整ヲ圖ランカ爲希望セラルルニ於テハ和蘭政府カ向フ六ヶ月間ニ於テ其ノ選擇ニ從ヒ諸國ヨリノ輸入ニ對シテ許可ヲ與フヘキ物資ノ數量ヲ明示スルノ用意アリ日本ヨリノ輸入ニ對スル許可ハ右選擇ニ基キ且價格及引渡條件ノ點ニ於テ他國品ト競争シ得ルモノナル限り之ヲ與フヘシ而シテ是等ノ數量ハ蘭印ノ實需ニ依リテ決定セラルヘキモノナリ

(B) 和蘭政府ハ蘭印ニ於ケル日本人輸入業者ノ地位ハ既ニ前記協定ノ基礎ノ上ニ満足ニ解決セラレタル次第ニシテ又此ノ割當ハ他ノ利害關係者ニ不當ニ不利ヲ蒙ラシムルコトナクシテハ増大シ得ラレサルモノナリトノ見解ヲ保有ス

2 戰爭ノ必要上和蘭政府トシテハ向フ十二ヶ月間ノ如キ長期ニ亘リ各種物資ノ輸出ニ對シ無條件ニ許可ヲ與フル如何ナル義務ヲモ負フコト不可能ナリ尙之ヨリモ遙カニ短期間ニ對スルモノト雖モ右ノ點ニ關スル政策ニ



付テノ如何ナル言明モ和蘭政府ニ於テ其ノ完全ナル實施力直接又ハ間接敵國ノ利益トナリ或ハ和蘭王國及其ノ同盟國ノ利益ヲ害スト認ムル場合ニハ其ノ拘束力ヲ失フヘシトノ條件ニ從フヘキモノナリ

然レトモ和蘭政府ハ日本政府トシテ見レハ蘭印ヨリノ輸入力全然不確定ナルニ於テハ之ニ應シテ其ノ國內經濟政策ヲ調整スルコト困難ナルヲ了解スルカ故ニ和蘭政府ハ現在ノ事態ニ關スル其ノ見解ニ基キテ決定セラレタル一九四一年度ノ輸出制限ニ關スル其ノ意嚮ヲ既ニ述ヘタル明確ナル條件附ニテ言明スルコトニ何等ノ異議ヲ有セス右言明ハ本覺書ノ第二附屬書ニ之ヲ掲ケタリ和蘭政府ハ其ノ輸出品ニ關スル戰爭上ノ緊急ノ必要ニ付唯一ノ判定者タルノ權利ヲ有スルモノナルコトヲ指摘セサルヘカラスト雖モ國際交通ノ通常ノ經路ハ依然開キ殘サレ之ヲ通シテ事實ト苦情トニ對スル考慮カ拂ハルル次第ナルコトハ特ニ言フヲ俟タサルヘシ

3 輸入税、輸出税、附加税及公定價格ニ付テハ日本ヨリノ輸入物資及日本ヘノ輸出貨資ニ對シ無差別ノ原則ニ從ヒ凡テノ他國ヨリノ輸入物資及凡テノ他國ヘノ輸出

物資ニ對スルト同一ノ待遇ヲ與フヘシ

#### V、協定ノ期限

期限條項ハ現在行ハレ居ル意見交換ノ結果協定ノ締結トナル場合ニ文書ノ起草ト同時ニ之ヲ考慮スルコトヲ得ヘシ

#### VI、蘭側提議

和蘭代表部ハ日本政府ニ於テ經濟關係ノ増進ニ對スル其ノ寄與トシテ左記各項ヲ採用セラレンコトヲ提議ス

1 周知ノ如ク日本帝國及其ノ近接地域ニ於テ砂糖不足シ居ルノ事實アルカ故ニ日本政府ハ一九四一年ノ殘期間中年十五萬噸ノ割合ニ於テ爪哇糖ヲ輸入スルノ措置ヲ執ルヘキコトヲ約セラレタシ

2 右期間中ニ蘭印ヨリ日本ヘ輸入セラルヘキ黑檀ノ數量ハ之ヲ年二千噸ノ割合トセラレ度シ右數量ハ猶正常輸入量ノ約五割ニ過キス

3 日本政府ハ一九四一年ノ殘期間中年一千噸ノ割合ニ於テ蘭印ヨリ珈琲ヲ輸入スルノ措置ヲ執ラレ度シ

4 日本政府ハ日本ニ在ル和蘭人又ハ和蘭會社ニ歸屬スル圓殘高全部ヲ日蘭印間ノ經濟交通ニ關係アル如何ナル

合法的取引ニモ之ヲ使用シ得ル様措置セラレ度シ

5 日本政府ハ日本ニ在ル和蘭人及和蘭會社ニ對シ其ノ貿易力支障無ク行ハルル様蘭印ニ在ル日本人及日本會社ニ與ヘラルルト同様ニ必要ナル自由ヲ與フヘシ

第一附屬書

和蘭政府ハ「マンカリアット」半島ヲ將來B. O. M. ノ石油利權ノ延長セラルコトアルヘキ利益範圍ト認メツツB. O. M. ノ一九四一年二月十七日附申請ノ對象タル「サンクリラン」地方ニ於ケル二七八、〇〇〇「ヘクタール」ノ石油鑛區試掘權ヲB. O. M. ニ許與スルコトニ何等ノ異議ヲ有セス

「バンガイ・ブロック」及東北「ニューギニア」ニ於ケル試掘ニ對スル同日附申請ニ付テハB. O. M. ノ活動力其ノ利權ノ擴張ヲ正當トスルニ充分ナル程發展ヲ遂ケタルカ如キ時期ニ考慮スヘク之ヲ保留シ置クヘシ和蘭政府ハ是等地域ニ於ケル利權ニ關シ今後現ハルルコトアルヘキ申請者ニ對シ之ヲ許與スルニ先タチB. O. M. ノ既ニ提出セル申請ヲ慎重審査スヘシ

第二附屬書

五月十四日附日本代表部ノ覺書添附ノ第三表ニ列記セラレタル蘭印產各種物資及其ノ數量ノ日本向輸出ニ付テハ左ノ如ク開陳スルコトヲ得（左記陳述ハ第三表ニ列記セラレサル物資ニ對シ毫モ輸出制限及割當ノ適用ヲ除外スルモノニ非サルコトヲ何等誤解ヲ避クル爲特ニ附記ス）

和蘭政府ハ現在ノ事情ノ續ク限り且左ニ記載セラルル措置ノ完全ナル實施力直接ニモ間接ニモ敵國ノ利益トナラス又和蘭王國及其ノ同盟國ニ有害ナラスト其ノ判斷ニ依リテ認ムル限り一九四一年ニ於テ左ノ措置ヲ執ルノ意嚮ナリ

(A) 第三表ニ記載セラレタルモノノ内左記各物資ニ付一九四一年中ニ輸出セラルヘキ總量カ左記各數量（單位「メトリック、トン」）ニ達シ得ルカ如ク一九四一年中ニ於ケル日本帝國向輸出割當ヲ維持シ又ハ設定スルコト

16 生 護 謨 一五、〇〇〇

17 錫及錫鑛（錫含有量） 三、〇〇〇

20 「ニツケル」鑛 一五、〇〇〇

22 「ヒマシ」鑛 六、〇〇〇

24 規 那 皮 六〇〇

(B)第三表ニ記載セラレタルモノノ内左記各物資ニ付一九四一年ノ殘期中ニ於ケル日本帝國向輸出ノ各月割當ヲ左ニ列記(單位「メトリック、トン」)セル數量ニ定ムルコト

4 樹 脂 「ダマル」「コバル」 二五

5 「カボック」 籤維(種付ヲ含ム) 一〇〇

6 「カボック」 種子及棉子 五〇〇

8 「コプラ」(椰子油中ノ相當量ヲ含ム) 一、六五〇

10 籐 一〇〇

11 「パーム」油 一、〇〇〇

14 「タンニン」材 二五

19 「ボーキサイト」 一〇、〇〇〇

21 滿 俺 鑛 五〇〇

25 「キニーネ」(純量) 五

28 黃 麻(精製セルモノ) 二五

(C)日本側覺書第三表ニ記載セラレタル物資中本附屬書ノ(A)及(B)ニ記載セラレ居ラサルモノノ日本帝國向輸出ニ付テハ左ノ留保ヲ附シ其ノ割當ヲ定ムルコトハ之ヲ避クルコト

屑鐵ニ付定メラレアル輸出割當ハ無制限輸出ノ場合起ルヘキ價格昂騰ノ結果トシテ鐵類ノ大規模盜難ノ行ハルヲ防止スル爲ノ措置ト見ラルベキモノナリ右以外ノ點ニ付テハ國內消費又ハ和蘭ノ同盟國向トシテ必要ナラサル限り屑鐵ノ對日輸出ニハ別ニ反對ナシ

玉蜀黍ノ對日輸出ニ付テモ前記末段ノ留保ハ附スルモノニ何等ノ反對ナシ

鑛油及同製品ノ對日輸出ノ増量ハ日本輸入業者ト石油生産會社トノ交渉ニ俟ツベキ事項ナリ和蘭政府ハ石油資源ノ現狀ハ生産ノ増加ヲ許サストノ意見ナリ「ピツチコークス」ノ輸出ニ付テモ右ト同様ナリ

糖蜜ニ付テハ日本側覺書第三表ニ記載セラレタル數字ニ依レハ日本政府ハ蘭印ヨリ正常量ノ三十倍以上ノ輸入ヲ計畫セラレ居ル處本件ニ付テハ未タ確定的ナル意見ヲ開陳シ難シ「サイザル」ニ付テハ日本側ノ輸入希望量ハ正常量ノ二十五倍ナル處之ニ付テモ右ト同様ナリ

「モリブデン」鑛、「クローム」鑛、「タンゲステン」鑛、雲母(高級品)ノ採掘ニ關スル資料ニ依レハ大ナル輸出ノ可能性無キカ如シ

編 注 本文書の原文(英文)は省略したが、原文では「2nd」

となっている。

~~~~~

594

昭和16年6月7日

松岡外務大臣より  
芳沢日蘭会商代表、在英国重光大使、  
在米国野村大使宛(電報)

錫・ゴム問題に関する対蘭斡旋は功を奏さな  
かった旨クレギー英国大使通報について

本省 6月7日後8時40分発

合第一二一〇號(至急、館長符號扱)

往電合第一一七號二關シ

一、本七日英大使來訪過般御依頼ノ件ハ早速政府ニ傳達シ政  
府ニ於テモ好意的斡旋ヲナスコトニ決シ倫敦ニ於ケル和  
蘭政府ト談合シタル處御承知ノ如ク和蘭人ハ「インデペ  
ンデント」ナル人柄ニシテ和蘭ノ見地ヨリ日本ト折衝シ  
居ルモノナリト申立テ英側ノ好意的斡旋モ效果無カリシ  
トノ趣旨ヲ「オーラル、ステートメント」トシテ讀上ケ  
タル後はレハ本使限りノ意見ナルガト前提シ(一)日本ノ言

論界等ニテ「プレシユア」ヲ蘭印ニ加ヘラレル態度ハ  
「インデペンデント」ノ和蘭人ヲシテ却テ硬化セシムル  
結果トナリ和蘭人ヲ取扱フニハ穩カニ話ヲセラレル方效  
果的ナリ(二)和蘭政府ノ危惧スル所ハ要スルニ護謨ヲ敵國  
獨逸ヘ再輸出セラルルノ危険ナリ此點ニ付率直ニ申セハ  
印度支那ノ護謨多量日本船舶ニ依リ日本中繼獨逸ニ輸出  
セラレツツアリト附言セリ

二、依テ本大臣ハ(一)言論界ニ於テ貴大使ノ言ハルル如キ傾向  
アリタリトスルモ同様ノコトヲ我官憲、殊ニ芳澤代表、  
石澤總領事及其ノ「スタツフ」ノ態度ニ付誣ヒ得サルヘ  
シ(英大使モ然リト答フ)現ニ我方ハ穩便ニ話ヲ附ケンカ  
爲忍フヘカラサルヲ忍ヒテ非常ナル讓歩ヲナセリ過般モ  
申シタル通り若シアノ程度ニテ話纏リタリトシテ假リニ  
其ノ全部ヲ公表スルカ又ハ洩レタル曉ニハ政府攻撃ノ聲  
囂々タルヘシ(此點ニ付テハ細心ニ考慮シ且警戒シ居レ  
リ)其ノ「リスク」ヲモ取りテ敢ヘテ本件交渉ヲ妥結ニ  
導カント努メ居ル次第ナリ(此點亦英大使首肯セリ)而シ  
テ言論界ニ對シ本大臣カ絶エス注意ヲ拂ヒ最善ヲ盡シ居  
ルコトハ貴使モ熟知セラルル所ナルヘシ

過般モ新聞紙カ本交渉ノ危機ヲ報シタル際之ヲ知ルヤ直ニ將來ヲ嚴重戒メタル次第ナリ爾來御承知ノ通り言論界ハ鎮靜ヲ守リ居レリ(英大使首肯ス)

(二)本日芳澤代表ヨリ先方回答ニ付電報アリタルカ實ノ處本大臣ハ當惑シ居ル次第ナリ然レトモ貴使御承知ノ通り本大臣ハ極度ノ隱忍ヲ以テ如何ニカシテ本交渉ヲ妥結ニ導カンカ爲今尙苦慮シ居レリ殊ニ我芳澤代表ハ恐ラク我國ニ於テ斯カル用意ヲ最モ多分ニ有セラルル方ナレハ此點ニ付一二同氏ニ信賴シ居ル譯ナリ

(三)然ルニモ拘ラス不幸決裂ニ終ラハ其ノ影響ハ眞ニ我國ノ内外ニ亘ルヘク本大臣ニ於テ之ヲ憂慮シ居ル次第ハ過般貴使ニ内告シタル通りニシテ其ノ曉ニハ到底本大臣ノ力ヲ以テシテハ外交的ニモ又國內的ニモ頗ル憂慮スヘキ風潮ノ起ルヲ防クニ途無キヲ憂フト告ケ置キタリ

以上ノ會談カ如何ナル作用ヲ英國ニ、次テ和蘭ニ起スヘキヤハ豫測シ難キモ御參考迄電報ス

本電宛先 芳澤代表、英、米

595

昭和16年6月7日 芳沢日蘭會商代表より  
松岡外務大臣宛(電報)

蘭側回答の受諾は不可能であり会商決裂を声

明し代表部引揚げ方請訓

バタビア 6月7日後発

本省 6月8日前着

會商第二二七號(館長符號扱、外機密)

往電第二二二號ニ關シ

「右ニテ御承知ノ通り蘭側回答ハ我方ノ希望ヲ若干容レタル點アレトモ入國企業通商ノ問題ニ亘リ先方從來ノ主張ヲ固持スル所鮮カラサルノミナラス差當リ政府ニ於テ最モ重キヲ置カルル物資問題ニ付テハ護謨、錫ハ勿論其ノ他ノ重要物資ニ付テモ(不明)ニ關スル蘭側條件ヲ飽迄固執スルト共ニ其ノ數量ニ付テモ今日迄ノ蘭側内示量ヨリモ寧口之ヲ減シ居レリ從テ蘭側回答ヲ其ノ儘受諾スルコトハ貴大臣及次官ヨリ英大使及和蘭公使ニ對シ強硬ナル御申入アリ又情報部及各新聞ニ於テ積極的「プレスキヤンペーン」ヲ行ヒタル今日ニ於テハ到底不可能ト思考ス左リトテ此ノ期ニ及ンテ我方ヨリ蘭側ノ讓歩ヲ要求シ論

議ヲ進メントスルモ蘭側今次回答ハ總督ニ於テ特ニ慎重  
ヲ期シテ印度評議會ニ諮問シタル上累次「モ」ヲ招キテ  
自ラ檢討ヲ加ヘタルノミナラス在倫敦和蘭政府ノ裁決ヲ  
モ經タルモノニシテ蘭側トシテハ此ノ上論議スルコトヲ  
欲セストノ嚴然タル態度ヲ表示シ居ルコトニモアリ最早  
受付ケサルコト明瞭ナリ依テ我方トシテハ執ルヘキ態度  
ハ蘭側回答ヲ不満足ナリトシテ會商決裂ヲ聲明シタル上  
代表部ヲ引揚クル外ナシト思考セラルル處右ノ場合ハ我  
政府トシテモ國民ニ對スル手前モアリ強硬態度ヲ示メサ  
サルヲ得サルコトトナリ言論界ハ極端ナル言辭ヲ以テ蘭  
側ノ非ヲ鳴ラスコト明白ナリ然ルニ既ニ今日迄ノ經緯ニ  
依リ證明済ノ通り蘭側ハ斯ル威嚇の「ゼスチュア」ニ  
シヨシハ一切許サス(ロ)來ル十一月ノ賣油契約更新ニ對  
シテハ「モウラルサポート」ヲ與ヘス(ハ)石油以外ノ物資  
ニ付テモ一切ノ約束ヲ與ヘス其ノ供與ヲ益々窮屈トナス  
ヘシ(ニ)「コプラ」及「パーム」油ハ直ニ一萬二千噸及九  
六〇噸ニ逆戻リセシメ日本人農園及業者ノ生産品及「ス  
トック」ノ對日輸出ヲ不可能ナラシムヘシ(ホ)醫師開業ヲ

許ササルハ勿論入國制限ヲ更ニ強化スヘシ(ヘ)日本品輸入  
豫告ヲナサス(ト)諸種ノ方法ヲ以テ在留民ノ營業及生活ニ  
對スル壓迫ヲ強化スヘシ(チ)英米依存態度ヲ一層露骨ニ強  
化スヘシ

從テ決裂後ノ事態ハ頗ル重大トナルヘキヲ覺悟セサルヘ  
カラス一方代表部ノ滞在ヲ永引カシムル爲遷延策ニ出ツ  
ルカ如キハ中外ニ對スル我方目上面白カラサルノミナ  
ラス右様ノ場合ハ蘭側ヨリ代表部引揚ヲ要求シ來ルヘク  
右ノ爲餘儀ナク引揚クルカ如キコトトモナラハ帝國ノ威  
信ハ地ニ墜ツルコトトモナルヘキニ付慎重御熟慮ノ上本  
使ノ執ルヘキ態度ニ付何分ノ儀至急御回電相煩度シ尙本  
使ハ出來得ヘケンハ本月二十日後ノ最近便ニテ歸朝致ス  
積リニ付御了承ヲ請フ

596

昭和16年6月9日

在バタビヤ石沢總領事より  
松岡外務大臣宛(電報)

蘭印經濟省がわが方に相談なく本邦商社を招  
致し蘭側回答に基づいた錫・ゴムの輸出許可  
を与えた旨報告

第四八四號

バタビア 6月9日前発  
本省 6月10日前着

七日經濟省ハ日本商社ニシテ對日蘭印物資輸出實績アルモノヲ個別的ニ招致シ蘭側回答中物資ニ關スル品目數量ヲ我方ニ何等相談ナク内密ト稱シテ之ヲ洩ラシ護謨、錫等ニ付七月積ミノ輸出許可ヲ與ヘタル趣ナリ  
右蘭側措置ハ我方ノ目下請訓中ナルコトヲ全ク無視シ一方的二蘭側方針ヲ實行スルモノニシテ不都合ナルモ然リトテ右日本商社ニ對シ此ノ際蘭側ノ一方的意思ニ依ル輸出許可ハ一應之ヲ拒絶セシメテ蘭側ノ不徳義ヲ責ムルモ效果乏シカルヘク且又我方物資獲得上不得策ナルニ付不取敢輸出許可アリタル分ニ付テハ業者ニ於テ之ヲ輸出スルコト然ルヘシト申シ聞ケ置キタルカ右蘭側態度ハ其今後ニ於ケル方針ノ一端トシテ注意ヲ要ス

597

昭和16年6月10日  
芳沢日蘭会商代表より  
松岡外務大臣宛(電報)

蘭側回答に關し蘭印經濟長官と意見交換につ

いて

バタビア 6月10日後発  
本省 6月10日夜着

會商第二二九號(館長符號扱)  
往電第二二二號及第二二七號ニ關シ  
十日午後五時ヨリ七時迄「モ」ト會談(石澤「ホ」同席)蘭側回答中疑問トスル點ニ關シ詳細説明ヲ求メタル所蘭側眞意ハ回答文ソノモノカ與フル印象ヨリモ若干ノユトリアルコト判明セリ委細追電ス

598

昭和16年6月11日  
芳沢日蘭会商代表より  
松岡外務大臣宛(電報)

蘭側回答に關する蘭印經濟長官との質疑内容  
報告

バタビア 6月11日前発  
本省 6月11日後着

會商第二三〇號(大至急、館長符號扱)  
往電第二二九號ニ關シ<sup>(1)</sup>  
會談内容左ノ通り

一、入國關係

(イ)理論的ニハ現行法規ニ依レハ千六百名迄許可ノ可能性アルコト明瞭ナリト認ムル處蘭側ニ於テモ右ニハ異論ナカルヘシ又蘭側トシテハ實際上許可數ヲ過去ノ程度(最高二百五十名)ニ限定スル意嚮ナキモノト思考スル所如何ト質セル處「モ」ハ御尤モナリ但シ移民總數カ限度(本年ハ一萬)ニ達シ居ラサル限り日本人ニ對シテハ理論上ハ full quota (註、即チ千六百名)迄許可シ得ル譯ニシテ又許可數ヲ二百五十名ニ限定セントスル次第ニハアラス唯一、一ノ場合ニ付法規ノ定ムル手續ト調査ヲ完了セル上蘭側ノ判斷ニ依リ之ヲ許可セントスル次第ナリト答ヘタリ

(ロ)醫師及齒科醫ノ入國ニ關シ從來同意シ居タルニ拘ラス今次回答ニ於テ齒科醫ヲ除外セル理由如何ト質セル處特ニ除外セル次第ニハアラス現在蘭印ニハ相當數ノ日本人齒科醫アル處表向ニ論スレハ齒科醫法違反ナレハ追放處分等ノ問題ヲ惹起スヘシ依テ蘭側トシテハ今次會商ノ成果トシテ總括的ニ協定成立スル場合ニハ現在ノ齒科醫中一定數ヲ限り正式ニ有資格者トシテ認可セ

ントスル次第ナリト答ヘリ

二、企業及營業關係

(イ)水産業ニ付テハ將來適當ノ機會ニ更ニ協議スルコト可能ト認メラルル處如何ト質セル處特別ノ場合ニ付テハ戰後考慮ノ用意アルモ根本方針トシテ漁業ハ和蘭臣民ノ爲留保シタキ意嚮ナリト答ヘタリ

(ロ)小規模營業ハ大部分和蘭臣民ノ爲留保ノ要アリト言ハルル處右ハ反面ニ相當部分ハ日本人ニモ許可スル用意アルコトヲ意味スルモノト思考スル處如何ト質セル處小規模ノ shop 類ハ土人ヲ教育向上セシメテ之ヲ經營セシムヘク全力ヲ傾注シ居ル次第ナレハ外國人ニハ全然許可セスト言フ譯ニハアラサルモ其ノ餘地ハ極メテ僅少ナリト御了承相成度ト答ヘタリ

三、交通、通信關係

(イ)日蘭印間直接航空連絡ニ關シ蘭側ハ將來適當ノ機會ニ協議ノ用意アリト認ムル所如何ト質セル處戰後一應考慮シ見ル用意ハアルモ本件ハ國防問題トモ關聯スル難問題ニ付之ヲ約束ト取ラレサル様致度ト答ヘタリ

(ロ)海底電線問題ハ「マラパル」無電聯絡ノミニテハ不充



分ナルコト判明スル場合ニハ更ニ協議シ得ヘク且「ヤツプ」―「メナド」間海底電線ハ日本側ニ於テ費用ヲ負擔シ蘭側ニ迷惑ヲ掛ケサル場合ハ其ノ利用ニ反對セラルル次第ニアラスト思考スル所如何ト質セル處蘭側ハ寫眞電送其ノ他凡ユル問題ハ無電ノ改善ニ依リテ實現シタク無電收入減少ノ惧モアリ海底電線ニハ興味ナシト答ヘタリ

#### 四、物資關係

(イ)護謄ニ付テハ前回モ言及セル處假令政府ノ決定ニハアラストスルモ蘭側代表部トシテ貳萬噸ト内示セルモノヲ壹萬五千トセラレタルハ飽迄心外ナリト詰リタル處本年三月ノミニニ付テ見ルモ壹萬噸ノ護謄カ西貢ヨリ神戸經由獨宛輸出セラレ居リ其ノ後佛印及「タイ」ヨリ日本向護謄輸出ハ益々増大シ居ルト共ニ本年ハ飛行機用トシテ用ヒラルルモノ多ク最重要ナル軍需資材ナレハ數量ヲ限定シ附帶條件ヲ嚴重ニスルハ已ムヲ得スト答ヘタリ

(ロ)護謄以外ニモ蘭側最終内示量ニ比シ「ボーキサイト」ハ壹萬噸「コブラ」ハ貳百噸「タンニン」材料ハ貳千

五百噸少キ處右ハ全面的ニ對日物資供給量ヲ縮減セントスル下心ノ表現トモ見ラレ甚タ不愉快ナリト詰リタル處決シテ右様次第ニアラス一年分ヲ月割トセル爲端數ヲ切捨テタル迄ナリ蘭側トシテハ「ボーキサイト」ヲ年二五萬噸トシ「コブラ」ヲ貳萬噸ニスルコトニ異議ナシ唯「タンニン」材料ハ其ノ後調査ノ上過去ノ最高數字ヲ採レル次第ニ付右ハ變更シ得スト答ヘタリ

(ハ)糖蜜「サイザル」及「ピツチコークス」ハ有耶無耶ニ葬ラントスル次第ナリヤト質セル處數字ヲ檢討ノ上近ク回答シ得ヘシト答ヘタリ

(ニ)我方ハ從來四月乃至三月ノ會計年度ヲ基礎トシテ論議シ蘭側モ一箇年單位ノ話ニ大體異議ナカリシニ突如全面的ニ一九四一年ノ曆年ヲ基礎トセルハ不可解ナリト質セル處蘭側制度ハ會計年度ト曆年ト同一視スルモノナル處目下ノ戰爭ノ結果如何ナル變化ヲ生スルヲ豫測シ難キニ付向フ一箇年ノ約束ヲ爲スハ困難ニシテ六箇月ナラハ約束ノ實行モ可能ト認メラルルニ付一九四一年トセル次第ナリ、半年後事態改善シ居ラハ或ハ六箇月以上ノ新規約束ヲ爲スコトモ可能ナルヘシト答ヘ

タリ

(ホ) 最後ニ從來蘭側トシテハ護謨及錫ニ付テハ對獨供給阻止條件ヲ重視セルモ其ノ他ノ物資ニ付テハ確約數量ハ之ヲ必ス供給スヘク唯萬一ノ爲右條件ヲ留保ストノ態度ナリシ處今次回答カ一律ニ右條件ヲ強調シ居ルハ如何ト質セル處御説ノ通り護謨數字以外ハ萬一ノ爲減少シ得ル自由ヲ留保セルモノニシテ實際的ニハ差當リ右條件適用ノ必要迫リ居ルモノトハ認メ居ラス從テ對日供給ハ順調ニ行ハルヘシト答ヘタリ

五、其ノ他

尙附屬書一、ノ二七八、〇〇〇ハ二七九、〇〇〇ノ間違ナラスヤト指摘セル處鑛山局長ニ照會ノ上回答スヘシク「ヘクター」位ノ相違ハ問題トスル程ノコトナカルヘシト答ヘタリ

599

昭和16年6月14日  
松岡外務大臣より  
在バタビア石沢総領事宛(電報)

ギルダ―資金を利用した蘭印物産の至急買付  
を政府決定の旨通報

第三一八號(極秘)

本省 6月14日後8時発

一、政府ハ最近著増シタル盾資金ヲ利用シ左記蘭印物産ノ至急買付方決定セリ

(イ) 玉蜀黍二萬八千噸(スラバヤ)宛往電第六八號ノ一萬五千噸ヲ除ク)

(ロ) 「カツサバ、ルート」一萬九千九百噸

(ハ) 砂糖十萬噸

(ニ) 「サイザル」四萬噸

(ホ) 「キニーネ」六十八噸

(ヘ) 糖蜜五萬四千噸

三、蘭側回答ニ依レハ右物産中玉蜀黍、「カツサバ、ルート」ヲ除ク外ハ但書ヲ附シ居ルモ砂糖ノ買増ニ異議ナカルヘク「キニーネ」ハ最初蘭側カ何程ニテモ買付ケニ應スル意嚮ヲ示シ又「サイザル」、糖蜜ニ付テハ意見開陳ヲ留保シ居ルモ兎モ角問題ヲ商取引ニ移シ買付ケ實行ニ取掛ルコトトセル次第ナリ

三、尙本件ハ全部ノ輸入代行社確定次第統制アル買付ヲ爲サシムヘキニ付不取敢參考ノ爲前記物産ノ出廻リ狀況、F

OB百「キロ」建相場等御取調ノ上買付ニ關スル御氣付  
ノ點ト共ニ大至急回電アリ度尙業者ノ思惑買ニ依ル値段  
上リ等來ササル様御配慮相成度

本電寫代表部へ交付アリ度

「スラバヤ」へ轉報アリ度

~~~~~

600

昭和16年6月14日 松岡外務大臣より  
芳沢日蘭會商代表宛(電報)

### 日蘭會商打切りにつき回訓

別電一 昭和十六年六月十四日發松岡外務大臣より芳

沢日蘭會商代表宛會商第一四六号

會商打切りに關する情報局發表案

二 昭和十六年六月十四日發松岡外務大臣より芳

沢日蘭會商代表宛會商第一四四号

會商打切りに關する情報局第三部長談話案

本省 6月14日後8時15分發

會商第一四七號(至急、館長符號扱)

貴電會商第二二七號ニ關シ

今回蘭側回答ハ不當ニシテ應諾ノ限りニ非サルノミナラス

右回答ヲ基礎トシテ交渉ヲ繼續スルコトモ無意味ナルニ付  
政府ハ此際貴見通り會商ヲ打切り貴代表部全員ノ引揚ケヲ  
行フコトニ決定セルニ付左記諸點御含ミノ上善處相成度

一、手續上慎重ヲ期スル爲貴代表ニ於テハ一應總督ト會見セ  
ラレ我方最後案ハ若シ之ヲ發表スルトキ輿論ノ攻撃ニ遭  
ヒ内閣ハ極メテ困難ナル立場ニ陷ルヘキモ日蘭印關係ヲ  
顧念シ難キヲ忍ヒテ讓歩シタル次第ナリト説明セラレ大  
局的見地ヨリ其ノ猛省ヲ促サレ總督ニ於テ再考ノ餘地ナ  
キ旨言明シタル場合ハ直ニ會商打切、代表引揚ヲ通告セ  
ラレ度シ

二、日蘭印間一般通商經濟關係ハ從來通保持セラルヘキモ  
ナリトノ點ヲ明確ナラシムルコトヲ希望スルモ先方ニ對  
シ積極的ニ斯ル申出ヲ爲スコトノ可否ハ貴代表ノ御裁量  
ニ一任スヘシ

三、若シ先方ニ於テ希望スルナラハ引續キ石澤總領事ヲシテ  
話合ヲ續行セシムルコトアルヘキ旨ヲ明カニセラレ度ク、  
從テ此ノ際日蘭印關係力決裂シタルカ如キ形ハ之ヲ避ケ  
ルモ代表部トシテハ會商ヲ打切り引揚クルモノナルコト  
ヲ明カニセラレ度シ

四、當方ニ於テハ外部ニ對シ同様ノ趣旨ニ依リ全然決裂セルカ如キ印象ヲ與フルコトハ努メテ避ケ輿論ノ激化ヲ防ク方針ナルニ付貴代表部ニ於テモ同一歩調ニ出テラレ度ク我方決定ノ當地ニ於ケル發表ハ貴代表ノ會商打切通告直後ト致度ニ付平文ニテ「通告濟」ト電報アリ度シ尙發表ノ形式ハ會商打切ニ關スル簡單ナル情報局發表(要領別電會商第一四六號)ニ石井部長談(要領別電會商第一四四號)ヲ附加スル豫定ナリ貴代表引揚ノ際ニ於ケル發表ハ之ト符合セシムル様御配慮アリ度シ

五、代表部引揚ケノ時期ハ貴代表ニ御一任ス但シ石油關係者ハ代表部ト引離シ引キ續キ居殘リ交渉ヲ繼續シ得ル様御配慮ヲ請フ

(別電一)

本省 6月14日後6時50分發

會商第一四六號(至急)

最近蘭印ヲ繞ル情勢ハ「バタヴィア」ニ於テ昨年九月以來行ヒ來レル日蘭印經濟交渉ノ圓滿ナル進捗ヲ困難ナラシムルニ至リ去ル六日蘭側代表ヨリ回答アリタル程度ノ内容ノ

モノニテハ此際特ニ國際協定トナスニ足ラスト認め政府ハ會商ヲ打切ルコトニ決シ芳澤使節ニ歸朝命令ヲ發シタリ

(別電二)

本省 6月14日後10時40分發

會商第一四四號(至急)

(一)一昨年十一月我方ヨリ日蘭印經濟交渉開始方和蘭政府ニ提議セル處同國政府モ原則的ニ同意セルニ依リ爾來具體的交渉開始方蘭側ト折衝ヲ重ネ居タルカ客年五月歐洲戰爭和蘭本國ニ波及シ蘭印モ影響ヲ蒙ルニ至リ殊ニ蘭印經濟力戰爭目的ニ動員セラルル結果日蘭印經濟關係ハ重大ナル惡影響ヲ蒙ルノ形勢トナリタリ東亞新秩序建設ニ遭遇シ東亞諸民族ノ緊密ナル協力ニ依リ共榮關係ノ確立ヲ期スル帝國政府トシテハ歐洲戰爭カ南方海面ニ迄波及スルコトニ無關心タリ得サルハ勿論國防國家建設ノ途上ニアリテ蘭印資源ニ對スル期待益々加重スルハ明カニシテ早キニ及ヒテ不可缺ノ資源ヲ確保スルト共ニ日蘭印經濟協力關係ヲ確立シ東亞ノ安定ヲ圖ルノ要切ナルモノアリシヲ以テ和蘭政府ニ對シ右關係確立ニ關スル交渉ノ至

急開始ヲ要求スル一方不取敢蘭印ニ期待スル重要物資ニ付其對日供給ノ保障ヲ要求セリ之ニ對シ和蘭政府ハ同國カ戰禍ニ捲込マレタ結果生シタル國際關係ノ變化ニ拘ラス蘭印ノ對日經濟關係ハ依然圓滑ニ繼續スヘキ旨ヲ確言シ且斯クスルコトカ蘭印ノ死活の利益ニ合致シ東亞ノ平和安定ニ資スルモノナルコトヲ確認シ積極的協力實踐ノ意圖ヲ明カニセリ

(二)帝國政府ハ日蘭間ノ右合意ヲ基礎ニ「バタヴィア」ニ於テ客年九月以來經濟交渉ヲ續行シ其圓滿ナル妥結ニ多大ノ努力ヲ拂ヒ來レル處日蘭印交渉ハ物資獲得問題ノミナラス一般通商關係ノ増進、邦人ノ入國、從業、企業投資、海運、航空及通信連絡等相當多岐ニ亘ルモノナルカ是等事項特ニ航空連絡、石油事業等何レモ第三國ニ對シ極メテ寛大ニ許可セラレ居ル所ニシテ從テ帝國政府ノ要求モ極メテ合理的ナルモノニテ何レモ日蘭印經濟協力關係促進ノ基礎ニ立テハ解決容易ナルモノナリ

(三)之ニ對シ蘭印政府ハ其政策ノ基調カ蘭印住民ノ進歩、繁榮及解放ニアルコトヲ強調シ居ルモ我方提案カ何等右ト牴觸セサルモノナルコトハ明カニシテ寧口蘭印トシテハ

日本トノ經濟協力關係ヲ確立シ東亞ノ平和安定ニ寄與スルコトニ依リ右政策ヲ促進シ得ルコト言フ俟タス

(四)然ルニ經濟戰ノ激化ト共ニ蘭印ヲ繞ル情勢ハ交渉ノ圓滿ナル進捗ヲ困難ナラシムルニ至リ去ル六日ノ蘭側回答ハ甚タ不満足ナルノミナラス殊ニ我方ノ重視スル必要物資獲得ノ問題ニ付テハ蘭側ノ都合ニ依リ臨時其數量ヲ減少シ得ルモノトナスコトヲ主張セリ此問題ニ付テハ從來度々和蘭政府及蘭印當局ノ約束乃至言明アルコトニモアリ今次蘭側回答ノ如キ内容ニテハ此際特ニ國際協定トナスニ足ラサルモノト認メ會商ハ之ヲ打切り代表部ヲ引揚クルコトニ決シタル次第ナリ

(五)然シ乍ラ帝國トシテハ其公正ナル主張ハ依然之ヲ堅持スルハ言フヲ待タス尙會商打切ニ依リ日蘭印間平常關係ハ今後モ何等ノ影響ヲ受クルモノニ非ス

601

昭和16年6月14日

松岡外務大臣より  
芳沢日蘭會商代表宛(電報)

日蘭會商打切り發表に關するわが方方針訓令

本省 6月14日後9時20分發

會商第一四八號(至急)

貴電會商第二三六號ニ關シ

我方ノ發表文案ハ既電ノ通ニテ殆ト交渉内容ニハ立入ッテ觸レ居ラズ單ニ會商打切、代表部引揚ゲノ事實及我方ニ於テ打切り已ム無シトスル理由ヲ圓曲<sup>(宛)</sup>ニ述ベタル迄ニテ交渉妥結ノ場合ナラバ兎モ角打切りノ場合ニ於ケル此種發表ニ付蘭側ノ干涉ヲ受クベキ限リニ非ズ(發表内容ヲ予メ蘭側ニ内示スルコトハ宣傳上モ不得策ナリ)ト思考ス加之昨年十一月買油交渉妥結ノ際我方代表ニ於テ反對セルニ拘ラズ蘭側ハ其ノ數量ヲ石油業者ヲシテ一方的ニ「コムミュニケ」トシテ發表セシメ右ガ米國等ニ傳ハリタル蘭側不信ノ事例アリ依テ蘭側ニ對シ會商打切り通告ノ際右趣旨ヲ述ベラレ先方ノ申出ヲ一蹴セラレ度シ尤モ萬一右ニ關シ更ニ何等御意見アラバ折返シ御回電ヲ乞フ

尙蘭側が交渉中ニ於テスラ無斷其ノ内容及經過ヲ逐一英米等ニ内報セルコトハ確實ナル情報ニ依リテ明瞭ナル事實ナルノミナラズ五月十四日ノ我方提案及六月六日ノ蘭側回答ノ如キモ平文ニテ之ヲ在京和蘭公使ニ電報シ居リ右ハ恐ラク在倫敦和蘭政府ヘハ勿論其ノ在外使臣ニ對シテモ同様電

報シ居ルコトト思考セラレ其ノ態度及措置振不都合千萬ナルニ付前記ノ際此ノ點モ併セ指摘セラレ度シ

~~~~~

602

昭和16年6月14日

松岡外務大臣より  
在米國野村大使、在独國大島大使宛  
(電報)

蘭印問題をめぐる大橋外務次官とクレギー  
英國大使との意見交換について

本省 6月14日後10時30分發

合第一二五六號(館長符號抜)

「クレギー」十三日次官ヲ來訪「マイン、カムプ」ニ於テ「ヒトラー」カ「英國民ハ戰爭期間ノ長短、犠牲ノ大小、手段ノ如何ニ拘ラス又其軍備ニ於テ他國ニ比シ劣リ居ル場合ト雖モ勝利ヲ得ル迄鬪ヒ通ス」ト書キ居ル點ヲ指摘シタル後英國ハ必ス勝ツヘク又萬一獨逸カ勝利ヲ得タル時ハ世界ヲ征服スル危險アリ殊ニ獨逸ハ蘭印ニ野心ヲ有スルコト、米、蘇モ將ニ戰爭ニ捲キ込マルコト必定ナルニ日本獨リ中立ヲ維持シ得ル絶好ノ地位ニ在ルト説キタル後日本カ蘭印問題ニ關シ實力行使ノ場合英國亦捲キ込マルコトナ

ル處今次蘭側回答ニ對シ日本政府ハ如何ニ處置セラルルヤト質問シタルニ付次官ハ芳澤代表引揚クルコトニ決定セリト答ヘタルニ「ク」ハ引揚後東京ニ於テ和蘭公使ト交渉繼續セラルル積リナリヤト問ヒタルニ付次官ヨリ然ル考ヘナク成行ニ委ス外ナシ實際外務省トシテハ如何ニカシテ平和の二會商ヲ妥結セシメントスル熱意ヨリ若シ公表スレハ輿論ノ攻撃難ニ堪エサルカ如キ軟弱ナル提案ヲ爲シ蘭側ノ受ケ易キモノタラシメタルニ拘ラス之ヲモ全面的ニ拒否シタリ

日本側提案カ現時ノ國內輿論ニ鑑ミ如何ニ軟弱ナルモノナルカハ我事務當局中ニハ此ノ如キ案ニテ妥結シ公表シタル場合輿論ノ攻撃ヲ受クルヨリハ寧口纏マラサル爲公表ノ必要モナキニ至レルコトヲ喜フモノスラ在ルコトニテモ知ラルヘシ又本問題ニ對スル日本ノ輿論トシテ新聞等ニ現ハルルモノハ左程強硬ト見ルヘキモノナキモ各種政治團體力カ如何ニ動キ出スヤハ全ク豫測シ難ク實ニ心痛シ居ル次第ナリ從テ先般和蘭公使ニ語リタル所ハ全然懸引若クハ威赫ニ非ス實情其通ナリ然シ右ハ友人トシテ私見ヲ述ヘタル迄ナルニ付本國等ニ報告セラレサル様致度ト述ヘタルニ「ク」ハ

只今御話ノ通日本ニハ蘭印占領ヲ唱フル過激分子アルコト及日本内閣カ危険ナル潛勢力ニ動カサルル事實ハ承知シ居レリ英國ニ於テハ護謨及錫等カ對獨再輸出セラレサル限り日本ニ輸出セサル理由ナシト思ヒ居ルカ日本ハ對獨再輸出セストノ保障ヲ蘭側ニ與ヘラレ居ルヤト質セルニ付次官ハ我方トシテハ對獨再輸出セサルコトヲ繰返シ居レリト答ヘタリ

右會見ニ於テ次官ハ英側モ最惡ノ事態ニ立チ至ルヘキコトヲ憂慮シ居ルカ如キ印象ヲ受ケタル趣ナリ

本電宛先 米、獨

米ヨリ英ニ轉電アリ度



603 昭和16年6月15日 芳沢日蘭會商代表より  
松岡外務大臣宛(電報)

### 日蘭會商打切り手續きの詳細につき請訓

バタビア 6月15日後発  
本省 6月16日前着

會商第二三七號(大至急、館長符號扱)

貴電會商第一四七號ニ關シ



今回ノ御訓令ハ種々ノ意味ニ於テ非常ニ重大ニ之アリ從テ本使ノ腑ニ落チサルニ、三ノ點ニ付御意見承知致度シ即チ左記ニ關シ何分ノ儀大至急御回電請フ

一、總督ノ反省ヲ促スニ當リ「我方最後案ヲ發表スルトキハ輿論ノ攻撃ニ遭ヒ内閣ハ極メテ困難ナル立場ニ陥ルヘキモ」ノ文句ハ誰々ノ内閣ヲ相手トセス日本政府ヲ相手トシテ考ヘ居ル蘭側ニ執リ何等意味ナキノミナラス我國内政事情ノ窮狀ヲ訴ヘテ蘭側ニ哀訴スルカ如キ結果トナリ日本帝國ノ威嚴ニ關スル惧アルヤニモ存セラルルニ付本使トシテハ右文句ハ之ヲ用ヒサルコトト致度シ

二、日蘭印間ノ通常ナル一般經濟關係保持ニ付テハ蘭側回答中通商貿易關係前文末尾及ニ、末段ニ於テ之ニ言及シ居ルコトニモアリ又會商打切り後ニ於ケル在留邦人七千ノ動搖ヲ阻止スル目的ヨリ考フルモ本使ヨリ積極的ニ申入レ出來得レハ共同「コムミュニケ」中ニ其ノ趣旨ヲ織込ム様蘭側説得ニ努力スル積ニ付御含ミ請フ

三、石澤總領事ヲシテ話合ヲ續行セシムルコトアルヘキ旨ヲ申入ルルコトハ我方力會商打切りニ依リ毅然タル態度ヲ表明セントシ乍ラ他面未練ヲ殘スモノトノ印象ヲ與ヘ帝

國ノ威信上面白カラスト思考セラルルノミナラス前記ノ如キ申入ハ行ハストモ打切り後ニ起ルヘキ諸種ノ問題ニ關シテハ總領事ニ於テ當然話合ヲ爲シ得ル筋合ナルニ付本件申入ハ爲ササルコトト致度シ

四、會商打切ト決裂トノ差異ハ何處ニ在リヤ承知致度シ本使トシテハ會商ノ打切ヲ通告スルコトハ即チ會商ノ決裂ヲ意味スルモノト了解スル外ナク又貴電會商第一四六號發表文ハ何人カ見ルモ會商決裂ト解釋スル外ナカルヘキ處此ノ點ニ關シ更ニ明確ナル政府ノ御意嚮竝ニ打切ト決裂ノ英語併セテ御回電相煩度

五、石油關係ノ問題モ一般會商ノ一部ナルコトハ今更申上クル迄モナキ次第ナルニ拘ラス石油關係者ノミ居殘リ交渉ヲ繼續セシムルコトハ到底不可能ニテ右ハ本使ニ於テ努力スルモ蘭側ニ於テ承諾セサルコトハ理論上ヨリ言フモ又感情上ヨリ言フモ明白ナルニ付御含ミヲ請フ

~~~~~

604

昭和16年6月16日

松岡外務大臣より  
芳沢日蘭会商代表宛(電報)

日蘭会商打切り手続きの詳細につき回訓



本 省 6月16日後8時0分発

會商第一五〇號(大至急)

貴電會商第二三七號ニ關シ

一、同電一、ノ點ハ如何ニ我方ガ難キヲ忍ビ斯ル「リスク」ス  
ラ執リテ圓滿安結ヲ圖リ居ルカニ付先方ヲ「コンヴェイン  
ス」セシムル爲メニシテ蘭側ガ我方最後案ヲ容レザレバ  
内閣ノ立場困難トナルベシトテ訴フルガ如キ趣旨ニハ非  
ザルニ付右御含ミノ上然ルベキ言廻ハシヲセラレ度シ  
二、同電三、ハ御來示ノ通措置セラレ度シ

三、同電三、及四、ニ付テハ蘭側回答ガ協定ノ基礎トシテ取上ゲ  
得ザルモノナル以上會。商ハ打切りノ外無キモ帝國政府ト  
シテハ右ニ因リ日蘭印間ノ一般關係ガ忽チ破局ニ瀕シ日  
蘭間ニ干戈ニ訴フルノ已ム無キ事態ガ現出セルガ如キ印  
象ヲ内外ニ與フルヲ避クル爲穩カニ會商ヲ打切り代表部  
ヲ引揚ゲテ我國民ヲ昂奮セシムルガ如キ情勢ヲ誘致セ  
シメザラントスルニ在リ從テ用語ヲ have decided to  
discontinue トセラレ度ク rupture 又ハ夫レ以上ノ辭句  
ハ御使用相成ラザル様致度シ又「石澤總領事ヲシテ話合  
ヲ續行セシムルコト」云々ノ點ハ右ノ如ク日蘭印間通常

ノ經濟關係ハ維持セラルルモノナリトノ見地ヨリ會商ノ  
議題トナレル事項ニ付テモ今後必要ニ應ジ隨時同總領事  
ヲシテ交渉ニ當ラシムルノ用意アリトノ趣旨ヲ口頭ニテ  
輕ク表示セラレ度シトノ意味ニテ我方ガ猶會商ニ未練ヲ  
殘シ居ルガ如キ印象ヲ先方ニ與フルハ本意ニ非ザルニ付  
此ノ邊ノ言ヒ廻シハ貴代表ニ御任カセス

四、石油關係者ノ殘留ハ前記三、ノ趣旨ヨリ關係廳ニ於テ特ニ  
強ク希望シ居ルニ付出來得ル限り御斡旋相煩ハシ度シ要  
之通常ノ經濟關係ハ之ヲ保持スルノ見地ヨリ個々ノ問題  
ニ付テハ今後モ折衝スルノ要アル次第ナルニ付右趣旨ヲ  
以テ可然蘭側ニ對シ御應酬相成ル様御配慮ヲ乞フ



605 昭和16年6月17日 芳沢日蘭會商代表より  
松岡外務大臣宛(電報)

日蘭會商の打切りを蘭印總督に通告し共同声  
明發出方合意について

バタビア 6月17日後発  
本 省 6月18日前着

會商第二四二號(至急、館長符號扱)

貴電會商第一四七號及第一五〇號ニ關シ<sup>(1)</sup>

十七日午後五時總督ト會見「モ」「ホ」及石澤同席）本使ヨリ五月十四日附我方提案ハ最モ妥協的ナル精神ヨリ作成セルモノニシテ若シ其ノ内容ニシテ發表サレンカ國論ハ必スヤ沸騰シ政府ハ甚タ困難ナル立場ニ陥ルヘキコト豫想ニ難カラス然ルニモ不拘日本政府ニ於テ右限度ノ提案ヲ作成シタルハ會商ノ圓滿ナル妥結ヲ圖ラントスル誠意ニ出テタルモノナリ然ルニ本月六日附蘭側回答ハ日本政府ニトリテハ不満足ニシテ此ノ程度ノモノナラハ協約ヲ締結スル基礎トシテハ不充分ナリ右ノ理由ニ依リ政府ハ自分ニ對シ閣下ニ面會ノ上閣下ノ慎重ナル再考ヲ促シ以テ蘭側カ協約ノ基礎トスルニ足ルヘキ一層讓歩的の回答ヲ與フル様取計ハレンコトヲ要求スル様訓令越シタリ若シ閣下ニシテ再考ノ餘地ナシト言ハルルニ於テハ自分ハ日本政府ノ訓令ニ基キ今次會商ノ打切ト自分及隨員ノ引揚ヲ通告スル次第ナリト述ヘタリ（以上ハ間違ナキヲ期スル爲書物ニシテ朗讀セリ）

總督ハ右ニ對シ蘭側ノ回答ハ慎重ニ審議セル結果ニシテ最早再考ノ餘地ナシ自分ハ蘭側回答ヲ基礎トスル協約ニ對シ兩國責任者カ調印シ得ルコトヲ期待シ居リタルモノナルカ

日本側ノ同意ヲ得ルニ至ラサルハ遺憾ナラ又已ムヲ得サル所ナリ乍然今回ノ會商ニ依リ蘭側ノ見解カ日本側ニ對シ明カトナリタルハ有益ナリト思考シ居レリト答ヘタリ

次デ本使ハ十六日國民參議會ニ於ケル閣下ノ演説及六日附回答中ニハ日蘭印間ノ通常ノ經濟關係ヲ維持スルコトハ蘭側ノ希望スル所ナル趣旨現レ居ル處右ハ日本側ニ於テモ同様ナルニ付會商打切後ト雖今次會商ノ議題トナレル項目ニ付テモ必要ニ應シ隨時石澤總領事ヲシテ交渉ニ當ラシムル用意アリト述ヘタル處總督ハ右ハ蘭側ニ於テモ同感ニシテ會商不成立ニ依リ日蘭間ニ惡感情ノ生スルコトハ之ヲ欲セサル次第ニシテ通常ナル經濟關係ノ維持ハ蘭側ニ於テモ欲スル所ナリト答ヘタリ

依テ本使ハ別電<sup>(2)</sup>共同「コンミュニケ」發表ノ有益ナル旨ヲ示唆シタル處總督之ニ同意シ日本側ノ好意ヲ多トスル旨答ヘタリ本使ハ引續キ蘭側トシテハ其ノ回答中ニ示サレタル輸出貨物ノ數量ハ會商打切ニ拘ラス日本ニ對シ供給ヲ續ケラルルモノト了解スル處如何ト質シタル處總督ハ蘭側回答ニ明示セル條件ニ從ヒ供給スルコトニ異議ナシト答ヘタリ仍テ本使ハ日本側トシテモ會商打切ニ不拘蘭印側カ輸出ヲ

希望セラルル砂糖其ノ他數種ノ農產物ハ事情ノ許ス限り大體ニ於テ我方覺書記載ノ程度ノ數量ハ輸入スル積リナルカ（總領事宛貴電第三二八號）詳細ハ石澤總領事ト經濟省間ノ話合ニ讓ルコトトスヘシト述ヘタル處總督ハ謝意ヲ表シ居タリ

次ニ本使ヨリ石油ニ對スル問題ハ先般特ニ蘭側ノ主張ヲ尊重シ今次會商ニ於テ一括討議スルコトニ同意セル次第ナルカ會商打切りトナルモ本件丈ケハ石油關係者即チ伊藤其ノ他ノ關係者ヲシテ蘭印政府ト交渉ヲ續ケシムルコトト致度ト強調セル處總督ハ貴使ノ希望ハ自分ニ於テ之ヲ容ルルコトト致スヘキモ交渉ノ爲居殘ルヘキモノハ「コンマーシヤル・ピールス」ノミヲ許可スヘシト答ヘタリ

編 注 別電會商第二四四号は省略。なお、共同声明は原案ど

おりに發表された(本書第606文書参照)。

~~~~~

606 昭和16年6月18日

### 日蘭會商打切りに関する共同声明

會商打切ニ關スル日蘭印共同聲明

(昭和十六年六月十八日發表)

Both the Japanese and Netherlands Delegations greatly regret that the economic negotiation which has been conducted between them has unfortunately come to no satisfactory result. It is needless, however, to add that the discontinuation of the present negotiation will lead to no change of normal relations between Japan and the Netherlands Indies.

~~~~~

607 昭和16年6月18日 松岡外務大臣より  
芳沢日蘭會商代表宛(電報)

### 會商打切り後も石油業者代表の殘留方訓令

本 省 6月18日午後6時10分發

會商第一五三號(極秘、至急)

燃料局長官ヨリ伊藤へ

一、石油問題ノ特異性ニ鑑ミ帝國代表部引揚後モ石油業者代表トシテ引續キ駐在セラレ度

二、尙國際情勢機微ノ折柄既ニ諒解ヲ取付タル鑛區ノ開發實

5 第二次提案の提出と日蘭会商の打切り

行及既契約買油ノ履行ニ付テモ幾多難問題ノ發生ヲ豫想セラルルヲ以テ差當リ此等ニ對スル圓滿ナル解決ヲ圖ル爲必要ニ應シ折衝ニ當ラルルコトトシ積極的要求ハ當分差控ヘ好機ヲ俟ツコトト致度

608

昭和16年6月20日 松岡外務大臣より  
在バタビア石沢総領事宛(電報)

蘭側最終回答の數量を超過する砂糖の買付に  
関し説明振り訓令

本省 6月20日後8時発

第三二五號(極秘)

往電第三一八號ニ關シ

(欄外記入) 先ツ砂糖十萬噸(往電第二七〇號ノ一萬二千噸ヲ含ム)三井及三菱ヲシテ買付ケシメ六月ヨリ十月迄ニ定期船(内地揚)

及臨時船(臺灣揚)ヲ以テ積取ルコトニ決定セリ

然ルニ右ハ蘭側最後回答ニ於テ希望セル數量ヲ超過スル次第ナルニ付要スレハ蘭印政府ニ對シ日本側トシテハ交渉妥結セサルモ買付方提案セル物資ハ重大ナル支障起ラサル限リ買付クル方針ナリト説明ヲ與ヘラレ蘭側回答掲記ノ重要

物資ニ對スル輸出許可發給ヲ迅速ナラシムルコトト多少ノ増量(護謄及錫ニ付テハ至難ナルヘキモ)ヲモ承諾セシムル手段ニ利用方法御配慮相成度

尙本件買付ニ關スル詳細ナル指令ハ三井及三菱貴地支店ヨリ貴官ニ報告ノ筈ナルニ付御承知相成度

本電寫代表部ヘ交付アリ度

「スラバヤ」ヘ轉電アリ度

(欄外記入)

此一萬二千屯ハ取急キ北、中支ヘ配給ノ爲興亞院ニテ買付クル計畫ニ屬ス(姉齒領事サイン)

609

昭和16年6月22日 芳沢日蘭会商代表より  
松岡外務大臣宛(電報)

石油問題は解決済みにつき石油業者代表は滞

在の理由なき旨具申

別電 昭和十六年六月二十二日發芳沢日蘭会商代表

より松岡外務大臣宛會商第二五二号

石油問題に関する蘭印經濟長官回答

付記 昭和十六年六月二十四日發芳沢日蘭會商代表

より松岡外務大臣宛電報會商第二五五号

石油業者代表の帰国に同意した旨報告

バタビア 6月22日後發

本 省 6月23日前着

會商第二五一號

燃料局長官へ伊藤ヨリ

別電第二五二號ノ如ク石油問題ハ萬事片附キ蘭印政府ニ對シテモ之以上滞在ノ理由ナキ故日昌丸ニテ歸朝スル御了承請フ

(別電)

バタビア 6月22日後發

本 省 6月23日前着

會商第二五二號

總領事宛石油關係殘留者ニ關スル貴電二付

燃料局長官へ伊藤ヨリ

昨日小生ヨリ「モ」氏ニ對シ確メノ出狀ヲ爲セルニ對シ本日小生宛返書アツタ其ノ全譯左ノ通り

二十日附貴狀ニ對スル返書トシテ我々ノ話合ニ關スル貴殿ノ了解ヲ左ノ如ク「コンファーム」スル

賣油竝ニ石油資源ニ關スル和蘭政府ノ見解ハ過日會見ノ際小生ヨリ貴殿ニ對シ申述ヘタル如ク蘭側覺書附屬書第一及第二號ニ明記セラレタル通り

和蘭政府ハ千九百四十一年六月十七日附共同聲明ニ於テ言明セル正常ナル關係力維持セラルル限り之等覺書ノ條項ヲ履行スルニ何等異議ナシ依テ本問題ハ今後ハ關係官廳ト當業者トノ間ニ於テ處理シ得ヘキヲ以テ之以上話合ノ必要ナシト思フ

日本側ニ於テモ砂糖ノ如キ特定物資ノ日本向輸入ニ關スル申入ニ付テハ同様ノ態度ヲ執ラルルコトト了解スル然シ右輸入ト石油問題トノ間ニハ何等特別ノ相關關係ナシ

尙會商ハ協定ニ至ラサリシヲ以テ日蘭双方覺書ニ記載セラレタル諸問題ノ實行ハ何レモ一方的決定ニ依ルモノ故貴殿ヨリ要求アリタル附屬書第一號ニ共同署名ヲ爲スノ件ハ其ノ要ナシト思料ス

次ニ小生昨夜「モ」氏ト面會ノ節「サンクリラン」第一A(圖)國探鑛竝ニ探鑛ノ「コンセツション」ニ關シテハ本日本國

政府ニ電請スヘキ旨「モ」氏ヨリ言明アツタ「サンクリラ  
ン」第一及第二區ノ許可促進ニ關シテハ二十四日鑛山局長  
ト打合スル

(付記)

バタビア 6月24日前発  
本省 6月24日後着

會商第二五五號(館長符號抜、至急)

貴電會商第一五六號ニ關シ(石油業者代表ノ殘留方ニ關ス  
ル件)

燃料局長官ノ趣旨ハ要スルニ石油資源ノ問題ハ「モ」ヨリ  
伊藤宛回答ニ依ツテ一段落ヲ告ケタルモ帝國政府最初ヨリ  
ノ計畫ニ掛ル更ニ廣汎ナル資源獲得ノ御希望ニ基キ國際情  
勢ノ好轉ヲ待ツテ宿望ヲ達成セントセラルルヤニ拜察セラ  
ルル處國際情勢ノ好轉ハ(若シ英國上陸作戦ノコトヲ意味  
セラルルトセハ)少クトモ當分見込ナキコトハ明白ニ之有  
然ルニ拘ラス此ノ上伊藤畑中ヲ當地ニ殘留セシメラルルモ  
全然無意義ニテ本使トシテハ全ク其ノ必要ヲ認メス加之  
「モ」ヲ始メ蘭側トシテハ「モ」ノ回答ヲ以テ資源問題ノ

結論ト看做シ此ノ上兩氏殘留スルトモ全然相手トセサルコ  
ト勿論ナリ(兩氏ノ後任者ニ付テモ同様ナリ)就テハ燃料局  
長官ヨリ來電ノ次第アルモ本使ハ兩氏ノ日昌丸ニテ歸朝ノ  
希望ニ同意シ置ケルニ付右様御含ミアリ度シ

610

昭和16年6月24日 在バタビア石沢総領事より  
松岡外務大臣宛(電報)

蘭側最終回答の履行確約に関し蘭印総督等か  
ら言質取付けについて

バタビア 6月24日前発  
本省 6月24日前着

第五三五號(館長符號抜、至急)

<sup>(1)</sup>二十日夜總督主催芳澤全權送別晚餐會ニ於テ總督ト直接  
面談ノ機會アリシニ付本官ヨリ全權引揚後ハ會商討議事  
項ニ付テモ本官ニ於テ交渉ノ任ニ當ラルヘカラサル處  
十七日閣下ノ述ヘラレタル趣旨ハ蘭側トシテハ其ノ最終  
覺書中ニ於テ同意セルコトハ物資問題以外ノ點モ實行ス  
トノ意ト了解セルモ念ヲ押シ置キタシト述ヘタル處總督  
ハ日蘭友好關係ノ繼續スル限り覺書ニ表示セル通ノ趣旨

ニ於テ實行スルコトニ異議ナシ但シ日本側ニ於テモ其ノ最終覺書ニ於テ同意セラレタル點ハ實行セラルルモノト期待スル次第ナリ尙附言シタキハ日本新聞ノ態度ナルカ「プレスキヤンペン」ハ蘭側輿論ヲ憤慨セシムルノミニシテ效果ナキノミナラス政府トシテ爲サムト欲スルコトモ體面上之ヲ中止セサルヲ得サルコトナリ日本側ニ取リ決シテ利益ニアラス日本政府ニ於テモ將來ハ新聞統制ヲ強化シ無用ノ惡感情ヲ醸ササル様セラレ度キモノナリト述ヘタリ本官ハ右ノ點ハ政府ニ傳達スヘキモ蘭側ニ於テモ統制ヲ爲サレタシト應酬セル處蘭側新聞ヨリ挑戰スルカ如キコトナキモ注意ハ致スヘシト答ヘタリ二十一日「モ」長官ニ對シテモ同一趣旨ヲ以テ意見ヲ交換セルカ「モ」ハ總督同様應酬スルト共ニ石油「コンセツション」ノ如キモ右見地ヨリ蘭側覺書ノ通承諾スルコトトシ其ノ旨伊藤氏ニ回答致シ置ケル次第ナリト述ヘタリ

三、二十三日更ニ「ホ」ヲ往訪シ蘭側覺書實行方ニ付念ヲ押シタル處「ホ」モ同様ノコトヲ前置シタル上日本側ニ於テモ其ノ覺書中ニ表示セラレタル趣旨ニ基キ蘭印カ輸出ヲ希望スル物産ノ買付、蘭側要求ノ圓爲替問題及在日蘭

商營業自由（組合關係）問題竝ニ曩ニ要請セル在日蘭人生活改善（主トシテ食糧配給問題）等カ満足ニ解決セラルルコトヲ欲スルモノニシテ右ヲ條件トスル次第第二ハアラサルモ右解決ヲ期待シツツ蘭側トシテハ其ノ覺書ノ内容ハ出來得ル限り實行ノ手筈ナリ例ヘハ日本人醫師開業ノ如キモ法規ヲ改正シテ日本側希望ヲ容レ得ル様手配中ナリト答ヘタリ依ツテ本官ヨリ貴電第三一八號及第三二五號ノ趣旨竝ニ輸出組合問題ニ關スル政府御斡旋ノ模様及貴電第三二一號ノ趣旨ヲ然ルヘク取捨説明セル處「ホ」ハ之ヲ多トシ右ノ圓滿實現ヲ待ツ旨答ヘタリ

三、<sup>(2)</sup>全權宛屢次ノ御訓令ニ依リ政府ニ於テハ「プレスキヤンペン」其ノ他對獨「ゼスチユア」ヲ強化セラレタルニ拘ハラス會商打切後ト雖矢張日蘭平常關係ノ維持ハ勿論更ニ蘭印物資獲得、石油「コンセツション」ノ開發等ヲ希望セラレ居ル様拜察セラルル處當面ノ問題トシテハ右目的達成ノ爲ニハ結局蘭側ノ好意の協力ヲ不可缺トスル次第ニ付今後ハ前記ノ「ライン」ニ依リ綜合的ニ覺書内容實行ノ建前ヲ以テ最大限度ノ實利ヲ收ムルコト最善ト思考ス就テハ右ニ御贊同ヲ得ルニ於テハ貴電第三一八號



記載品目以外珈琲其ノ他蘭側ニ於テ希望スヘキ物資ノ買  
付量詳細御回電相煩度又「ホ」指摘ノ諸問題ニ付テモ急  
速解決ヲ切望ス

四、尙此ノ機會ニ申上置キタキハ會商今日迄ノ經緯ニ明カナ  
ル通り當領政府當局及蘭人一般ハ御想像以上ニ自主獨立  
心強く強壓的態度ニ對シテハ利害ヲ超越シテ反撥スル傾  
向大ニシテ單ナル威喝又ハ壓迫的「プレスキャンペン」  
ノ如キハ如何程之ヲ行フモ先方ノ輕蔑ヲ招クノミニシテ  
何等ノ利益ナキ次第二付此ノ點御含ミノ上(脱)指導方特  
別ノ御配慮ヲ請フ

611

昭和16年6月24日 松岡外務大臣より  
芳沢日蘭会商代表宛(電報)

日蘭会商における芳沢代表の尽力に對し謝意  
表明について

本省 6月24日後8時30分發

會商第一五九號(館長符號抜)

日蘭印交渉ノ極メテ難物ナルハ當初ヨリ明瞭ニシテ又氣候  
モ惡キコトニテモアリ閣下ヲ煩ハスコトハ實ハ親友トシテ

情ニ於テ忍ビサルモノアリタルモ國家ノ爲已ムル得ス折入  
ツテ御頼ミシタル處其ノ極メテ難件ニシテ成功甚タ望ミ薄  
ナルコトヲ百モ御承知ノ上國家爲敢テ之ヲ受諾セラレタル  
閣下ノ御心情ニ對シテハ本大臣ハ當初ヨリ衷心敬意ト感謝  
ノ念トヲ拂ヒ居タル次第ナリ唯變轉極マリ無キ現下ノ世界  
情勢ニ顧ミ或ハ或ル程度成功ノ運ヒトモナルヘキ環境ノ變  
化生スルヤモ知レストノ一點ニ一縷ノ望ヲ繫キ且之ヲ祈念  
シ居リタルモ此ノ點ハ寧口逆轉シ今回遂ニ御引揚ノ他無キ  
事態ニ立到リタルハ返ス返スモ遺憾ニ存スルト共ニ閣下ニ  
對シテハ眞ニ友人トシテ申譯無キ感ヲ禁スル能ハサルモノ  
アリ

スル難局ニモ拘ラス灼熱瘴癘ノ地ニ於テ半歲闘ヒ抜カレ而  
シテ打切り際<sup>(ハカ)</sup>際シテハ事情ノ許ス限り之ニ善處セラレタル御  
苦心ノ段々ニ對シ本大臣ハ茲ニ更メテ閣下ニ深甚ノ謝意ヲ  
表スルモノナリ  
尙石澤總領事及隨員一同ノ奮闘ニ對シテモ併セテ謝意ヲ表  
ス



昭和16年 6月24日

在バタビア石沢総領事より  
松岡外務大臣宛(電報)

## 独ソ開戦をめぐるホーフストラーテンとの意

## 見交換について

バタビア 6月24日後発

本 省 6月25日前着

## 第五三九號(館長符號扱、至急)

一、<sup>(1)</sup>二十三日「ホ」ト面談本官ヨリ獨蘇開戦ニ關シ公電接到セル處會商中蘭側カ反覆強調セル對獨再輸出ノ懸念ハ獨蘇連絡斷絶セル今日トシテハ既ニ解消セリト言フヘク今後對日物資供給ハ日本側希望通り行ハレ得ヘキ筈ナルカ如何ト質セル處「ホ」ハ獨蘇開戦後ノ一般情勢竝ニ日本ノ態度カ如何ニナリ行クヤ不明ニ付暫ク形勢觀望ノ要アルヲ以テ對日物資輸出ヲ即時自由ナラシムルカ如キハ直ニ承諾スル能ハスト答ヘタリ

二、次ニ本官ヨリ獨蘇戰爭ニ關スル感想ヲ叩ケル處「ホ」ハ個人的意見トシテ誠ニ喜ハシキコトナリ今次開戦ニ依リ獨ハ對英作戦ニ専心スルヲ得ス一方蘇軍モ昔ヨリ著シク強大化セルニ付簡單ニ屈服セシムルハ不可能ナリ又其ノ

間米ノ援英ハ拍車ヲ掛ケラレ英ノ戰鬪力ハ増大ノ一途ヲ辿ルヘシ斯クテ獨奔命ニ疲弊セハ蘇ハ反擊態勢ニ出ツヘク「ヒ」ノ没落ハ一層早メラルルコト疑ナシト答ヘタルニ付本官ハ獨陸軍ハ蘇軍ヨリ優勢ナルハ勿論精神的ニモ歴史的ニモ蘇軍ニ對シテハ必勝ノ信念ニ立チ居ルヲ以テ戦ヒハ獨側勝利ノ可能性大ナルヘシ假ニ蘇聯邦勝利ヲ得トスルモ歐洲ハ「ヒトラー」ノ代リニ「スターリン」ノ抑フル所トナリ和蘭ニ取りテハ左程ノ相違ナキニアラスヤト反問セル處

「ホ」ハ獨蘇戦ハ結局永引キ双方トモ疲弊スルモノト思フモ假ニ蘇聯邦ノ勝利ヲ見ル場合モ蘇聯邦ハ獨ト異ナリ西歐ニ對シテハ左シタル野心ナシ從テ「ヒトラー」没落セハ英蘭ノ協力ニ依リ蘭本國ノ恢復ヲ計ルコト容易ト思考スト答ヘタリ

三、<sup>(2)</sup>次ニ「ホ」ハ本官ニ對シ蘭側トシテ最モ重要視スルハ日本ノ態度ナルカ如何ト問ヒタルニ付右ハ日本政府ノ決定ヲ見ル迄ハ何等言明シ得ル立場ニアラサルモ日蘇間ニハ中立條約アリ又三國同盟ハ其ノ第五條ニ於テ締約國ノ各々ト蘇聯邦トノ關係ハ同盟ニ依リ何等ノ影響ヲ受ケサ

ル旨規定シ居ルニ付獨蘇關係ノ變化ハ直ニ日本ニ影響ス  
ルモノト思ハレスト答ヘ置キタリ

四、右話合ニ依リ得タル印象ニ依レハ蘭側トシテハ對獨再輸  
出ノ懸念ハ一先ツ去リ得ヘキモ今後ノ成行ニ依リテハ蘇  
聯邦ヲシテ獨ニ勝タシムル目的ヨリ蘭印物資ヲ積極的ニ  
蘇聯邦ニ供給スルニ至ルヤモ計ラレス又其ノ場合ニハ右  
必要ヲ理由トシテ對日輸出増加ヲ承諾セサルノミナラス  
日本カ積極的ニ獨ヲ援助スルカ如キ「ゼスチャー」ヲ示  
ス場合ニハ更ニ窮窟且反日的政策ヲ執ルニ至ル可能性ア  
リト豫想セラル從テ獨蘇ニ對スル帝國ノ方針ヲ決定セラ  
ルルニ當リテハ常ニ蘭印ニ對スル影響ヲモ考慮セラレ方  
針御決定後モ情報部發表、新聞論說等ニハ充分ノ手心ト  
統制ヲ加ヘラルル様致度シ尙本官トシテハ蘭印ノ態度ヲ  
出來得ル限り我方ニ有利ニ導ク爲必要アルニ付政府御決  
定事項ハ勿論其ノ後ノ推移ニ付テモ本官限りノ御含ミ迄  
其ノ都度電報方御配慮相煩度

613

昭和16年6月27日

在バタビア石沢総領事より  
松岡外務大臣宛(電報)

### 芳沢代表一行のバタビア出発について

バタビア 6月27日後発

本省 6月27日夜着

會商第二六〇號

往電第二四七號ニ關シ

芳澤全權外隨員九名二十七日午前十時半日昌丸ニテ出發セ  
リ

蘭側ハ儀仗兵百名及軍樂隊ヲ派遣スルト共ニ總督代理  
「モ」長官其他代表部隨員等多數見送アリタリ